

原 遺 跡

県立山田養護学校寄宿舎改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2010.3

高 知 県 教 育 委 員 会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

原 遺 跡

県立山田養護学校寄宿舍改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2010.3

高 知 県 教 育 委 員 会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

今回、県立山田養護学校寄宿舎改築に先立つ発掘調査を実施いたしました香美市土佐山田町山田 1361 所在の原遺跡からは、柱穴・土坑・溝などの遺構が検出され、弥生時代から中世にかけて形成された遺跡であることが確認されました。また、活発な先人の営みが明らかとなり、地域の歴史を探るうえで貴重な資料を得ることができました。

本書は、平成 19 年度と平成 21 年度に行われた発掘調査の成果をまとめたものです。刊行に至るまでに、関係者の皆様方から多大なご協力とご援助をいただきました。発掘調査の遂行に際しては、地元の皆様方から温かいご理解とご協力を賜り、高知県教育委員会総務福利課、高知県土木部建築課、県立山田養護学校、そして香美市の事業関係者各位には、終始全面的なご協力をいただきました。また、梅雨そして寒冷の気候のなか発掘に従事された発掘作業員の皆様、細片の土器を丹念に復元され実測いただいた整理作業員の皆様のご労苦に深く感謝いたします。

埋蔵文化財の発掘調査には、地域の方々のご理解とご協力が必要ですし、地域の文化財として記録保存され、後世へ伝えていくことが私達の務めと考えております。ご理解とご協力をいただきました県民の皆様に厚くお礼申し上げます。

最後に、本書が文化財保護の一助となり、地域の歴史や遺跡の関心を高めることに繋がれば幸いに存じます。

平成 22 年 3 月 30 日

財団法人 高知県文化財団埋蔵文化財センター
所長 小笠原 孝夫

例 言

1. この報告書は、平成 19 年度及び平成 21 年度に実施した県立山田養護学校寄宿舎改築に伴う原遺跡の発掘調査報告書である。平成 21 年度には報告書作成業務も行い、本書を刊行した。
2. 原遺跡は、高知県香美市土佐山田町山田 1361 に所在する。
3. 本書は、調査区を 1～30 区に分けて行われた調査により検出された、弥生時代から中世にかけての遺構・遺物について報告するものである。
4. 調査面積は、全体で 1,144.9㎡であり、内訳は次のとおりである。平成 19 年度は 434.9㎡（1 区 169.2㎡ 2 区 28.8㎡ 3 区 28.8㎡ 4 区 26.8㎡ 5 区 33.1㎡ 6 区 25.6㎡ 7 区 5.6㎡ 8 区 65㎡ 9 区 52㎡）、平成 21 年度は 710㎡（11 区 27㎡ 12 区 24㎡ 13 区 25㎡ 14 区 25㎡ 15 区 27㎡ 16 区 24㎡ 17 区 25㎡ 18 区 25㎡ 19 区 25㎡ 20 区 26㎡ 21 区 26㎡ 22 区 3㎡ 23 区 136㎡ 24 区 43㎡ 25 区 42㎡ 26 区 49㎡ 27 区 26㎡ 28 区 30㎡ 29 区 23㎡ 30 区 28㎡ 既破壊区 51㎡）である。
5. 調査期間は、平成 19 年度調査は平成 19 年 12 月 17 日より平成 20 年 2 月 15 日まで、平成 21 年度調査は平成 21 年 5 月 18 日から平成 21 年 7 月 17 日までである。
6. 発掘調査・整理作業は次の体制で行った。

平成 19 年度

総括：	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長	汲田 幸一
総務：	〃	次長 森田 尚宏
	〃	総務課長 戸梶 友昭
	〃	主任 谷 真理子
調査総括：	〃	調査課長 廣田 佳久
調査担当：	〃	調査第一班長 山本 哲也
	〃	調査第一班契約職員 松本安紀彦
	〃	調査第三班専門調査員 山田 耕造
	〃	測量補助員 入野 裕介

平成 21 年度

総括：	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長	小笠原孝夫
総務：	〃	次長 森田 尚宏
	〃	総務課長 里見 敦典
	〃	主任 弘末 節子
調査総括：	〃	調査課長 廣田 佳久
調査担当：	〃	調査第一班長 山本 哲也
	〃	調査第一班調査員 松本安紀彦
	〃	調査第四班専門調査員 安岡 猛
	〃	測量補助員 公文 美和

7. 本書の第Ⅰ章・第Ⅱ章・第Ⅳ章は松本が執筆し、第Ⅲ章は早田（火山灰考古学研究所）、辻・斉藤・馬場（パリノ・サーヴェイ株式会社）が執筆した。全体編集は松本が行った。
8. 遺構は柱穴（Pit）・土坑（SK）・溝（SD）・性格不明（SX）とし、調査区全体で遺構種を問わず通し番号とした。第Ⅰ期及び第Ⅱ期の調査区全体図は400分の1、各調査区平面図は1区・8区・23区・30区が80分の1である他は40分の1、調査区土層図は40分の1、遺構図及び遺構土層図は20分の1である。尚、全ての図面にはスケールを掲載している。土層図におけるE.P.は東地点、W.P.は西地点、S.P.は南地点、N.P.は北地点を意味する。方位は磁北である。
9. 遺物の縮尺は3分の1であり、挿図にスケールを掲載している。
10. 調査にあたっては、高知県教育委員会総務福利課、高知県庁土木部建築課、高知県立山田養護学校、香美市のご協力を頂いた。また、地域の方々にご理解とご協力を賜った。記して感謝の意を表す。
11. 発掘調査・整理作業は下記の方々に従事していただいた。また、当センターの諸兄からは指導・助言を頂戴した。記して感謝の意を表す。（五十音順）

発掘調査	平成19年度	岩本みかを	久家瑞	高野良夫	田中穰	萩野博行	橋本佐与子
		浜田友喜	久竹孝	吉川誠喜	吉川徳子		
	平成21年度	猪原昭二	大谷美恵子	大原末広	大原猛	梶原敦史	梶原康代
		清藤漣唯	小松喜美	島村孝男	島村信子	沼孝子	山下勝正
整理作業	平成19年度	入野裕介	野村美恵子				
	平成21年度	公文美和	畑平裕美	吉本由佳			
12. 出土遺物は、平成19年度調査を「07 - 14KYH」、平成21年度調査を「09 - 9KH」と注記し、高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

第Ⅰ章 序章	1				
1. 調査に至る経緯	1				
2. 調査の概要	1				
3. 調査の方法	2				
4. 遺跡周辺の地理的歴史的環境	3				
4 - (1) 地理的環境					
4 - (2) 歴史的環境					
第Ⅱ章 調査成果	7				
1. 第1期調査（平成19年度：Fig.5～36）	7				
1 - 1 第1期調査1区	1 - 2 第1期調査2区	1 - 3 第1期調査3区			
1 - 4 第1期調査4区	1 - 5 第1期調査5区	1 - 6 第1期調査6区			
1 - 7 第1期調査7区	1 - 8 第1期調査8区	1 - 9 第1期調査9区			
2. 第2期調査（平成21年度：Fig.37～99）	32				
2 - 1 第2期調査10区	2 - 2 第2期調査11区	2 - 3 第2期調査12区			
2 - 4 第2期調査13区	2 - 5 第2期調査14区	2 - 6 第2期調査15区			
2 - 7 第2期調査16区	2 - 8 第2期調査17区	2 - 9 第2期調査18区			
2 - 10 第2期調査19区	2 - 11 第2期調査20区	2 - 12 第2期調査21区			
2 - 13 第2期調査22区	2 - 14 第2期調査23区	2 - 15 第2期調査24区			
2 - 16 第2期調査25区	2 - 17 第2期調査26区	2 - 18 第2期調査27区			
2 - 19 第2期調査28区	2 - 20 第2期調査29区	2 - 21 第2期調査30区			
第Ⅲ章 自然科学分析	77				
1. 原遺跡（第1期発掘調査）の土層とテフラ	77				
1. はじめに	2. 土層の層序	3. 火山ガラス比分析	4. 屈折率測定	5. 考察	6. まとめ
2. 原遺跡（第1期発掘調査）における植物珪酸体分析	84				
1. はじめに	2. 試料	3. 分析法	4. 分析結果		
5. 植物珪酸体分析から推定される植生環境と土地利用	6. まとめ				
3. 原遺跡（第2期発掘調査）における自然科学分析	91				
はじめに	1. 試料	2. 分析方法	3. 結果	4. 考察	
第Ⅳ章 考察	101				
1. 遺跡の立地と調査成果	2. 出土遺物の検討	3. まとめ			

插图・表・写真目次

Fig.1	原遺跡位置図	1
Fig.2	原遺跡調査区位置図	2
Fig.3	原遺跡平成 18 年度試掘調査土層柱状図	3
Fig.4	原遺跡周辺遺跡分布図	5
Fig.5	原遺跡第 1 期調査（平成 19 年度）調査区全体図	7
Fig.6	原遺跡第 1 期調査 1 区北壁土層図	8
Fig.7	原遺跡第 1 期調査 1 区平面図	9・10
Fig.8	原遺跡第 1 期調査 1 区東壁土層図	11
Fig.9	原遺跡第 1 期調査 1 区出土遺物図 1.....	13
Fig.10	原遺跡第 1 期調査 1 区出土遺物図 2.....	14
Fig.11	原遺跡第 1 期調査 2 区平面図	15
Fig.12	原遺跡第 1 期調査 2 区 Pit4 出土遺物図	15
Fig.13	原遺跡第 1 期調査 3 区 9 層中上面平面図	16
Fig.14	原遺跡第 1 期調査 3 区 9 層中上面検出 Pit9・10 土層図	17
Fig.15	原遺跡第 1 期調査 3 区 13 層上面平面図	17
Fig.16	原遺跡第 1 期調査 4 区 13 層上面平面図	18
Fig.17	原遺跡第 1 期調査 5 区 SD34 土層図	19
Fig.18	原遺跡第 1 期調査 5 区 SD34 ①断面及び出土遺物図	19
Fig.19	原遺跡第 1 期調査 5 区 SD34 ①平面図	20
Fig.20	原遺跡第 1 期調査 5 区 SD34 ②平面図	21
Fig.21	原遺跡第 1 期調査 5 区 SD34 ②断面及び出土遺物図	22
Fig.22	原遺跡第 1 期調査 5 区 SD34 ③断面及び出土遺物図	22
Fig.23	原遺跡第 1 期調査 5 区 SD34 ③平面図	23
Fig.24	原遺跡第 1 期調査 6 区 SD35 平面図	24
Fig.25	原遺跡第 1 期調査 6 区 SD35 土層図	25
Fig.26	原遺跡第 1 期調査 6 区 SD35 断面及び出土遺物図	25
Fig.27	原遺跡第 1 期調査 7 区東壁土層図	26
Fig.28	原遺跡第 1 期調査 7 区平面図	26
Fig.29	原遺跡第 1 期調査 7 区 Pit36 遺構図	26
Fig.30	原遺跡第 1 期調査 7 区出土遺物図	27
Fig.31	原遺跡第 1 期調査 8 区西壁土層図	27
Fig.32	原遺跡第 1 期調査 8 区北壁土層図	28
Fig.33	原遺跡第 1 期調査 8 区平面図	29
Fig.34	原遺跡第 1 期調査 8 区出土遺物図	29
Fig.35	原遺跡第 1 期調査 9 区出土遺物図	30

Fig.36	原遺跡第1期調査9区北壁土層図	31
Fig.37	原遺跡第2期調査(平成21年度)調査区全体図	32
Fig.38	原遺跡第2期調査10区平面図	33
Fig.39	原遺跡第2期調査10区東壁土層図	34
Fig.40	原遺跡第2期調査10区出土遺物図	34
Fig.41	原遺跡第2期調査11区平面図	35
Fig.42	原遺跡第2期調査11区出土遺物図	35
Fig.43	原遺跡第2期調査12区平面図	36
Fig.44	原遺跡第2期調査12区出土遺物図	36
Fig.45	原遺跡第2期調査13区平面図	37
Fig.46	原遺跡第2期調査13区 Pit37 遺構及び出土遺物図	38
Fig.47	原遺跡第2期調査13区 SK36 遺構及び出土遺物図	38
Fig.48	原遺跡第2期調査13区 SK39 遺構及び出土遺物図	39
Fig.49	原遺跡第2期調査13区出土遺物図	40
Fig.50	原遺跡第2期調査14区平面図	40
Fig.51	原遺跡第2期調査14区出土遺物図	41
Fig.52	原遺跡第2期調査15区平面図	42
Fig.53	原遺跡第2期調査15区出土遺物図	43
Fig.54	原遺跡第2期調査16区出土遺物図	43
Fig.55	原遺跡第2期調査16区平面図	44
Fig.56	原遺跡第2期調査17区平面図	45
Fig.57	原遺跡第2期調査17区 Pit91 遺構及び出土遺物図	46
Fig.58	原遺跡第2期調査17区出土遺物図	46
Fig.59	原遺跡第2期調査18区平面図	47
Fig.60	原遺跡第2期調査18区 Pit78 遺構及び出土遺物図	48
Fig.61	原遺跡第2期調査18区 SK81 遺構及び出土遺物図	48
Fig.62	原遺跡第2期調査18区出土遺物図	48
Fig.63	原遺跡第2期調査19区平面図	49
Fig.64	原遺跡第2期調査19区 Pit103 遺構及び出土遺物図	50
Fig.65	原遺跡第2期調査19区出土遺物図	50
Fig.66	原遺跡第2期調査20区平面図	51
Fig.67	原遺跡第2期調査20区 Pit125 遺構及び出土遺物図	52
Fig.68	原遺跡第2期調査20区 Pit129 遺構及び出土遺物図	52
Fig.69	原遺跡第2期調査20区出土遺物図	52
Fig.70	原遺跡第2期調査21区平面図	53
Fig.71	原遺跡第2期調査21区出土遺物図	54
Fig.72	原遺跡第2期調査22区平面図	54
Fig.73	原遺跡第2期調査22区南壁・西壁土層図	54

Fig.74	原遺跡第2期調査22区出土遺物図	54
Fig.75	原遺跡第2期調査23区平面図	55・56
Fig.76	原遺跡第2期調査23区出土遺物図	57
Fig.77	原遺跡第2期調査24区西壁・北壁土層図	57
Fig.78	原遺跡第2期調査24区南壁及び中央バンク土層図	58
Fig.79	原遺跡第2期調査24区平面図	59
Fig.80	原遺跡第2期調査24区出土遺物図	59
Fig.81	原遺跡第2期調査25区西壁土層図	60
Fig.82	原遺跡第2期調査25区平面図	61・62
Fig.83	原遺跡第2期調査25区 Pit163 遺構及び出土遺物図	63
Fig.84	原遺跡第2期調査25区 SK160 遺構及び出土遺物図	63
Fig.85	原遺跡第2期調査25区 SK161 遺構及び出土遺物図	64
Fig.86	原遺跡第2期調査25区 SK164 遺構及び出土遺物図	64
Fig.87	原遺跡第2期調査25区 SK165 遺構及び出土遺物図	65
Fig.88	原遺跡第2期調査25区 SD176 遺構及び出土遺物図	65
Fig.89	原遺跡第2期調査25区出土遺物図	66
Fig.90	原遺跡第2期調査26区平面図	67・68
Fig.91	原遺跡第2期調査26区 SX170 遺構及び出土遺物図	69
Fig.92	原遺跡第2期調査27区平面図	70
Fig.93	原遺跡第2期調査27区西壁土層図	71
Fig.94	原遺跡第2期調査28区平面図	72
Fig.95	原遺跡第2期調査28区出土遺物図	73
Fig.96	原遺跡第2期調査29区平面図及び出土遺物図	73
Fig.97	原遺跡第2期調査30区平面図	74
Fig.98	原遺跡第2期調査30区南壁土層図	75
Fig.99	原遺跡第2期調査30区出土遺物図	76
図1.	調査区北壁の土層柱状図	81
図2.	調査区北壁の火山ガラス比ダイヤグラム	81
図3.	高知県原遺跡調査区北壁西地点における植物珪酸体分析結果	88
図4.	高知県原遺跡調査区北壁東地点における植物珪酸体分析結果	89
図5.	試料採取地点の柱状図	91
図6.	原遺跡（第2期調査）植物珪酸体含量の層位的変化と珪化組織片の産状	93
図7.	原遺跡（第2期調査）粒径頻度分布	94
図8.	原遺跡（第2期調査）粒度分析結果三角ダイヤグラム	95
図9.	原遺跡（第2期調査）粒度分析および植物珪酸体分析結果	95
図10.	香長平野の地形と遺跡の立地	96
図11.	原遺跡の調査区における堆積層累重状況	99
表1.	原遺跡における火山ガラス比分析結果	82

表 2. 原遺跡における屈折率測定結果	82
表 3. 高知県原遺跡における植物珪酸体分析結果	87
表 4. 原遺跡（第 2 期調査）植物珪酸体含量	93
表 5. 原遺跡（第 2 期調査）粒度分析結果	94
表 6. 原遺跡（第 2 期調査）土壤理化学分析結果	95
写真 1. 調査区北壁（試料採取前）	82
写真 2. 調査区北壁（試料採取後）	82
写真 3. 調査区北壁西地点の試料採取層位	83
写真 4. 調査区北壁東地点の試料採取層位	83
写真 5. 調査区北壁西地点試料 24.....	83
写真 6. 調査区北壁西地点試料 24.....	83
写真 7. 調査区北壁西地点試料 24.....	83
写真 8. 調査区北壁西地点試料 24.....	83
原遺跡平成 19 年度調査 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真	90
原遺跡平成 21 年度調査 植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真	100

写 真 図 版

PL.1 第 1 期調査 1 区柱穴列完掘（東より）	
PL.2 第 1 期調査 1 区完掘（南より）	第 1 期調査 1 区北壁土層（東より）
	第 1 期調査 1 区北壁土層（西より）
	第 1 期調査 1 区東壁土層
	第 1 期調査 1 区柱穴列東端
	第 1 期調査 1 区柱穴列西端
	第 1 期調査 2 区完掘（北より）
	第 1 期調査 3 区 9 層中検出遺構完掘（北より）
PL.3 第 1 期調査 3 区 9 層中検出 Pit9 土層	第 1 期調査 3 区 9 層中検出 Pit10 土層
	第 1 期調査 3 区 13 層上面検出遺構完掘（北より）
	第 1 期調査 4 区検出遺構完掘（西より）
	第 1 期調査 5 区 SD34 土層
	第 1 期調査 5 区 SD34 ①完掘
	第 1 期調査 5 区 SD34 ②完掘
	第 1 期調査 5 区 SD34 ③完掘
PL.4 第 1 期調査 6 区 SD35 土層	第 1 期調査 6 区 SD35 完掘
	第 1 期調査 7 区完掘（南より）
	第 1 期調査 7 区東壁土層
	第 1 期調査 7 区 Pit36 礫出土状況（北より）
	第 1 期調査 8 区西壁土層
	第 1 期調査 8 区北壁土層
	第 1 期調査 8 区北壁土層中央
PL.5 第 1 期調査 8 区完掘（西より）	
PL.6 第 1 期調査 9 区北壁土層	第 1 期調査 9 区北壁土層中央
	第 2 期調査調査前風景 1
	第 2 期調査調査前風景 2
	第 2 期調査 10 区完掘（西より）
	第 2 期調査 11 区完掘（西より）
	第 2 期調査 12 区完掘（南より）
	第 2 期調査 13 区完掘（北より）
PL.7 第 2 期調査 14 区完掘（西より）	第 2 期調査 15 区完掘（西より）

- 第2期調査 16区完掘（北より） 第2期調査 17区完掘（北より）
 第2期調査 18区完掘（北より） 第2期調査 19区完掘（北より）
 第2期調査 20区完掘（西より） 第2期調査 21区完掘（西より）
 PL.8 第2期調査 22区完掘（南より） 第2期調査 23区完掘（東より）
 第2期調査 23 拡張区完掘（東より） 第2期調査 23区検出遺構（西より）
 第2期調査 24区完掘（南より） 第2期調査 25区西壁土層
 第2期調査 26区完掘（東より） 第2期調査 26区 SX170 完掘
- PL.9 第2期調査 25区完掘（北より）
- PL.10 第2期調査 26区遺物番号 160 出土状況 第2期調査 27区完掘（北より）
 第2期調査 27区西壁土層 第2期調査 28区完掘（西より）
 第2期調査 29区完掘（南より） 第2期調査 29区遺物番号 164 出土状況
 第2期調査 30区完掘（北より） 第2期調査 30 拡張区完掘（北より）
- PL.11 9区5層出土遺物（67），26区 SX170 出土遺物（160）
- PL.12 1区 Pit62（1），5層（2・3），1層（4～10）出土遺物 表・裏
 1区1層（11～20）出土遺物 表・裏
 1区1層・表採（21～30）出土遺物 表・裏
 1区1層（31～38），2区 Pit4（39）出土遺物 表・裏
- PL.13 5区 SD34①（40～42），②（43・44），③（45），6区 SD35（46）出土遺物 表・裏
 7区4層（47～53），8区5層（54～56），1層（57）出土遺物 表・裏
 9区5層（58～66・68・69），1層（70）出土遺物 表・裏
 10区3層（71～73），表採（74），11区3層（75），表土・表採（76・77），12区3層（78）
 13区 Pit37（79・80），SK36（81）出土遺物 表・裏
- PL.14 13区 SK39（82～90），3層（91・92），表土（93）出土遺物 表・裏
 14区3層（94～101）出土遺物 表・裏
 14区3層（102～107），表採・攪乱（108～112）出土遺物 表・裏
 15区3層（113～115），表採（116～118）出土遺物 表・裏
- PL.15 16区3層（119～121），表採（122），17区 Pit91（123），3層（124～126）出土遺物
 表・裏
 18区 Pit78（127），SK81（128），表採（129），19区 Pit103（130），3層（131・132）出土
 遺物 表・裏
 20区 Pit125（133），Pit129（134），3層（135・136），21区3層（137～141），22区3層（142）
 23区表土（143），24区3層（144）出土遺物 表・裏
 25区 Pit163（145），SK160（146），SK161（147・148）出土遺物 表・裏
- PL.16 25区 SK164（149～152），SK165（153），SD176（154）出土遺物 表・裏
 25区2層（155），3層（156・157），西壁 TR（158・159），28区3層（161），表採・攪乱（162・
 163）出土遺物 表・裏
 29区3層（164），30区3層（165～170）出土遺物 表・裏

第1章 序章

1. 調査に至る経緯

高知県香美市土佐山田町山田 1361 において高知県教育委員会が進めている県立山田養護学校寄宿舎改築に先立ち、平成 18 年度に開発事業との調整を目的とする試掘確認調査を高知県教育委員会文化財課が行った。その結果、出土遺物及び遺構が確認されたため、寄宿舎建築により影響を受ける範囲について記録を作成し、保存する必要が生じた。

平成 19 年度と平成 21 年度に高知県教育委員会と財団法人高知県文化財団との間に業務委託契約が締結され、埋蔵文化財センターが本発掘調査を行ったうえで出土遺物等の整理作業を行い、遺構・遺物の記録保存を図ることとなった。平成 19 年度は第 1 期調査（以下、平成 19 年度調査を第 1 期調査とする。）であり、寄宿舎男子棟建築予定地の調査を行った。平成 21 年度は第 2 期調査（以下、平成 21 年度調査を第 2 期調査とする。）であり、寄宿舎女子棟建築予定地の調査を行い、第 1 期調査・第 2 期調査で得られた成果と資料を報告書としてまとめる作業を進めて、本書刊行に至る。

2. 調査の概要

試掘確認調査では古代から中世の遺物の出土が見られ、遺構と考えられる平面プランが検出されている。調査で得られた出土資料の検討により、古代から中世の集落遺跡として考えられた。

第 1 期調査では、土地区画の機能を有する柵列と考えられる柱穴群や、改修の可能性が考えられる溝跡などが検出された。第 1 期調査地より南に位置する第 2 期調査地では、前回調査を上回る数の柱穴や土坑が検出され、出土した遺物量も多かった。よって、第 1 期調査地より第 2 期調査地点

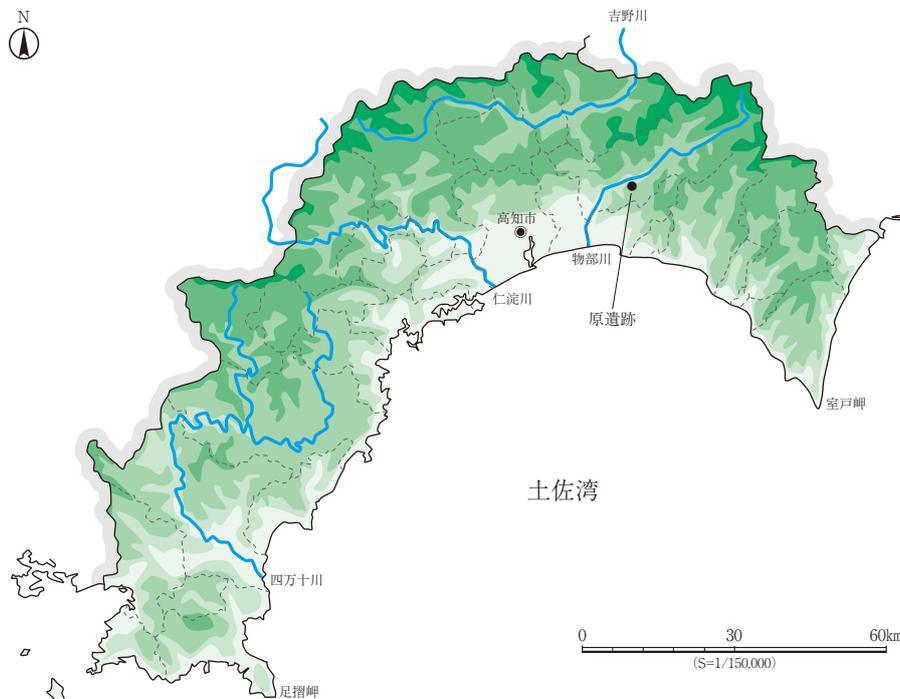


Fig.1 原遺跡位置図

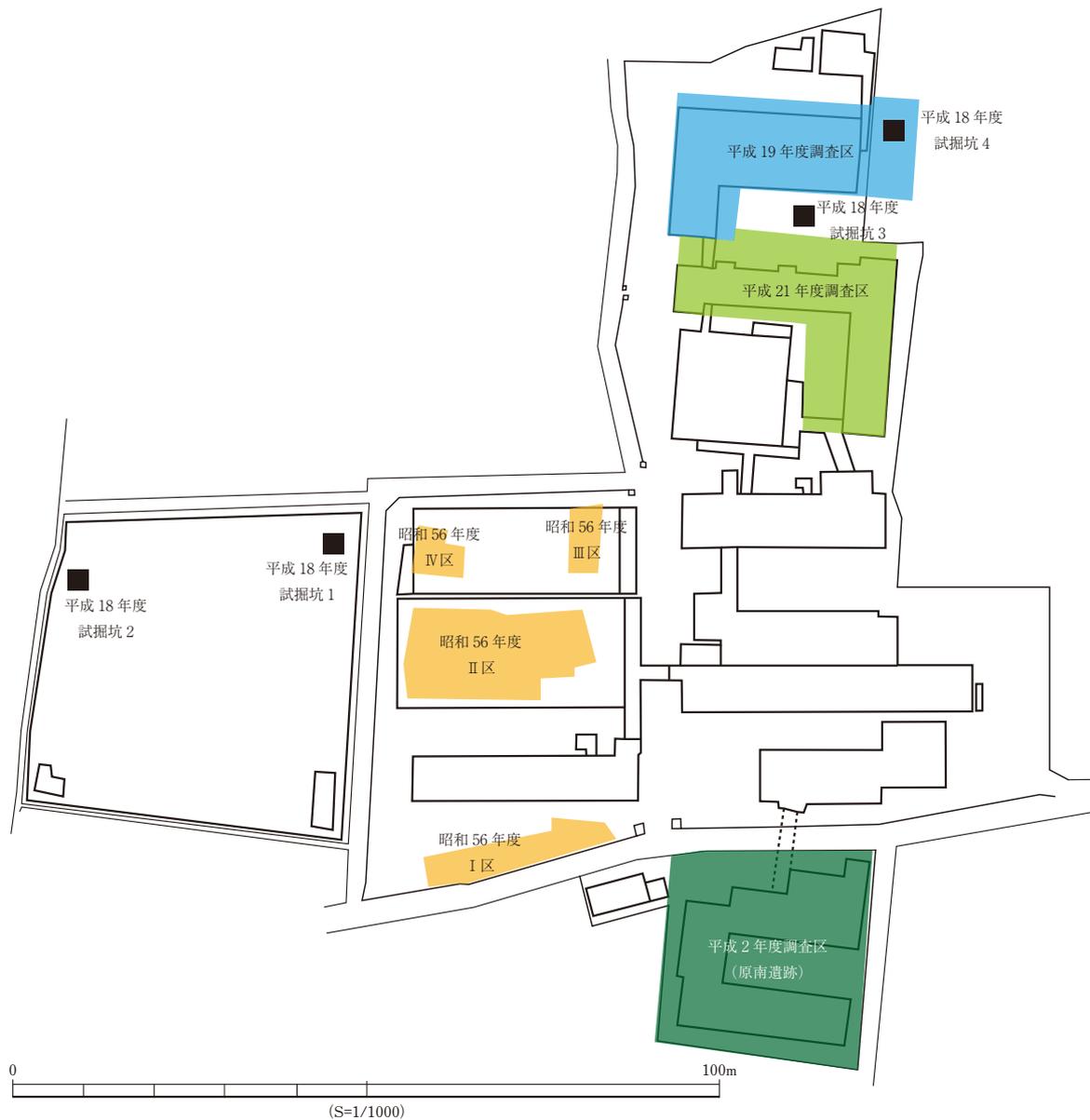


Fig.2 原遺跡調査区位置図

において、活発な土地活用が行われたことがうかがい知れる。このことは、第1期調査において検出された柵列と考えられる柱穴群に土地区画の機能を持たせる意味で示唆的である。

調査で得られた遺構及び出土遺物等の資料検討の結果、古代後半から中世にかけて土地を区画して利用する活動が行われ、その土地区画は調査対象地の外へ広がる可能性が指摘できる。

3. 調査の方法

調査対象地においては、旧寄宿舎のコンクリート基礎が地中に残された状態であった。その撤去によって、遺跡が破壊される危険性が考えられたからである。そのため、基礎と基礎の間を一つの

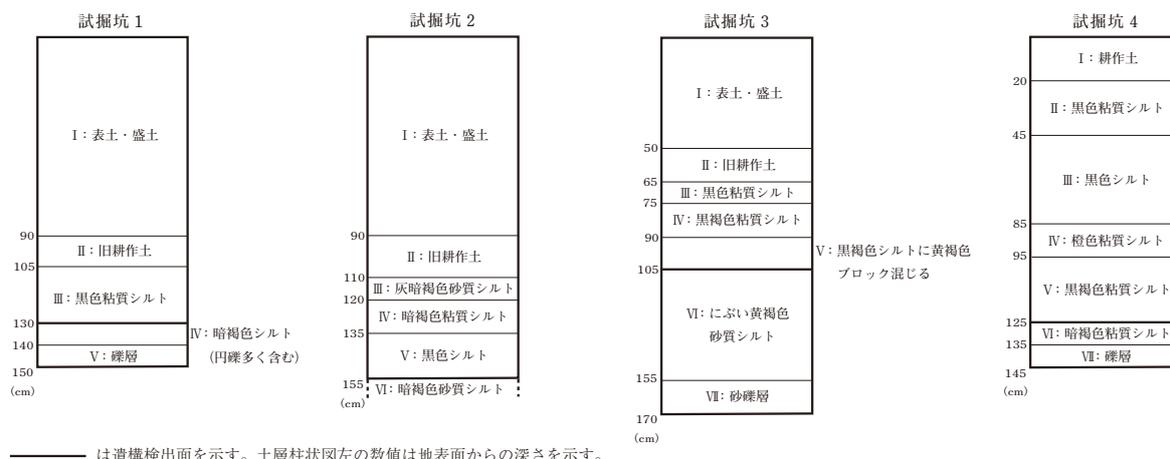


Fig.3 原遺跡平成 18 年度試掘調査土層柱状図

調査区と見立て、平成 19 年度調査は 1～9 区、平成 21 年度調査は 10～30 区を設定して調査を進めた。尚、教育施設の敷地内であることから児童・生徒と教職員の安全と地域の安全を鑑み、排土を調査対象地内で処理する必要があったため、排土置き場を一箇所に定めることが出来なかった。よって、各調査区は飛び地状になっている。

測量については、世界測地系第 4 座標系（IV 系）の原点（北緯 33° 東経 133° 33'）に基づいた座標値を使用した。それを基に X=66588 Y=17736 を基点（北緯 33° 36' 1" 東経 133° 41' 28" 真北方向角 - 0° 6' 21"）とし、4m グリッドを組んだ。それに基づき平面図を作成し、各調査区毎に遺物をまとめて取上げた。また、重要な遺物については、平面図において出土地点を記録している。尚、遺構図には座標値を標記した。

堆積層の掘削は、表土及び下層確認については機械で行い、遺物包含層掘削並びに遺構検出は人力で行った。また、遺構等の測量は全て人力で行った。そして、遺跡の成り立ちや土地利用の状況を解き明かすために、地質学・土壌学の観点から分析を行っている。

4. 遺跡周辺の地理的歴史的環境

4-1(1) 地理的環境

原遺跡が所在する香美市土佐山田町は、その中心を高知県庁から東へ約 15.5km、北緯 33° 36' 14" 東経 133° 41' 10" の地点に置く。平成 18 年 2 月まで町政が敷かれていたが、平成 18 年 3 月に香北町・物部村との市町村合併により市政となった。JR 土讃線の駅を唯一有しており、市行政の中心地である。市域面積は 538km²であり、山林がその 9 割を占め、市域を物部川が貫流する。

物部川は、白髪山にその源を発する県第 3 位の一級河川であって、上流域及び中流域において急峻な山地を縫うように南西に流れている。とりわけ香北町域において、左岸を中心に河岸段丘を発達させており、それらには幾つもの谷筋が刻まれている。物部川は土佐山田町神母木において南に流れを変え、扇状地を形成しながら香長平野を潤し、太平洋に注ぎ込む。この川の流れを遡る道は、古来より阿波への最短ルートとされている。

当遺跡の所在する土佐山田町山田 1361 は、長岡台地縁辺部の物部川が形成した開析扇状地上に立地しており、遺跡の標高はおおよそ 33.5m を測る。

4-(2) 歴史的環境

香美市では土佐山田町西谷遺跡（中山 2000）においてチャート製ナイフ形石器が出土しており、後期旧石器時代より人類の活動が見られる。

縄文時代で最も古いのは早期であり、香北町刈谷我野遺跡（香北町教委 2005、香美市教委 2007）・土佐山田町開キ丸遺跡（土佐山田町教委 2002）では早期前半に帰属する無文土器と山形文を主体とする押型文土器が出土している。土佐山田町飼古屋岩陰遺跡（高知県教委 1983）も同じ時期の岩陰遺跡であるのに対して、刈谷我野遺跡・開キ丸遺跡はオープンサイトであり、両遺跡の有り様を分析することは、初期定住の様相を復元する一つの方法となろう。前期の遺跡は確認されておらず、中期から後期においては飼古屋岩陰遺跡で包含層から中期前半と後期初頭の土器が確認されているものの、遺構出土のものは林田シタノヂ遺跡（土佐山田町教委 1993）において中期末の深鉢が土坑より出土しているだけである。これらは底部が欠損するものの、遺存状態が比較的良好であるために、埋納された可能性が考えられる。晩期については香北町美良布遺跡（香北町教委 1991、松本 2008）で晩期中葉の遺構と遺物が、新改小山田遺跡（土佐山田町教委 2002）で晩期後半の遺物が確認されている。

弥生時代で最も古い遺跡は、前期に帰属する香北町美良布遺跡と仁井田遺跡（香北町教委 2006）である。仁井田遺跡では貯蔵穴の可能性のある土坑が検出されている。前期の遠賀川式土器と凸帯文土器が出土しており、田村遺跡群外帯に見られる縄文と弥生それぞれの要素が交錯する様相を考える上で興味深い資料である。中期とりわけ後半以降になって土佐山田町域にも弥生集落が営まれ始め、龍河洞遺跡（高知県教委 1959）が国指定史跡天然記念物として知られる。長岡台地上では、ひびのき遺跡（土佐山田町教委 1977）・ひびのきサウジ遺跡（土佐山田町教委 1990）が後期から古墳時代にかけての標識遺跡となっており、当時の集落を復元する上で重要な遺跡である。長岡台地縁辺部では、今回調査が行われた原遺跡が知られている（高知県教委 1982・1984）。昭和 56 年度に高等部校舎の建築に伴う発掘調査が行われ、弥生時代中期の溝と古墳時代後期の土坑と柱穴などが検出されている。昭和 57 年度には体育館の建築に伴う発掘調査が行われ、弥生時代中期の遺物包含層や古代から中世にかけての柱穴や溝状遺構が検出されている。遺跡南には原南遺跡（高知県文化財団 1991）が所在しており、中期の竪穴住居と溝の他、後期の溝が検出されている。これら一連の調査は、長岡台地縁辺部とりわけ南側の扇状地における埋蔵文化財包蔵地つまり遺跡の存在を認識する上で重大な契機であったと言えよう。

古墳時代は、須恵質の円筒埴輪を有した 5～6 世紀の伏原大塚古墳（土佐山田町教委 1993）が有名である。そして、土佐山田町北部の山麓を中心に後期古墳の存在が知られており、近年は大元神社古墳（高知大考研 2008）の調査が行われ、後期古墳の一端が明らかにされた。

古代から中世にかけては新改に須恵器・瓦の製作を目的とする窯が築かれており、そこから西へ約 2km 離れた所には国府や国分寺・比江廃寺が存在する。両者には、密接な関係が想定される。原遺跡の昭和の調査において、古墳時代から鎌倉時代にかけての遺構が数多く検出されていることから、長期間にわたる集落が形成されていたことが指摘されており、今回の調査でも同時期の遺構・遺物が確認できたため、その指摘を補強する資料を提示した。当時の政治と経済の中心は国府とその周辺が中心であったと考えられるが、そういった活動の元となる人々の生活がどのようなものであったのかという問題意識は、当時の政治経済システムを復元する上で重要な視点である。



- | | | | | | |
|--------------|---------------|------------|--------------|-----------|-----------|
| 1-浜道の西遺跡 | 2-山田三ツ又遺跡 | 3-山田三ツ又東遺跡 | 4-谷重遠邸跡 | 5-公儀の井戸1 | 6-公儀の井戸2 |
| 7-八王子西古墳 | 8-メウカイ遺跡 | 9-長谷川丸遺跡 | 10-伏原遺跡 | 11-鏡野学園古墳 | 12-小倉山古墳 |
| 13-ひびのきサウジ遺跡 | 14-ひびのき岡の神母遺跡 | 15-楠目城跡 | 16-ひびのき大河内遺跡 | 17-ひびのき遺跡 | 18-田所神社遺跡 |
| 19-横田遺跡 | 20-南森城跡 | 21-伏原大塚古墳 | 22-大塚遺跡 | 23-楠目遺跡 | 24-大西土居遺跡 |
| 25-前ノ芝遺跡 | 26-郷本遺跡 | 27-稲荷前遺跡 | 28-古市北遺跡 | 29-古市西遺跡 | 30-原遺跡 |
| 31-原南遺跡 | 32-高柳遺跡 | 33-高柳土居城跡 | 34-時久遺跡 | 35-ツ橋遺跡 | 36-西佐古遺跡 |
| 37-ヤイダ遺跡 | 38-大領遺跡 | 39-下門田遺跡 | 40-神通寺遺跡 | 41-口戸遺跡 | 42-東時光石遺跡 |
| 43-野々下遺跡 | 44-クロアイ遺跡 | 45-下野遺跡 | 46-坂西遺跡 | 47-松原丸遺跡 | 48-黒土遺跡 |
| 49-中井ノ北遺跡 | 50-東白井遺跡 | 51-新野遺跡 | | | |

Fig.4 原遺跡周辺遺跡分布図

中世末においては、「土佐七雄」に数えられる山田氏が楠目の山田城を本拠に支配を行うが、後に土佐統一と四国平定を行うことになる長宗我部氏に滅ぼされた。

近世になると、関ヶ原の戦いの後に長宗我部氏は滅亡し、山内氏の支配が確立する。18世紀初頭には、野中兼山により物部川に山田堰が築かれ、舟入川等の三用水の敷設により長岡台地の開発が進む。彼の行った開発は物部川だけでなく仁淀川でも行われ、その結果開発された土地の石高は7万石にも及ぶとされる。その後、長岡台地とその縁辺部は、高知城下への生産物供給地としての役割を果たした。

そして近代においては、太平洋戦争末期に帝国陸軍第55軍司令部が土佐山田町新改に設置されている。これは連合軍の本土上陸に備え、四国防衛を目的としたものである。近年明らかになってきている山に築かれた壕や砲台、そして海浜部のトーチカといった戦争遺跡の存在は、戦争末期において大本営が連合軍の本土上陸を真剣に阻止しようとしたことを示すものである。

このように長岡台地とその縁辺部には数多くの遺跡や史跡が存在している。これらについての記録や記述を行うことにより、地域の歴史を形あるものとして残し、先に活かし、次の世代に引き継ぐことが可能となる。

文献名

- 中山泰宏 2000 「土佐山田町における考古学の成果と課題（Ⅳ）」『土佐山田史談』25号 土佐山田史談会 52 - 64 頁
- 松本安紀彦 2008 「高知県における縄文時代晩期の土器編年」『文化財学としての考古学：泉拓良先生還暦記念論文集』
173 - 190 頁
- 高知県教育委員会 1959 『龍河洞』
- 土佐山田町教育委員会 1977 『ひびのき遺跡』
- 高知県教育委員会 1982 『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 - 原遺跡 -』
- 高知県教育委員会 1983 『飼古屋岩陰遺跡』
- 高知県教育委員会 1984 『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 - 原遺跡Ⅱ -』
高知県文化財調査報告書第 25 集
- 土佐山田町教育委員会 1990 『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』 土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第 8 集
- 高知県文化財団 1991 『高知県土佐山田町 原南遺跡発掘調査報告書』
- 香北町教育委員会 1991 『美良布遺跡』 香北町埋蔵文化財発掘調査報告書第 2 集
- 土佐山田町教育委員会 1993 『伏原大塚古墳』 土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第 14 集
- 土佐山田町教育委員会 1993 『林田シタノヂ遺跡Ⅱ』 土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第 15 集
- 土佐山田町教育委員会 2002 『新改小山田遺跡』 土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第 30 集
- 土佐山田町教育委員会 2002 『開キ丸遺跡』 土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第 32 集
- 香北町教育委員会 2005 『刈谷我野遺跡Ⅰ』 香北町埋蔵文化財調査報告書第 3 集
- 香北町教育委員会 2006 『仁井田遺跡』 香北町埋蔵文化財調査報告書第 4 集
- 香美市教育委員会 2007 『刈谷我野遺跡Ⅱ』 香美市文化財調査報告書第 1 輯
- 高知大学人文学部考古学研究室 2008 『大元神社古墳発掘調査報告書 - 総括編 -』 高知大学考古学調査研究報告第 5 冊

第Ⅱ章 調査成果

1. 第1期調査（平成19年度：Fig.5）

寄宿舎改築に際しては、旧寄宿舎男子棟・女子棟をそれぞれ個別に解体し、建築を進める事業計画が策定されていた。平成19年度においては旧寄宿舎男子棟の解体を行い、建築に向けた整地を行う計画であった。棟地上部分を撤去した後に発掘調査を行い、調査終了後に基礎を撤去する計画であったため、平成19年12月17日から平成20年2月15日まで調査を行った。調査区は全てで9区設定し、調査面積は434.9㎡である。

調査区の設定は、旧寄宿舎の基礎の区画を一つの単位とした。基礎内は、旧寄宿舎建築やそれに遡る開発行為のために大きく攪乱されている箇所、そして遺物包含層と遺構検出が出来るレベルの自然堆積層が残されていない箇所が多く、その地点については重機で深掘りを行い、遺構・遺物の有無を確認するにとどめた。遺構・遺物の存在が予想される調査区及び遺物が得られた調査区については、表土及び無遺物層を重機で掘削した後に遺構の検出と遺物の取り上げに努めた。

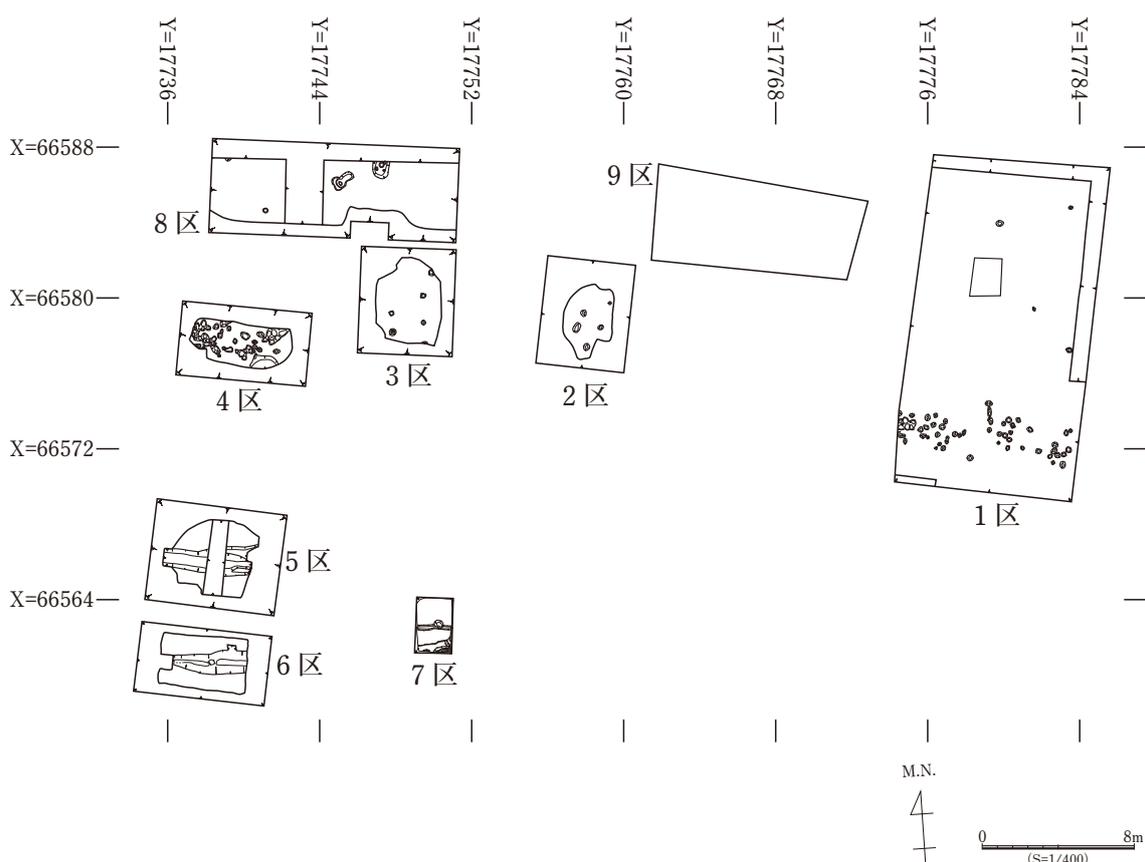


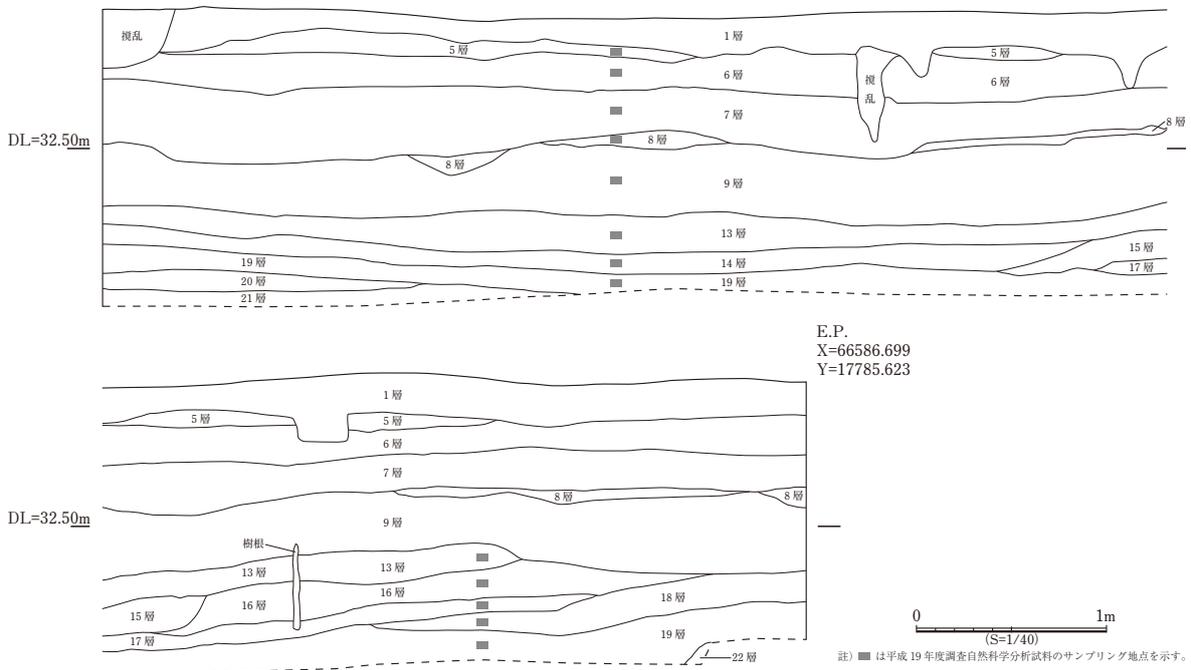
Fig.5 原遺跡第1期調査（平成19年度）調査区全体図

1-1 第1期調査1区 (Fig.6～10：遺物番号1～38)

調査対象地でもっとも広い面積を有する。調査着手前の地形は平坦であり、畑地として利用されていた。調査を進めた結果、東壁の堆積状況より基本的には平坦な地形であるものの、調査区北端において北向きに下がっていくことが判明した。また、北壁の堆積状況より、土層中央部において緩やかに凹み、そこから東西方向に緩やかに上がっていくことが判明しており、そこでは黒ボクの堆積が厚い。そのため、過去においては窪地状の地形であった可能性が考えられる。

調査は、1層を重機で除去した後、遺物包含層及び遺構検出を人力で行うことより始めた。その後、調査区北端と東端に堆積状況を確認するためのトレンチを掘削し、その結果5層が遺物包含層であることが判明した。しかし層厚は薄く、調査区全体に広がるものではなく貧弱なものであった。尚、調査区北壁で火山灰同定と植物珪酸体分析を行っている。

W.P.
X=66587.499
Y=17776.263



原遺跡1区東壁土層注記

1層	表土 (明黄褐色 2.5Y7/6)	
5層	微粒砂混粘土層 (暗オリーブ褐色 2.5Y3/3)	しまり良。粘性弱い。遺物包含層。黒ボクを基調とする堆積層。
6層	微粒砂混粘土層 (暗オリーブ褐色 2.5Y3/3)	しまり不良。粘性やや強い。黒ボクを基調とする堆積層。弥生土器と思われる極小片を極僅かに含む。
7層	粘土層 (黒色 2.5Y2/1)	しまり不良。粘性やや強い。黒ボクを基調とする堆積層。
8層	粘土層 (明赤褐色 2.5YR5/6)	しまり極めて不良。粘性弱い。黒ボクを基調とする堆積層。13層を縞状ないしはブロック状に含む。
9層	粘土層 (黒色 2.5Y2/1)	しまり不良。粘性弱い。黒ボクを基調とする堆積層。7・8層に比べて、やや褐色が強い。
13層	シルト層 (明赤褐色 5YR5/6)	しまりやや良。粘性無し。比較的純粋なアカホヤ堆積層。
14層	シルト層 (赤灰色 2.5YR4/1)	しまり良。粘性弱い。
15層	シルト層 (灰褐色 7.5YR4/2)	しまり良。粘性弱い。17層と類似するが、やや黒色が強い。
16層	シルト層 (褐灰色 7.5YR4/1)	しまり良。粘性弱い。17層と類似するが、やや赤色が強い。
17層	シルト層 (黒褐色 10YR3/1)	しまり良。粘性弱い。
18層	砂層 (黄灰色 2.5Y4/1)	しまり良。粘性弱い。
19層	シルト層 (にぶい赤褐色 5YR5/3)	しまり良。粘性弱い。
20層	シルト層 (黒褐色 2.5Y3/1)	しまり良。粘性弱い。
21層	砂礫混シルト層 (褐灰色 7.5YR4/1)	しまり良。粘性弱い。5～10mm 大の砂礫を含む。
22層	砂層 (にぶい黄色 2.5Y6/3)	しまり良。粘性無し。

Fig.6 原遺跡第1期調査1区北壁土層図

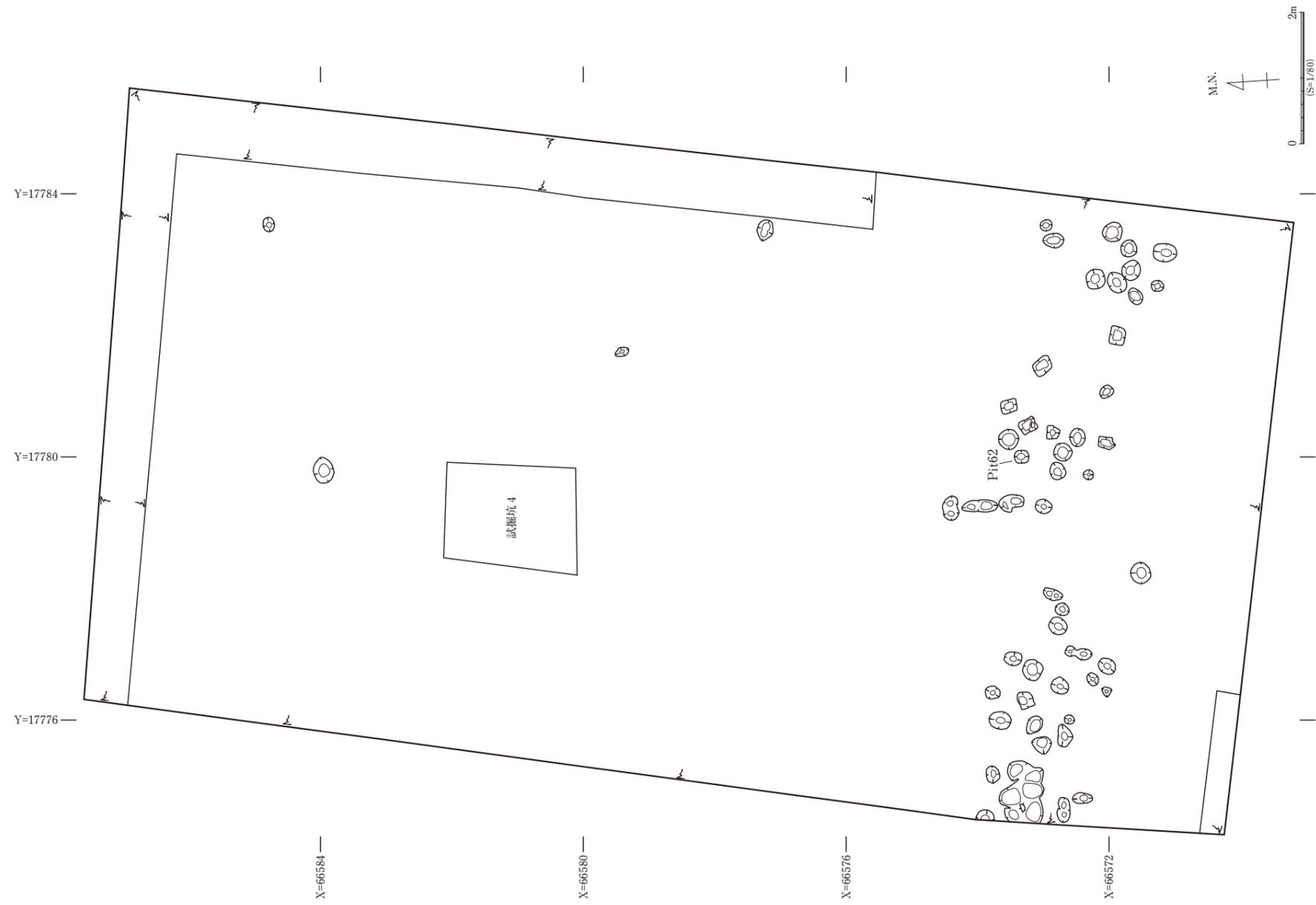


Fig.7 原遺跡第1期調査1区平面図

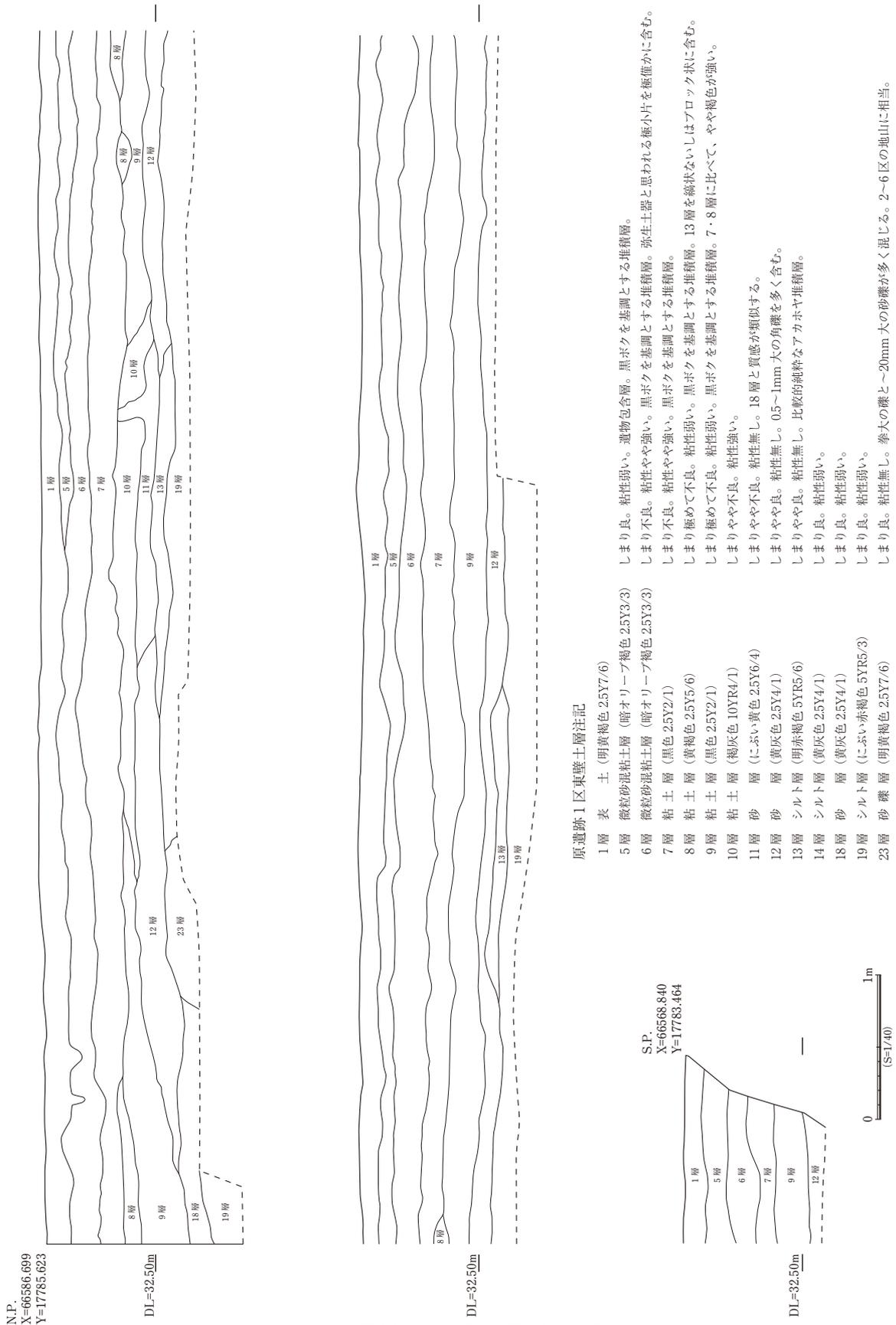


Fig.8 原遺跡第1期調査1区東壁土層図

5層上面では遺構が検出されなかったため5層を人力で掘削し、その後6層とそれと同じレベルの堆積層上面で遺構検出を試みたが、遺構は認められなかった。

6層から10層までは黒ボクを含む粘土層であり、試掘調査の結果と調査区北端と東端に設定したトレンチ掘削により、遺物の出土及び遺構の検出が認められなかったことから、6層から10層を重機で除去した面で遺構検出を試みることにした。しかし、排土量が多くなり、その置き場に関しては調査と並行して行われていた旧寄宿舎男子棟の解体作業との調整が必要であったため、解体作業が完了し、排土置き場が確保できた段階で調査を行うこととした。6層は極めて微細な土器片を含むため、その掘削に当たっては十分留意したものの、採取できる遺物は得られなかった。

遺構は12層上面で検出できた。検出できた遺構の種類とその数は、柱穴55基である。51基が調査区南に集中し、列状を呈している。その北には柱穴が4基だけ不規則に分布しており、列状を呈する柱穴群より北における遺構密度は希薄と言える。埋土は全て黒褐色(5YR2/1)粘土であり、7層から10層に類似する特徴を有する。火山ガラスを含むシルトが若干混じるが、これは13層に由来する可能性が高い。堆積状況から5層堆積以前に掘り込まれた可能性が高いが、5層自体の堆積は貧弱であり、表土中に多量の遺物を含んでいたため、5層は近世以降の開墾に伴う削平を受けている可能性が考えられる。よって、柱穴群の時期については検討の余地がある。

遺構の形状はほぼ円形であり、不定形の場合は複数の柱穴が切り合っているものと考えられる。これら柱穴群の調査にあたり、切り合い関係を明らかにしようとして試みたが、埋土に差は見られず、ほぼ同時期に構築された可能性が考えられる。深さは最大40cmのものがあるが、多数は20cm前後である。

出土遺物は、遺構からは良好なものはほとんど得られず、土師器の細片が出土したのみである。1はPit62より出土した須恵器である。壺であり、胴上部で強く屈曲しており、比較的長い頸部を有していた器形が考えられる。

5層からは土師質土器を中心に土師器及び須恵器細片の出土が見られた。2・3は土師質土器である。2は鍋の胴部の可能性が考えられ、外面に鋸歯状のハケ目を有する。3は甕の口縁部であり、上面に強いナデを有する。

1層からは須恵器を中心に土師器などの細片の出土が見られた。4は弥生土器である。甕の口縁部であり、頸部内面に板状工具によるナデを有する。5～30は須恵器である。5～7は坏蓋であって、5は端部が弱く外反するのに対し、6は内湾し、端部を下向きに突出させている。7も6と同じ特徴を有するが、端部の突出は弱く、内端に比較的強いナデを行うことによって段を作出している可能性が高い。8は坏身である。断面を丸く作出した受部から、口縁部が緩く外反しながら立ち上がる器形が考えられる。9は椀であり、比較的精緻な作りである。10～24は壺である。10～15は口縁部であり、いずれも直立気味に長く立ち上がる頸部から口縁部が大きく外反していた器形が考えられる。16～20は頸胴部である。16は外面に平行タタキを有しており、頸部が外傾しながら立ち上がる器形が考えられる。17・18は胴上部と頸部の境がテラス状になる器形が考えられ、18は胴上部外面に沈線を有する。19・20は胴上部であり、19は外面に波状文を、20は外面に格子目タタキを有する。21～24は底部である。いずれも高台を有しており、高台の形状及び規模から、21・22は小型の、23・24は大型の器形が考えられる。25～30は甕である。いずれも胴部であり、外面に平行タタキを有し、25・26・28・29は内面に同心円文タタキを有する。31～36は土師器で

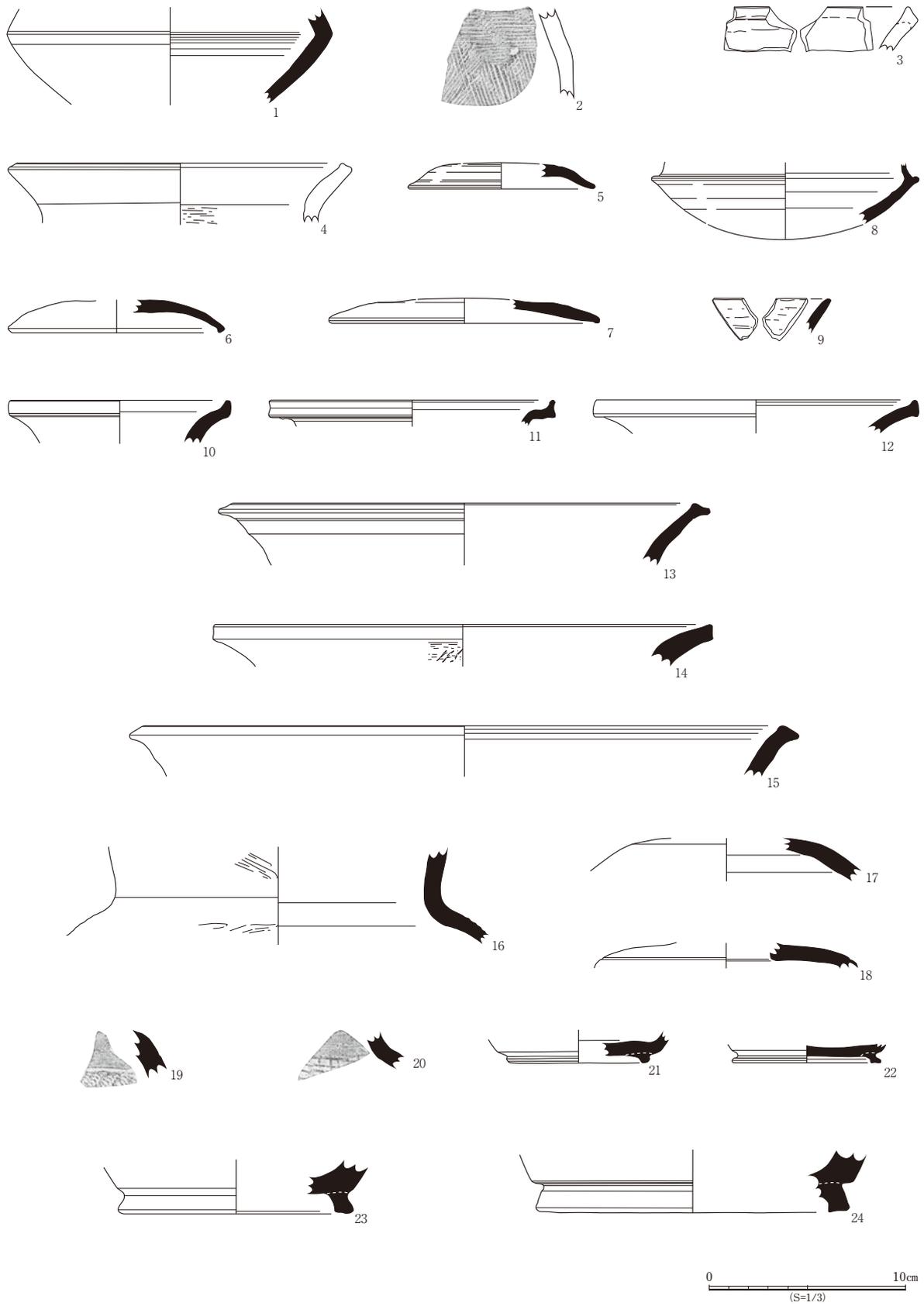


Fig.9 原遺跡第1期調査1区出土遺物図1

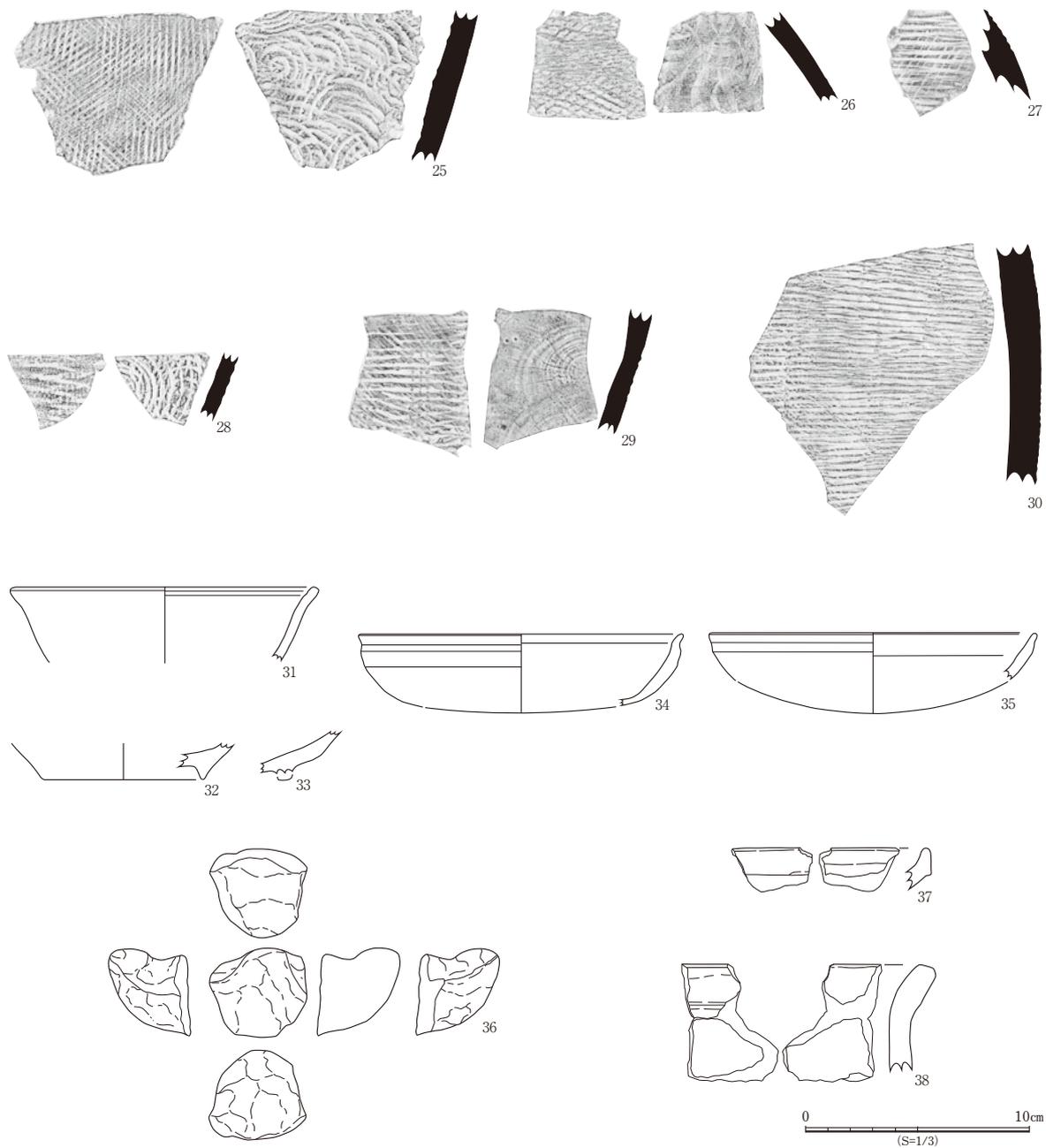


Fig.10 原遺跡第1期調査1区出土遺物図2

ある。31～33は椀であり、31は口縁部内面に浅い凹線を有する。32・33は底部であり、いずれも高台を有する。32は作り出しの可能性が考えられるのに対して、33は貼付高台である。34・35は皿であり、いずれも口縁部外面に強いナデを有するため、凹線状を呈する。36は鍋の把手であり、端部が上方に反り返る。37・38は土師質土器である。37は鉢の口縁、38は鍋の口縁であり、いずれも比較的精緻な造りである。

1-2 第1期調査2区 (Fig.11・12: 遺物番号 39)

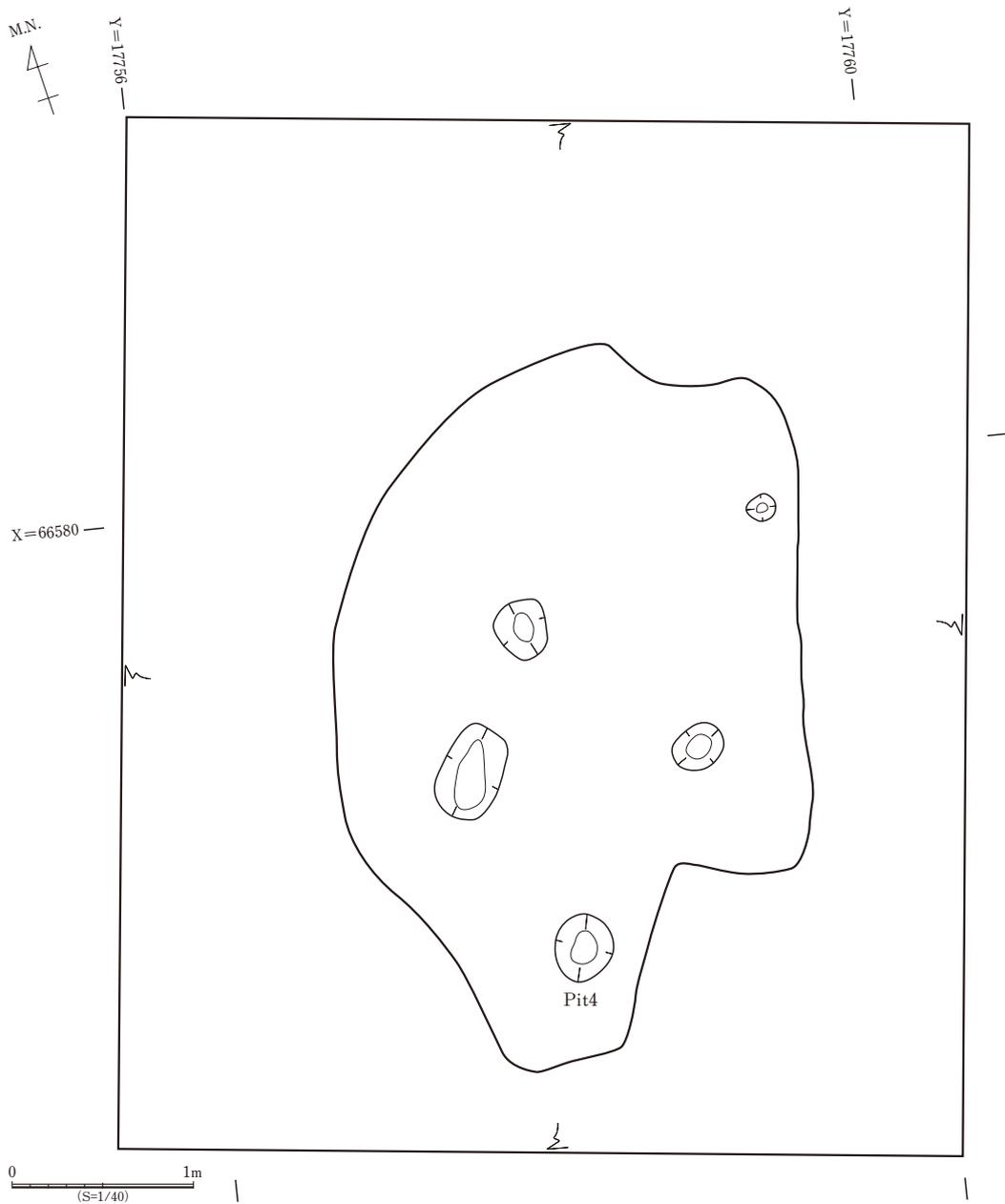


Fig.11 原遺跡第1期調査2区平面図

旧寄宿舎基礎内の調査区である。攪乱土及び8・9区北壁における6～9層を重機で掘削し、13層上面で遺構検出を行った。検出できた遺構の種類とその数は柱穴5基である。深さは最も深いもので24cmであり、浅いものは10cmである。埋土は黒褐色(5YR2/1)の粘土である。これらは、1区の柱穴群とほぼ同軸上にあるため、それらとの関連性が考えられる。

良好な出土遺物はほとんど得られず、弥生土器の細片が出土したのみである。39はPit4より出土した。甕の胴部であり、外面にタタキを有する。

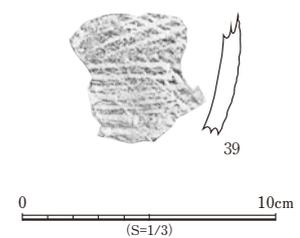


Fig.12 原遺跡第1期調査2区 Pit4 出土遺物図

1-3 第1期調査3区 (Fig.13~15)

旧寄宿舎基礎内の調査区である。攪乱土及び8・9区北壁における6~9層を重機で掘削した。9層半ばで赤褐色シルトがレンズ状に薄く堆積している状況が確認出来たため、9層中上面で遺構検出を行った。検出できた遺構の種類とその数はPit9・10の2基である。また、13層上面で検出できた遺構は柱穴6基である。いずれも出土遺物は見られず、時期の特定は困難である。

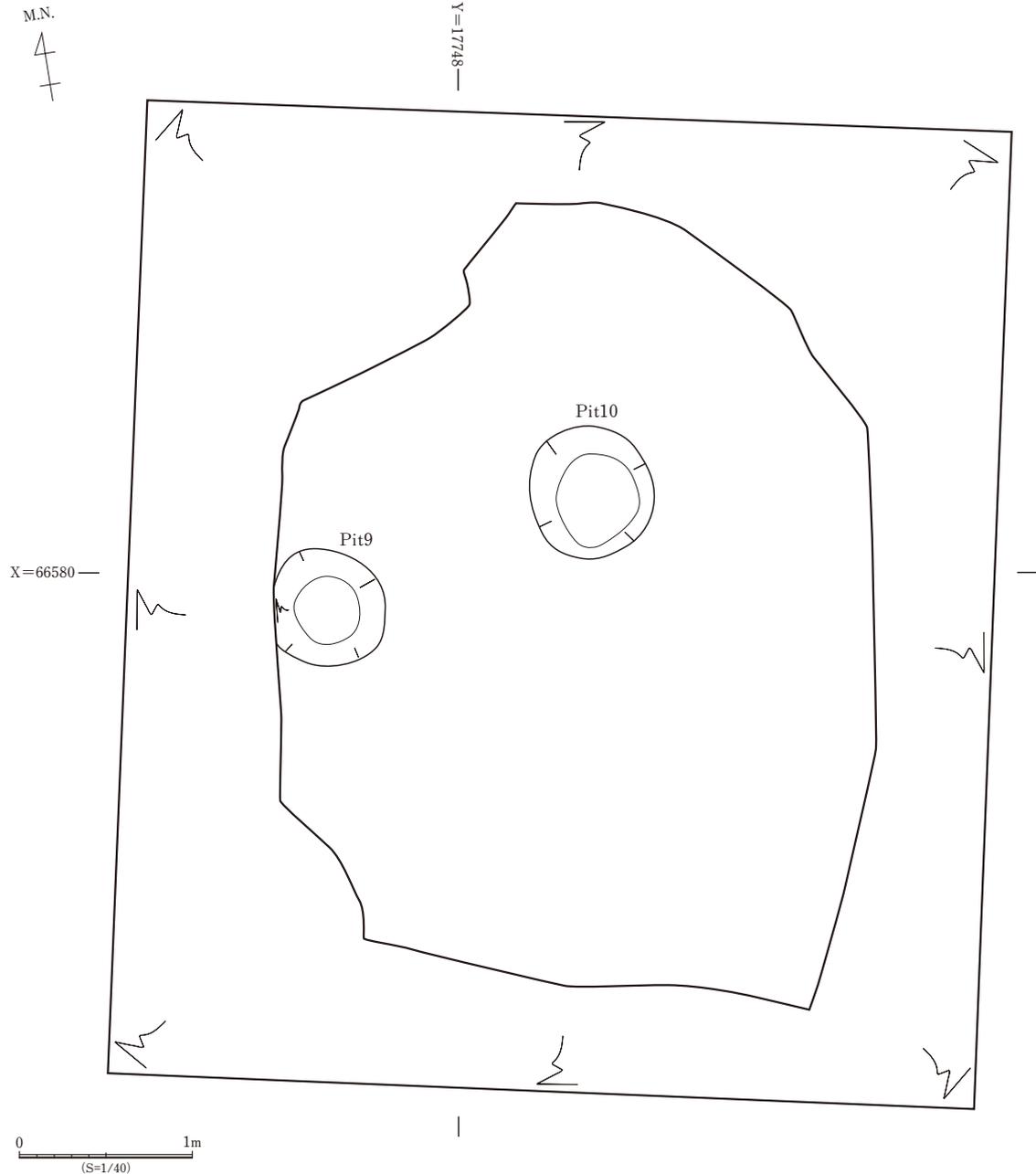


Fig.13 原遺跡第1期調査3区9層中上面平面図

Pit9埋土

- 1層 粘土層 (黒色25Y2/1) しまり良。粘性やや強い。
- 2層 シルト混砂礫層 (黒色25Y2/1) しまり良。粘性無し。拳大の礫を多く含み、
~1mm大の砂とシルトが混じる。
- 3層 粘土層 (黒色25Y2/1) しまり良。粘性やや強い。水分が多い。

Pit10埋土

- 1層 粘土層 (黒色25Y2/1) しまり良。粘性やや強い。
- 2層 粘土層 (黒色25Y2/1) しまり良。粘性強い。
土層よりやや赤みが強い。
13層が混じる可能性が考えられる。
- 3層 粘土層 (黒色25Y2/1) しまり良。粘性やや強い。
- 4層 粘土層 (明赤褐色25YR5/6) しまりやや不良。粘性弱い。
13層の崩落と考えられる。

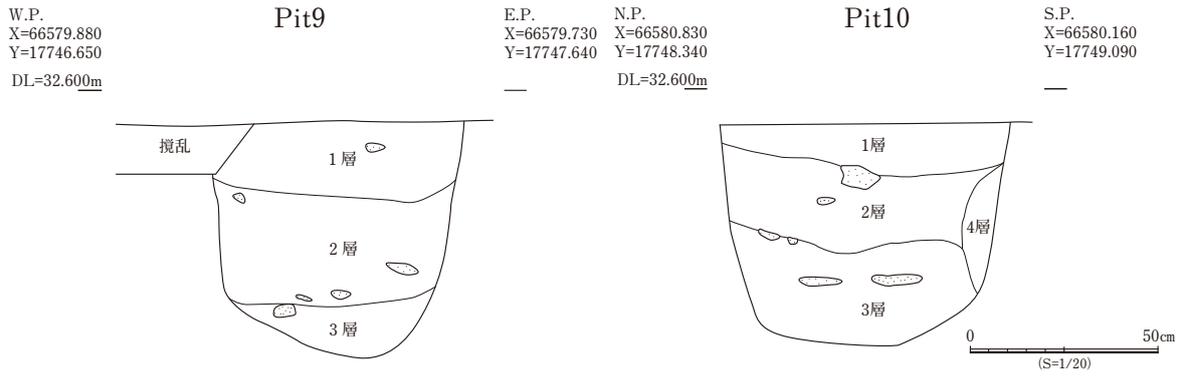


Fig.14 原遺跡第1期調査3区9層中上面検出 Pit9・10 土層図

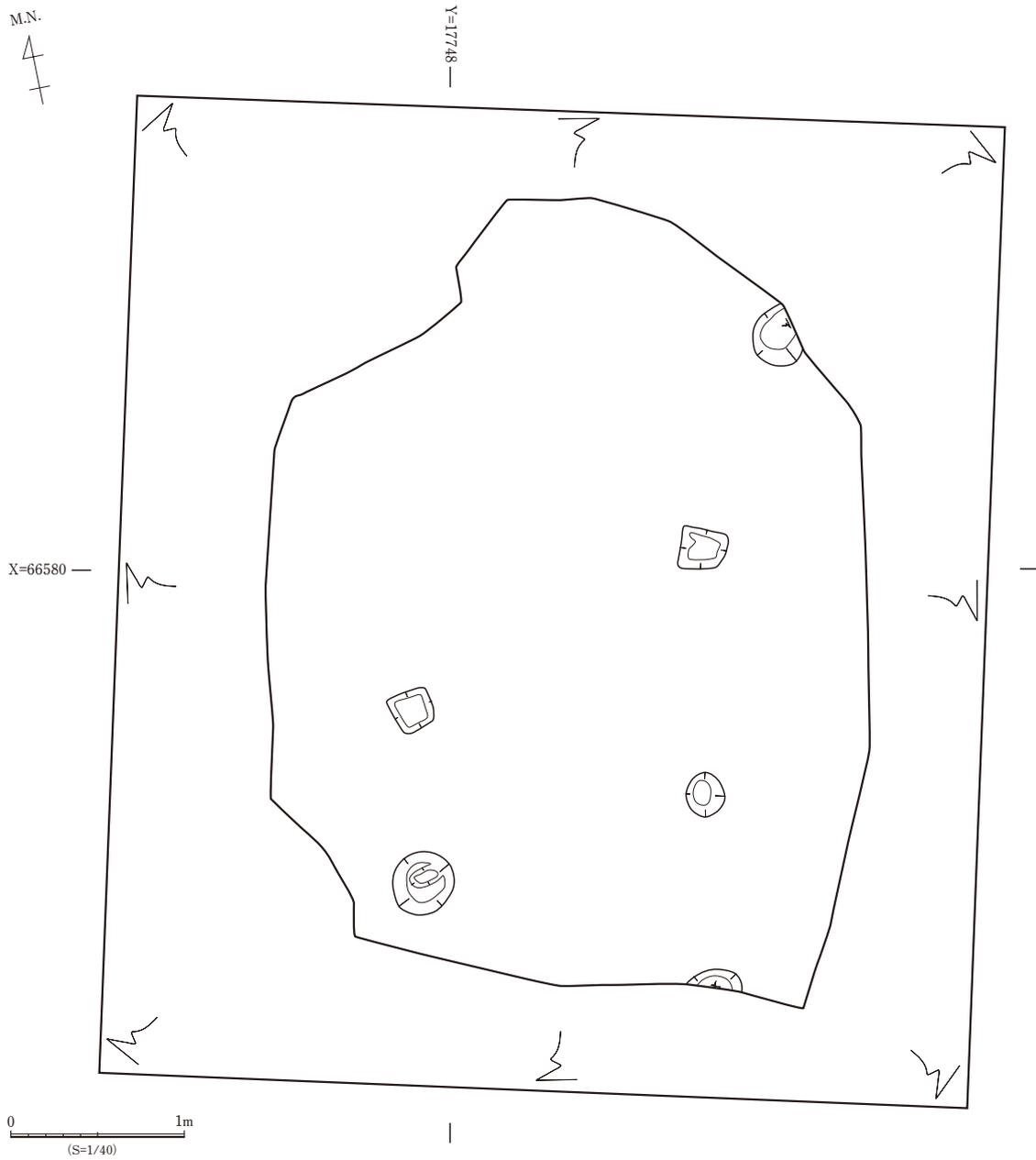


Fig.15 原遺跡第1期調査3区13層上面平面図

1-4 第1期調査4区 (Fig.16)

旧寄宿舎基礎内の調査区である。攪乱土及び8・9区北壁における6～9層に相当する極めて薄い層を重機で掘削し、13層上面で遺構検出を行った。検出できた遺構の種類とその数は、柱穴14基、土坑2基、性格不明3基である。性格不明のものについては、複数の柱穴が切り合っているものと考えられる。

これら柱穴群の調査にあたり、切り合い関係を明らかにしようと試みたが、埋土に差は見られず、ほぼ同時期に構築された可能性が考えられる。埋土は黒褐色(10YR2/1)粘土である。これらは、1区の柱穴群と同軸上にあるため、それらとの関連性が考えられる。

良好な出土遺物は全く得られず、土師器の細片が出土したのみである。

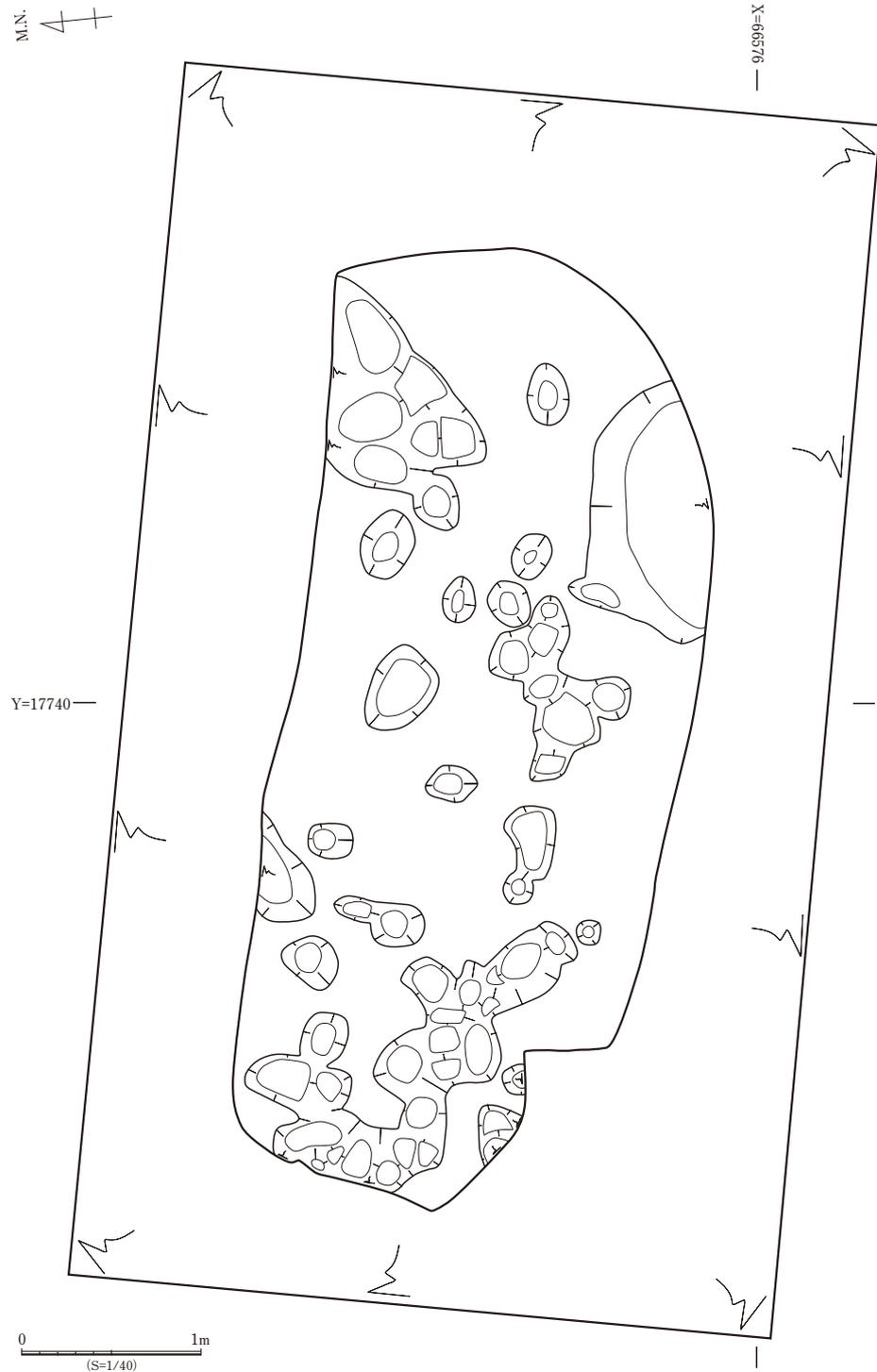


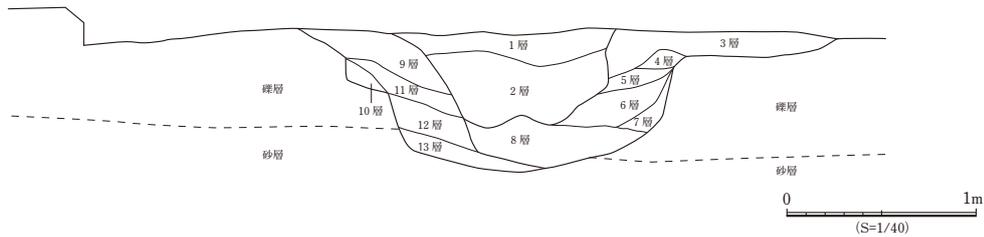
Fig.16 原遺跡第1期調査4区13層上面平面図

1-5 第1期調査5区 (Fig.17~23: 遺物番号40~45)

旧寄宿舎基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、1区東壁における23層に類似した礫層の上で東西方向に長軸を有する黒褐色の帯を検出した。トレンチを設定し掘削したところ、溝の掘り方が確認でき、埋土の切り合い関係より3時期に区分できた。これがSD34である。新しい順から①~③とし、それぞれにおいて遺物の取り上げを行い、図化した。

N.P.
X=66568.520
Y=17739.200
DL=33.50m

S.P.
X=66563.910
Y=17738.820



SD34 埋土注記

SD34①埋土	1層 礫混砂層 (赤黒色 7.5R 2/1)	しまり良。粘性弱い。黒ボク及び5~10mm大の砂礫を多く含む。
	2層 礫混シルト層 (黒褐色 5YR 3/1)	しまりやや不良。粘性弱い。黒ボク及び5~80mm大の砂礫をまばらに含む。
SD34②埋土	3層 礫混砂層 (褐灰色 5YR 4/1)	しまり良。粘性無し。5~10mm大の砂礫を基調とする。
	4層 礫混砂層 (褐灰色 7.5YR 4/1)	しまり良。粘性無し。5~10mm大の砂礫を基調とする。
	5層 砂礫混シルト層 (黒褐色 7.5YR 3/1)	しまり良。粘性強い。5~10mm大の砂礫をまばらに含む。
	6層 砂礫混シルト層 (灰褐色 7.5YR 4/2)	しまり良。粘性強い。5~15mm大の砂礫を多く含む。
	7層 砂 礫 層 (オリーブ黄色 7.5Y 6/3)	しまりやや不良。粘性無し。礫層の崩落と考えられる。
	8層 礫混粘土層 (黄灰色 2.5Y 4/1)	しまり良。粘性強い。10~30mm大の砂礫を多く含む。
SD34③埋土	9層 礫混シルト層 (黒褐色 5YR 3/1)	しまり良。粘性やや強い。10mm大の礫をまばらに含む。
	10層 礫混砂層 (灰褐色 7.5YR 4/2)	しまり不良。粘性無し。
	11層 礫混砂層 (黒褐色 7.5YR 3/1)	しまり良。粘性無し。5~10mm大の砂礫を多く含む。
	12層 礫混砂層 (褐灰色 7.5YR 4/1)	しまり良。粘性無し。~5mm大の砂粒を多く含む。
	13層 砂 層 (灰オリーブ 5Y5/2)	しまり不良。粘性無し。

Fig.17 原遺跡第1期調査5区 SD34 土層図

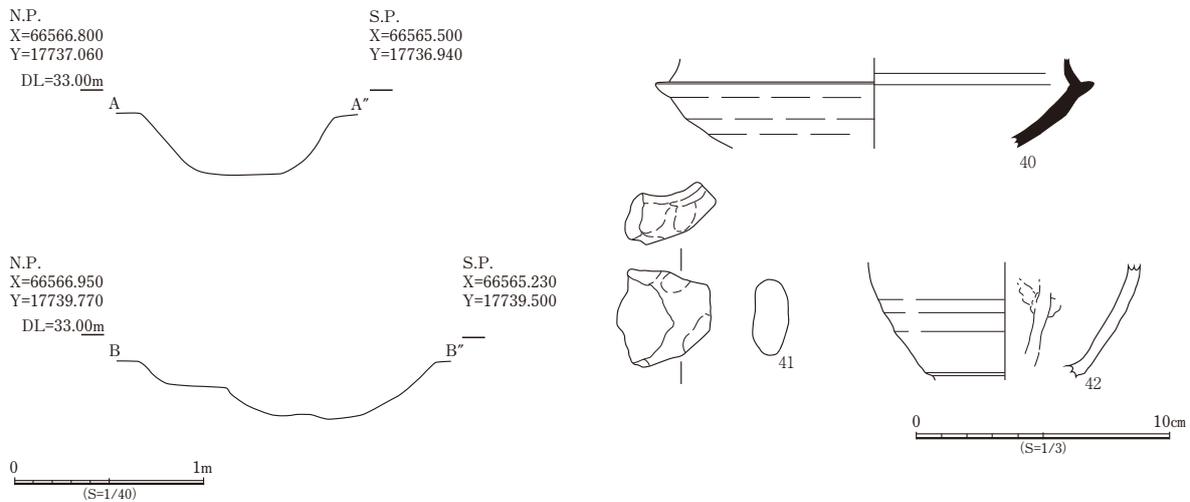


Fig.18 原遺跡第1期調査5区 SD34 ①断面及び出土遺物図

①からは土師器・須恵器の細片の他、近世陶磁器類が出土した。40～42は①より得られた遺物である。40は須恵器である。坏身であり、比較的鋭角な受部から口縁部が外反しながら立ち上がり、端部が直立する器形が考えられる。41は土師器である。鍋の把手であり、端部が上方に反り返る。42は近世陶器であって、碗である。

②からは土師器・須恵器の細片が出土した。43・44は②より得られた遺物である。43は須恵器

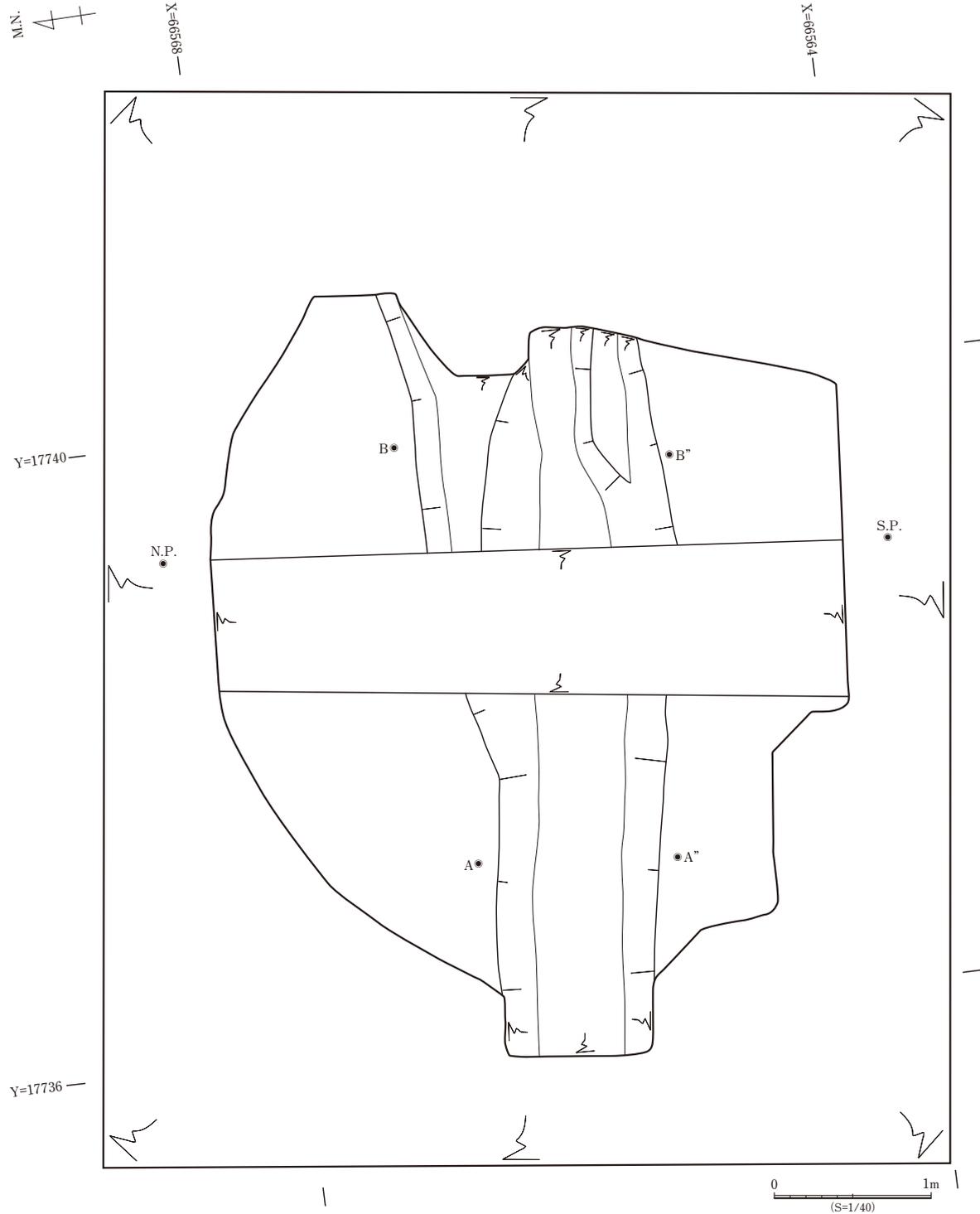


Fig.19 原遺跡第1期調査5区SD34①平面図

である。皿であり、体部外面に強いナデを有するため、口縁部まで外反しながら立ち上がる。44は土師器である。椀であり、口縁部内面に緩やかな凹線を二条有する。

③からは須恵器・土師器の細片が出土した。45は③より得られた資料である。須恵器であり、壺の底部と考えられる。比較的しっかりした高台を有するが、焼成は悪い。

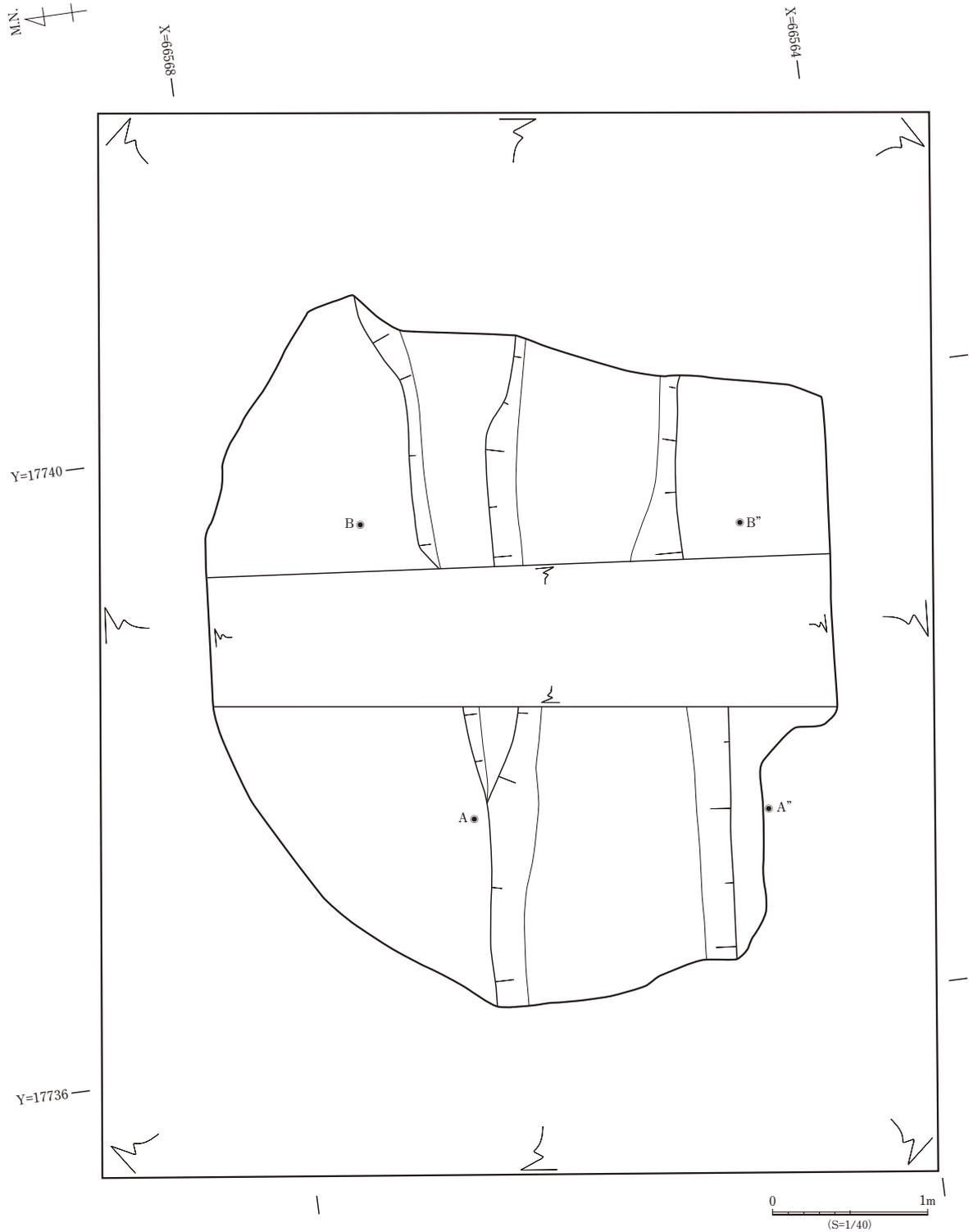


Fig.20 原遺跡第1期調査5区SD34②平面図

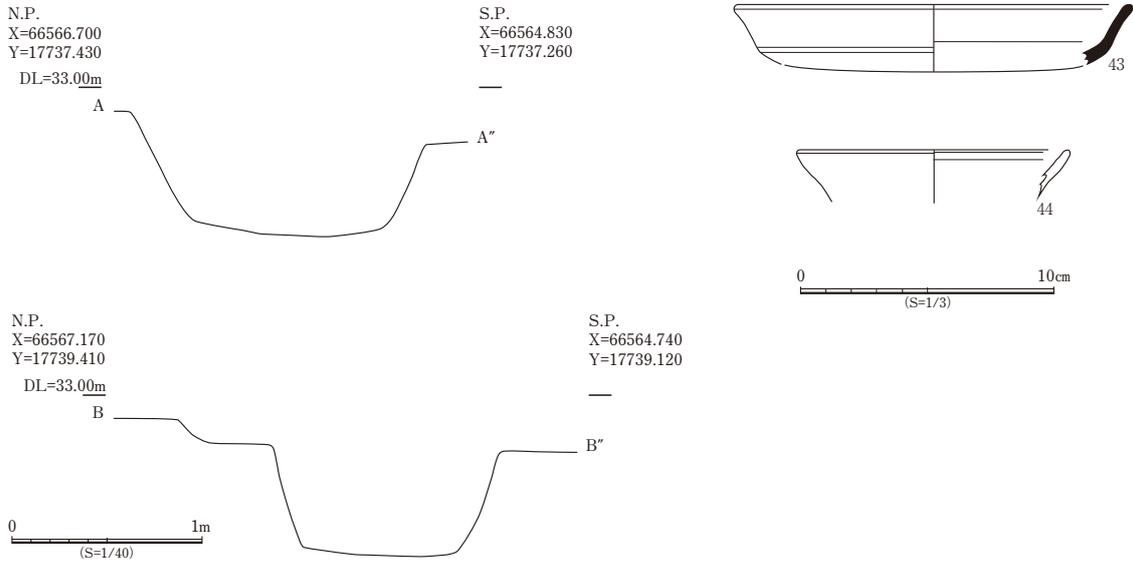


Fig.21 原遺跡第1期調査5区 SD34 ②断面及び出土遺物図

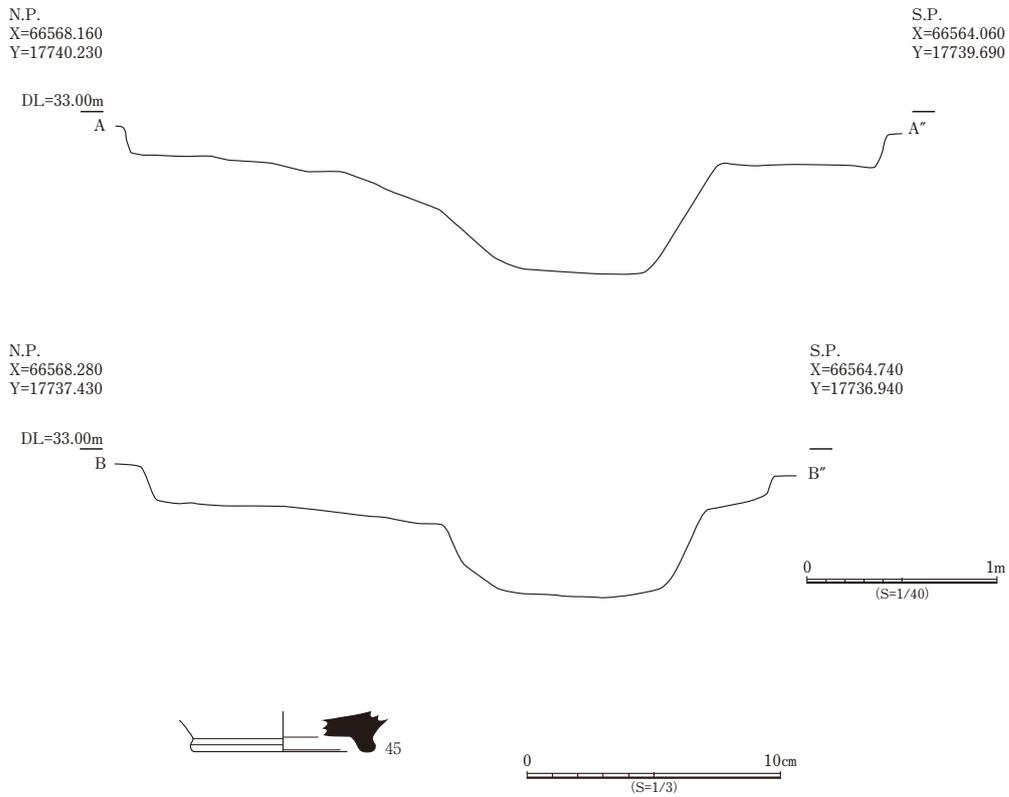


Fig.22 原遺跡第1期調査5区 SD34 ③断面及び出土遺物図

溝について得られた情報は限定的であるため、その性格は不明と言わざるを得ない。しかし、異なる時代に同じ形状の遺構が重複したと考えるよりは、同じ溝を改修ないしは浚渫した可能性を考慮したい。

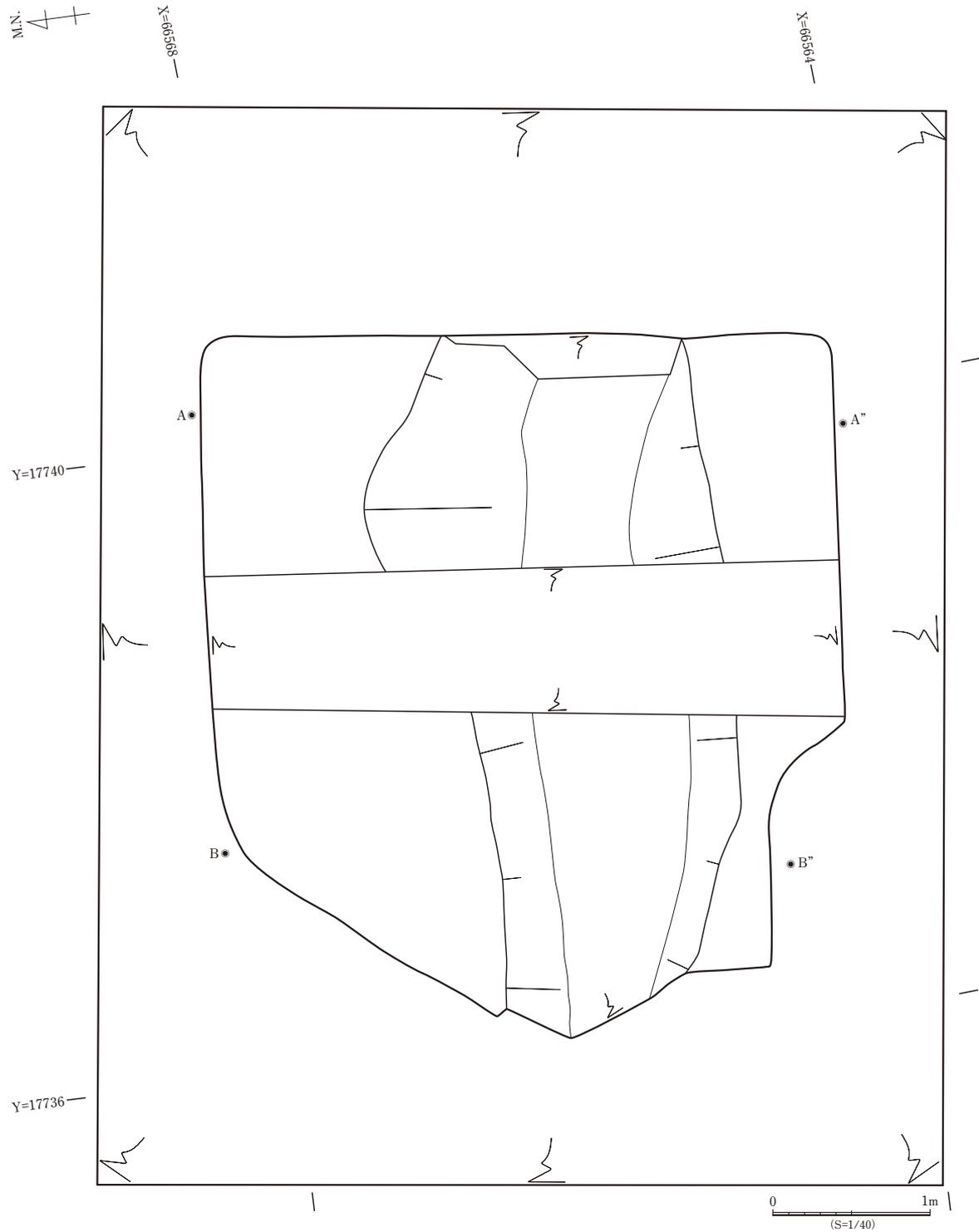


Fig.23 原遺跡第1期調査5区SD34 ③平面図

1-6 第1期調査6区 (Fig.24~26: 遺物番号46)

旧寄宿舍基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、5区同様に1区東壁における23層に類似した礫層の上で東西方向に長軸を有する黄褐色の帯を検出した。トレンチを設定し掘削したところ、溝の掘り方が確認できた。これがSD35である。

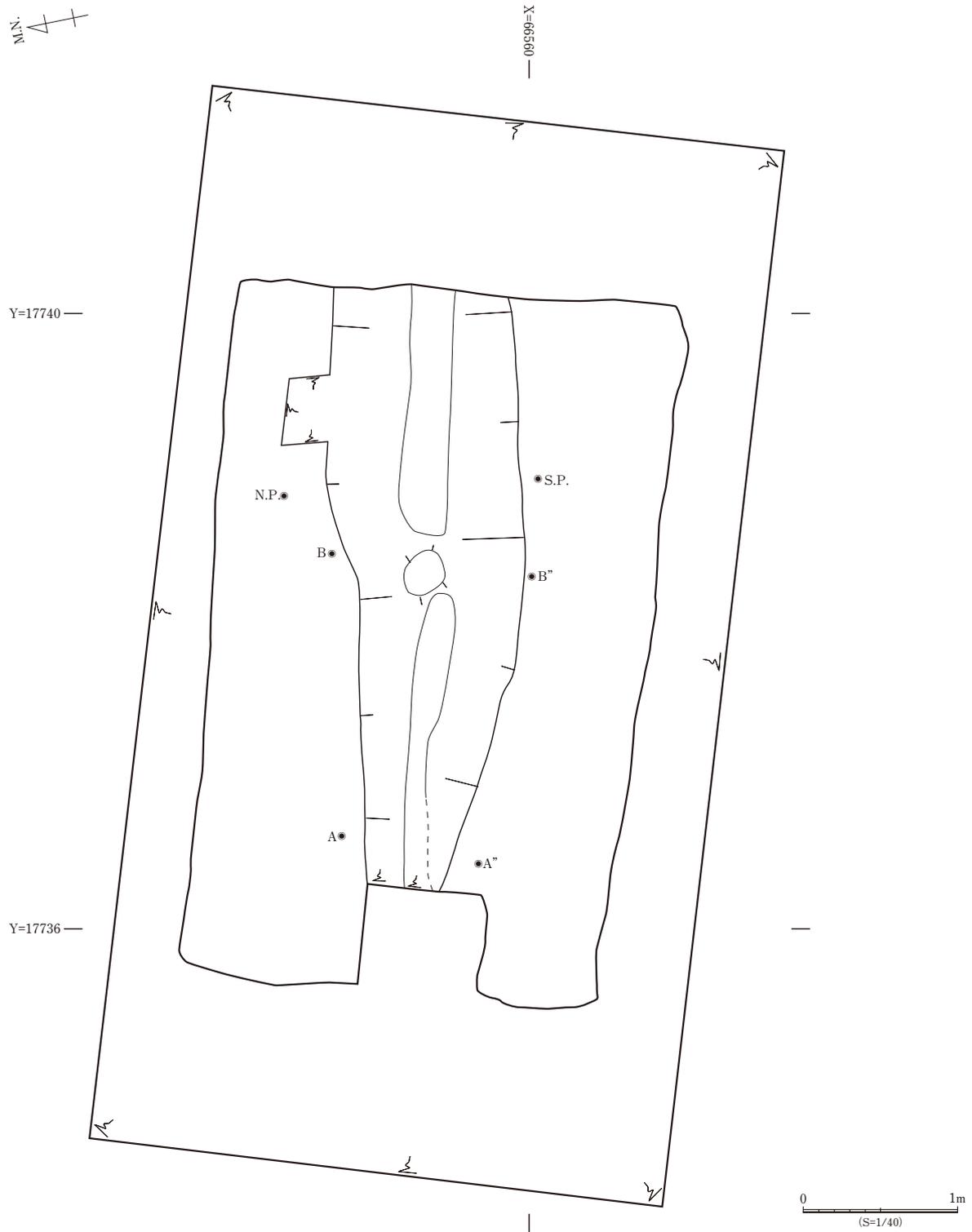


Fig.24 原遺跡第1期調査6区 SD35 平面図

出土遺物は須恵器・土師器の細片が出土している。46は須恵器である。甕の胴上部であり、外面に細かな格子目文タタキと内面に同心円文タタキを有する。

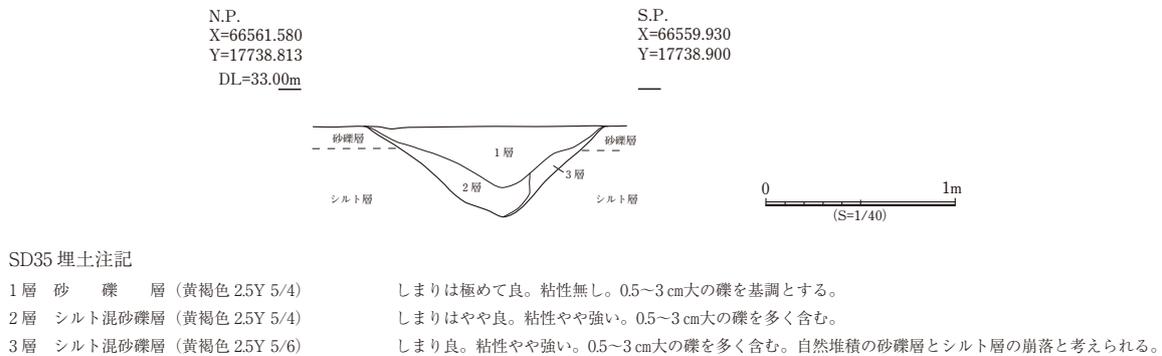


Fig.25 原遺跡第1期調査6区 SD35 土層図

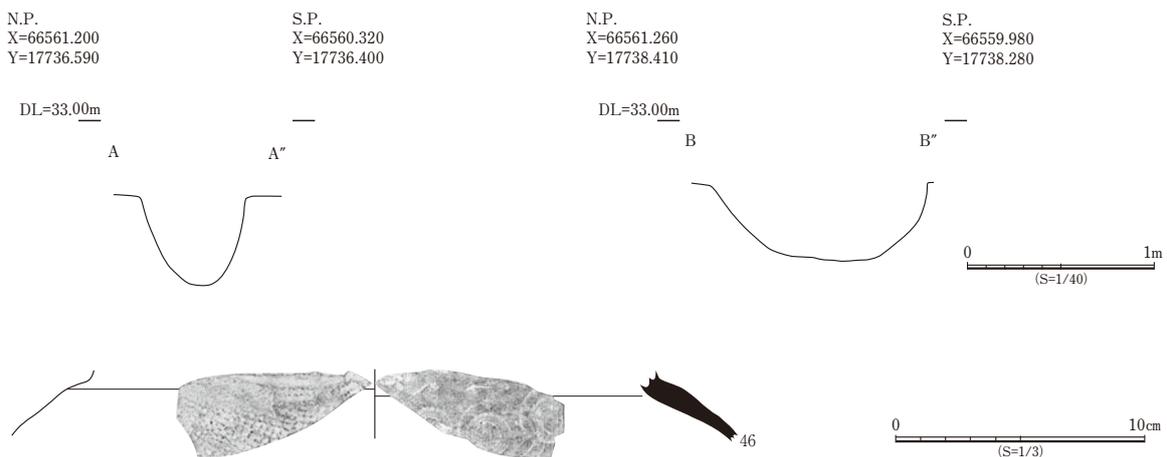
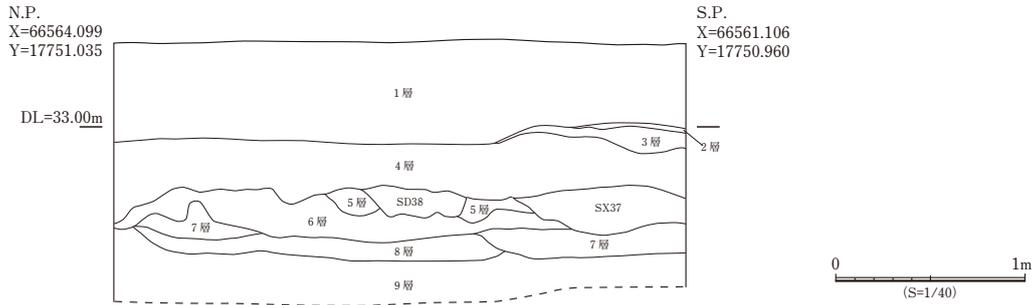


Fig.26 原遺跡第1期調査6区 SD35 断面及び出土遺物図

1-7 第1期調査7区 (Fig.27～30: 遺物番号 47～53)

調査対象地でもっとも狭い調査区である。表土を重機で掘削し、遺物包含層である4層を検出した。その上面で遺構は確認できず、4層を掘削し、6層上面で遺構検出を行った。検出できた遺構の種類とその数は、柱穴1基、溝1条、性格不明1基である。Pit36は、溝が埋まってから構築されており、一部被熱した砂岩が4つ配置されていた。出土遺物は土師器の細片が出土しただけである。性格不明のものは、6区SD35と関連する可能性が考えられる。

4層からは須恵器・土師器の小破片が出土している。47は弥生土器である。甕の口縁であり、頸部に不定形の刺突を有する。48～51は須恵器である。48は坏蓋と考えられる。49は皿である。50は壺であり、比較的しっかりした高台を有する。51は甕であり、胴部外面にカキメを有する。52・53は土師器である。52は椀の口縁部、53は鉢の口縁部であって、いずれも精緻な造りである。



原遺跡7区東壁土層図

1層	盛土	
2層	旧耕作土 (黄灰色 2.5Y 4/1)	しまり良。粘性やや強い。
3層	旧床土 (黄灰色 2.5Y 5/1)	しまり良。粘性無し。
4層	砂礫混粘土層 (黒褐色 10YR 3/1)	しまり良。粘性強い。砂礫混シルト層。2~5cm大の砂礫を多く含む。遺物包含層。
5層	砂層 (灰黄褐色 10YR 5/2)	しまり無し。粘性無し。~0.1mm大の砂を多く含む。
6層	砂層 (黄灰色 2.5Y 6/1)	しまりやや強い。粘性無し。~0.1mm大の砂を多く含む。
7層	礫混砂層 (灰オリーブ色 5Y 5/2)	しまり不良。粘性無し。~0.5mm大の砂を多く含む。1cm大の礫が混じる。
8層	礫混砂層 (灰オリーブ色 5Y 6/2)	しまり不良。粘性無し。~1mm大の砂を多く含む。1cm大の礫が多く混じる。
9層	礫混砂層 (灰色 5Y 5/1)	しまり不良。粘性無し。~0.5mm大の砂を多く含む。1cm大の礫が混じる。
SD38	粘土 (黒褐色 10YR 3/2)	しまり極めて良。粘性強い。
SX37	粘土 (灰黄褐色 10YR 6/2)	しまり極めて良。粘性強い。

Fig.27 原遺跡第1期調査7区東壁土層図

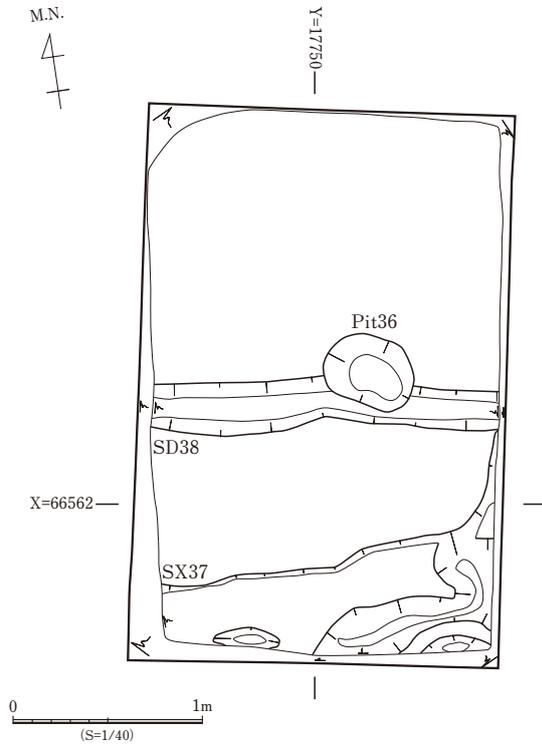
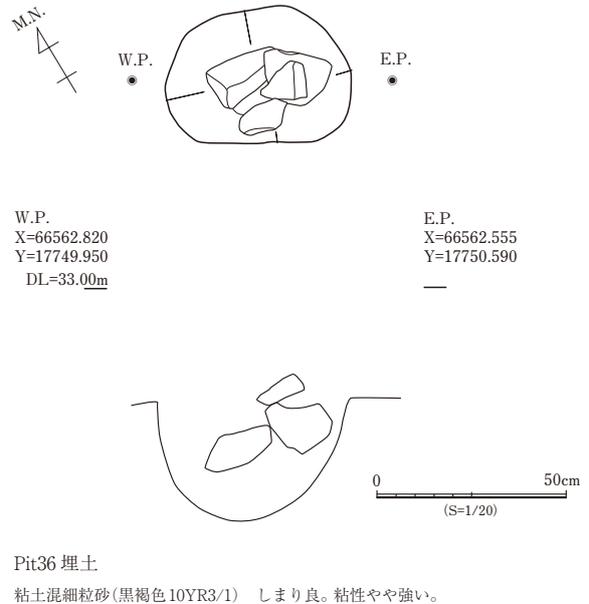


Fig.28 原遺跡第1期調査7区平面図



Pit36埋土

粘土混細粒砂(黒褐色10YR3/1) しまり良。粘性やや強い。

Fig.29 原遺跡第1期調査7区 Pit36 遺構図

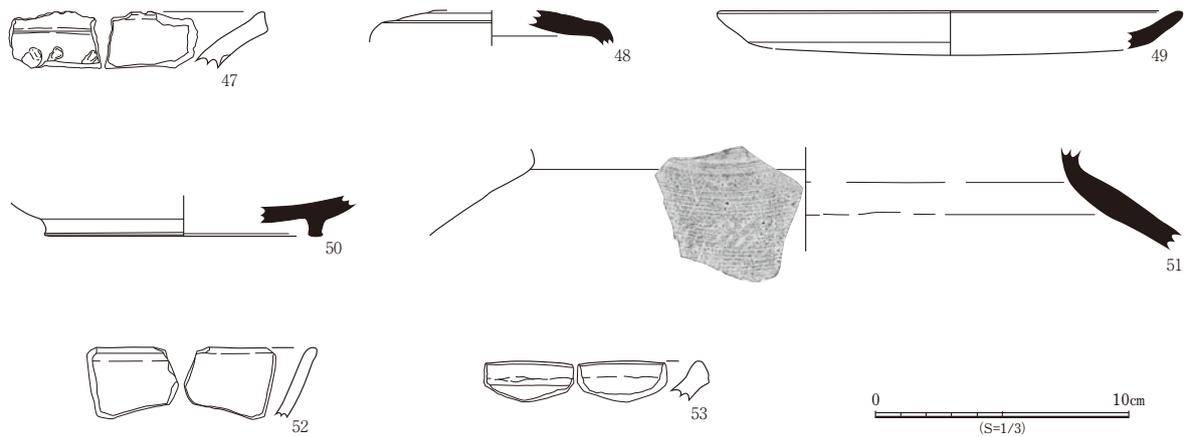
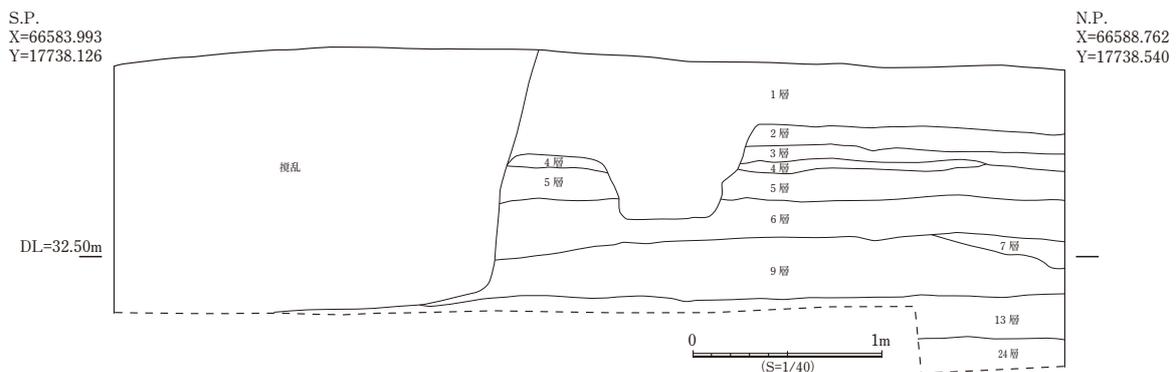


Fig.30 原遺跡第1期調査7区出土遺物図

1-8 第1期調査8区 (Fig.31~34: 遺物番号54~57)

調査対象地でもっとも北に位置する調査区である。表土を重機で掘削し、遺物包含層である5層を検出した。その上面では遺構は確認できず、5層を掘削し、遺構検出を行った。遺構が確認出来なかったため、6~9層を重機で掘削し、13層上面で遺構検出を行った。検出できた遺構の種類と数は柱穴1基、性格不明2基である。これらの遺構からの出土遺物は得られていない。

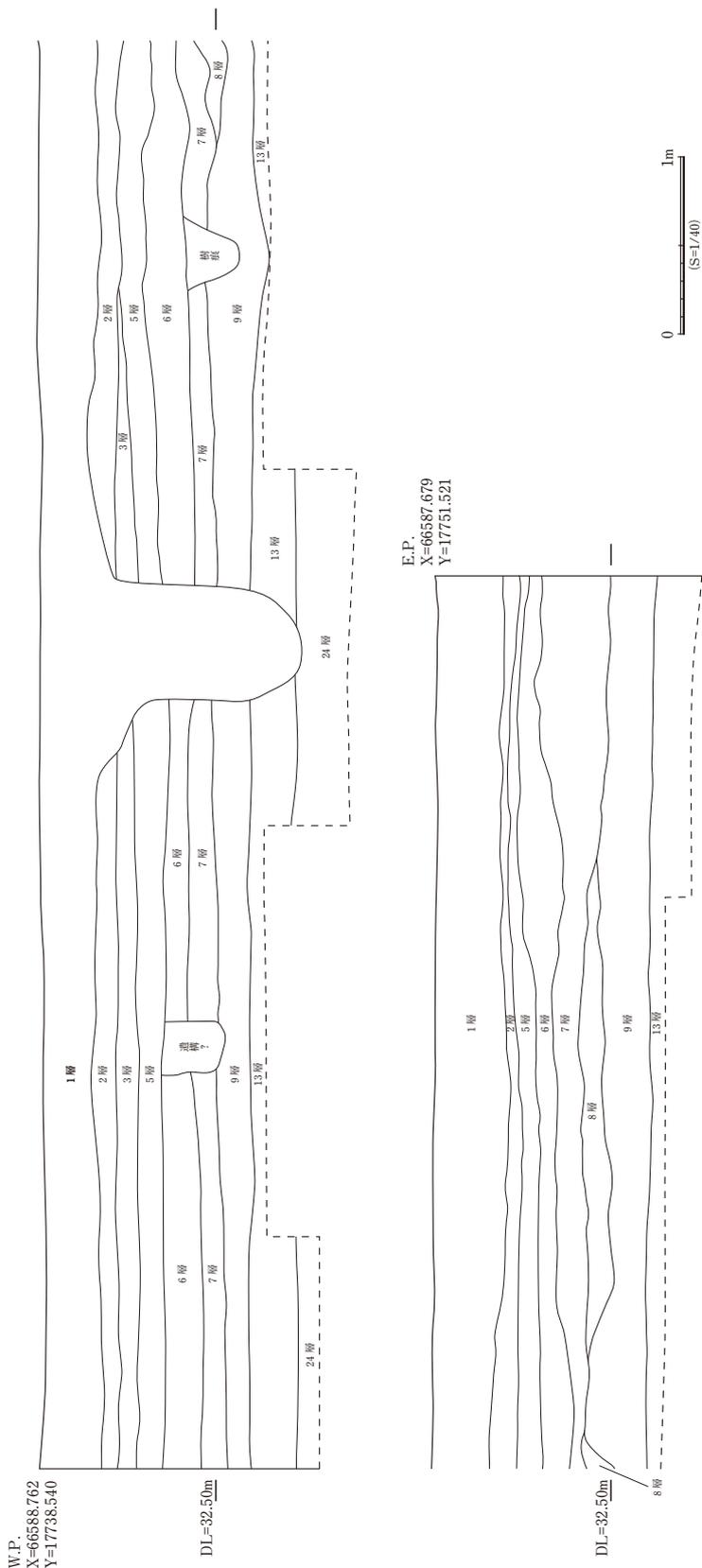
5層からは須恵器を中心に土師器などの小破片が出土している。54・55は須恵器である。54は高坏の脚の可能性が考えられる。55は甕であり、胴部外面に平行タタキと内面に同心円文タタキを有する。56は白磁である。碗であり、口縁端部が強く外湾する。57は1層から得られた資料で須恵器である。坏身であり、受部から口縁部が短く内傾しながら立ち上がる。



原遺跡8区西壁土層注記

1層 表土 (明黄褐色 2.5Y7/6)	
2層 旧耕作土 (黄灰色 2.5Y4/1)	しまり良。粘性無し。
3層 旧床土 (暗灰黄色 2.5Y4/2)	しまり良。粘性無し。
4層 粘土層 (褐灰色 5YR5/1)	しまり良。粘性やや強い。
5層 微粒砂混粘土層 (暗オリーブ褐色 2.5Y3/3)	しまり良。粘性弱い。遺物包含層。黒ボクを基調とする堆積層。
6層 微粒砂混粘土層 (暗オリーブ褐色 2.5Y3/3)	しまり不良。粘性やや強い。黒ボクを基調とする堆積層。弥生土器と思われる極小片を極僅かに含む。
7層 粘土層 (黒色 2.5Y2/1)	しまり不良。粘性やや強い。黒ボクを基調とする堆積層。
9層 粘土層 (黒色 2.5Y2/1)	しまり不良。粘性弱い。黒ボクを基調とする堆積層。7層及び8区北壁8層に比べて、やや褐色が強い。
13層 シルト層 (明赤褐色 5YR5/6)	しまりやや良。粘性無し。比較的純粋なアカホヤ堆積層。
24層 砂礫層 (黒褐色 5YR2/1)	しまり良。粘性無し。拳大の礫と~20mm大の砂礫が多く混じる。2~6区の地山に相当。

Fig.31 原遺跡第1期調査8区西壁土層図



原遺跡8区北壁土層注記

- | | | |
|-----|--------------------------|--|
| 1層 | 表土 (明黄褐色 25Y7/6) | しまり良。粘性無し。 |
| 2層 | 旧耕作土 (黄灰色 25Y4/1) | しまり良。粘性無し。 |
| 3層 | 旧床土 (暗灰黄色 25Y4/2) | しまり良。粘性弱い。遺物包含層。黒ボクを基調とする堆積層。 |
| 5層 | 微粒砂混粘土層 (暗オリーブ褐色 25Y3/3) | しまり不良。粘性やや強い。黒ボクを基調とする堆積層。しまり不良。粘性やや強い。 |
| 6層 | 微粒砂混粘土層 (暗オリーブ褐色 25Y3/3) | しまり不良。粘性やや強い。黒ボクを基調とする堆積層。弥生土器と思われる極小片を極僅かに含む。 |
| 7層 | 粘土層 (黒色 25Y2/1) | しまり不良。粘性弱い。黒ボクを基調とする堆積層。13層を締まないしはブロック状に含む。 |
| 8層 | 粘土層 (黄褐色 25YR5/6) | しまり不良。粘性弱い。黒ボクを基調とする堆積層。7・8層に比べて、やや褐色が強い。 |
| 9層 | 粘土層 (黒色 25Y2/1) | しまりややや良。粘性無し。比較的純粋なアカホヤ堆積層。 |
| 13層 | シルト層 (明赤褐色 5YR5/6) | しまり良。粘性無し。拳大の礫と~20mm大の砂礫が多く混じる。2~6区の地山に相当。 |
| 24層 | 砂礫層 (黒褐色 5YR2/1) | |

Fig.32 原遺跡第1期調査8区北壁土層図

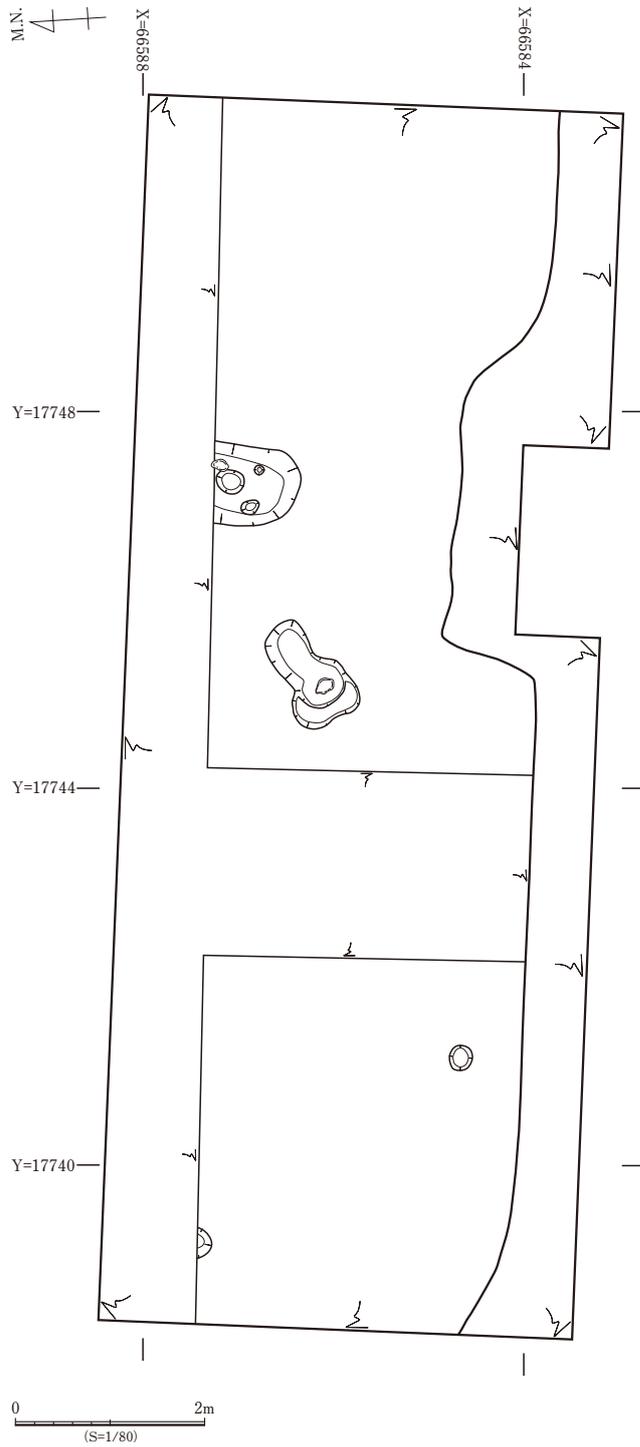


Fig.33 原遺跡第1期調査8区平面図

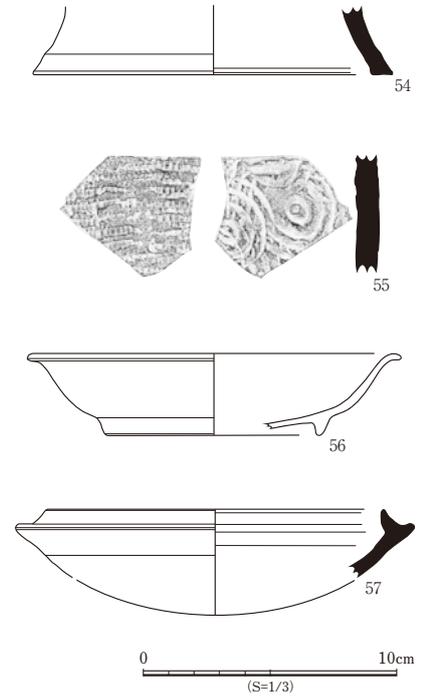


Fig.34 原遺跡第1期調査8区出土遺物図

1-9 第1期調査9区 (Fig.35・36: 遺物番号 58～70)

表土を重機で掘削し、遺物包含層である5層を検出した。その上面では遺構は確認できず、5層を掘削し、遺構検出を行った。遺構が確認できなかったため、6～9層を重機で掘削し、13層上面で遺構検出を行った。結果として遺構は確認出来なかった。

5層からは須恵器を中心に黒色土器・土師器の小破片が出土している。58～66は須恵器である。いずれも壺であり、58～64は口縁部である。いずれも口縁部を広く作出しており、頸部は短い器形が考えられる。62は胴部内面に同心円文タタキを有するが、ナデで消されてる。65は外面に波状文を有する。66は底部であり、しっかりした高台を有する。67は黒色土器である。椀であり、内面だけに炭素の吸着と丁寧なミガキを有し、ミガキの一部は暗文状を呈する。底部は貼付高台である。68・69は土師質土器であり、68は椀、69は皿である。

70は1層からの出土遺物である。土師質土器であり、口縁部を幅広く作出する鍋である。

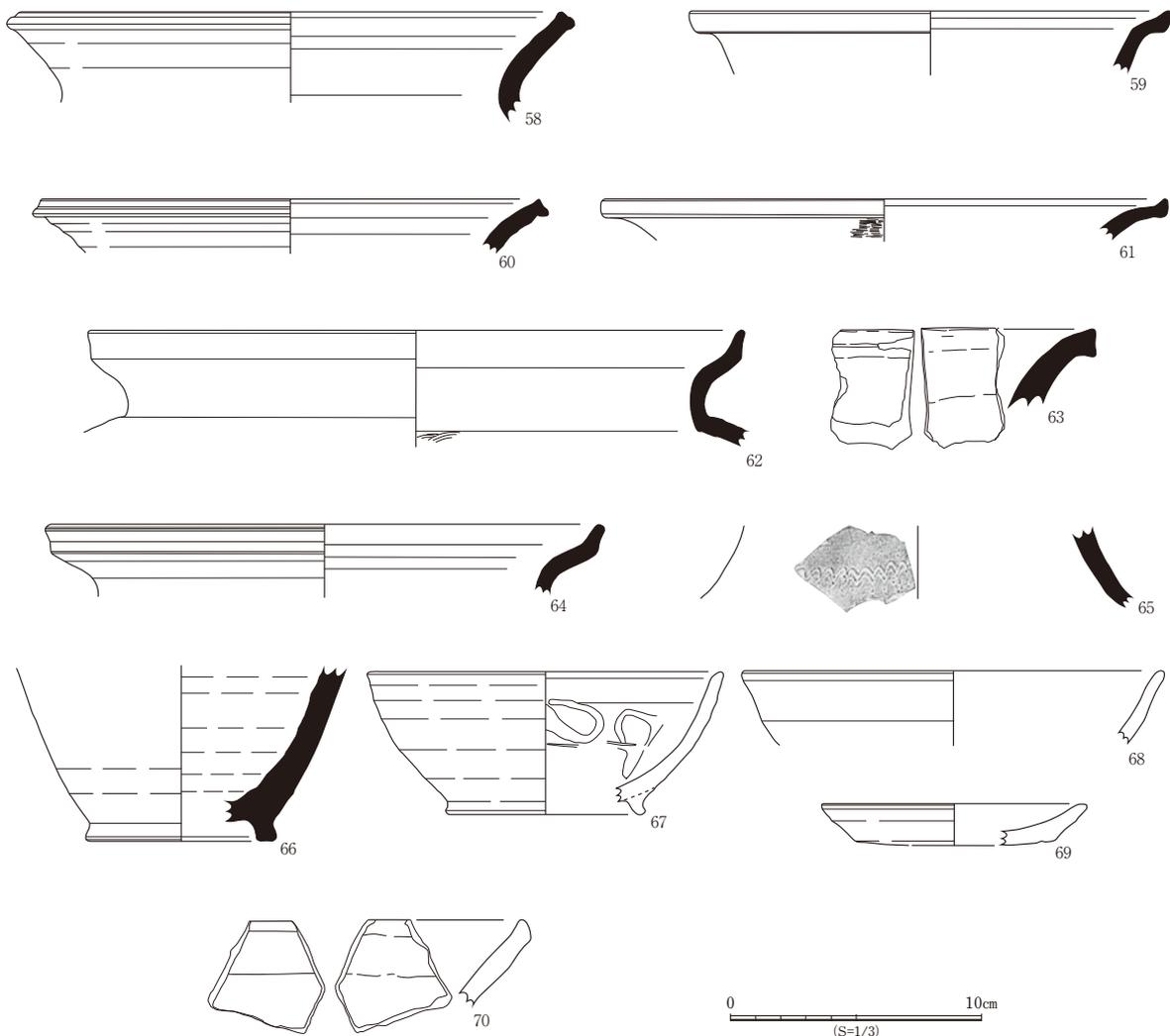


Fig.35 原遺跡第1期調査9区出土遺物図

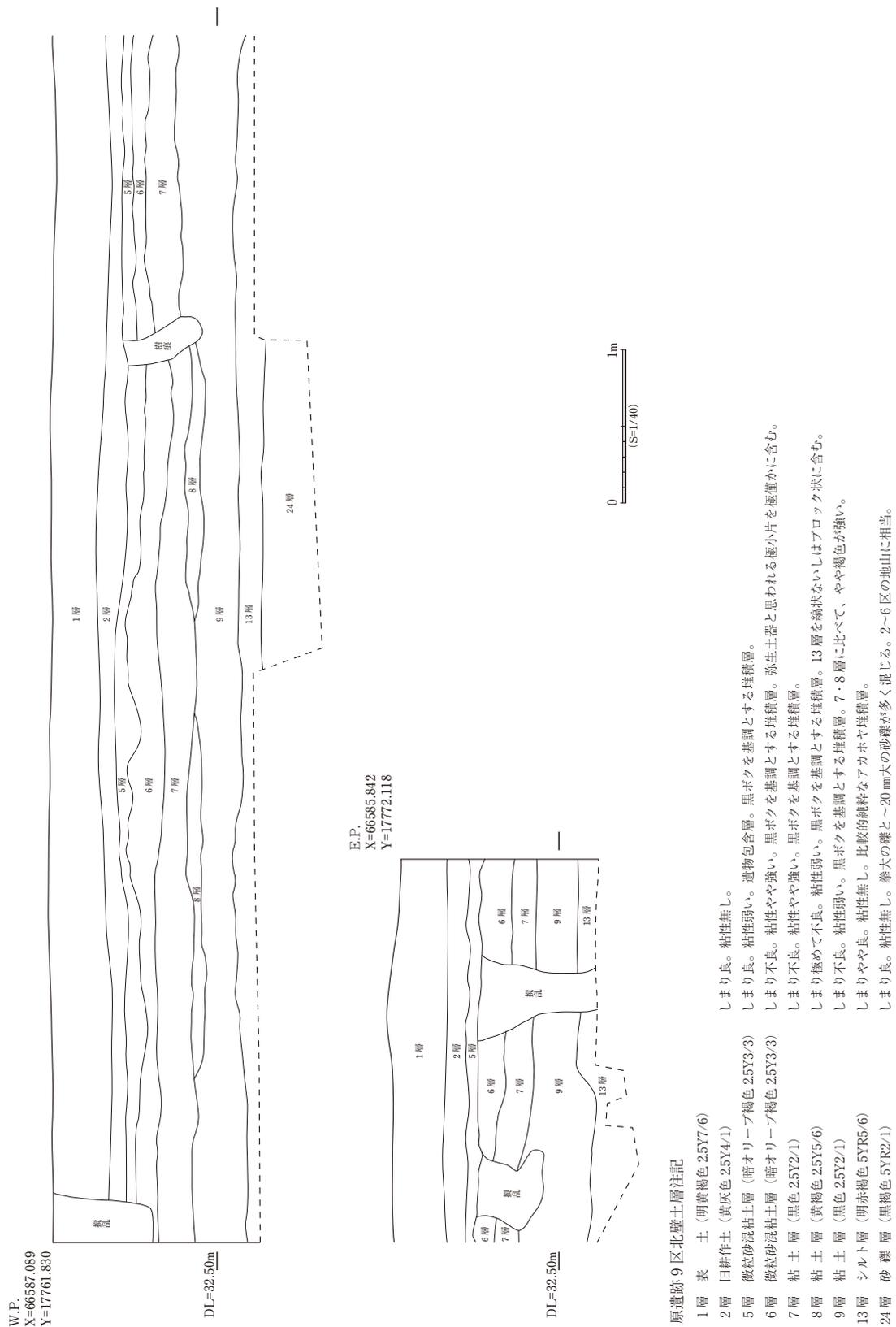


Fig.36 原遺跡第1期調査9区北壁土層図

2. 第2期調査（平成21年度：Fig.37）

一昨年度に寄宿舍男子棟改築に伴う発掘調査を行い、その続きとして女子棟改築に伴う発掘調査を行った。棟地上部分を撤去した後に発掘調査を行い、調査終了後に基礎を撤去する計画であったため、平成21年5月18日から平成20年7月17日まで調査を行った。調査面積は710㎡、調査区は全てで21区である。

調査区の設定は、旧寄宿舍の基礎区画を一つの単位とした。基礎内は旧寄宿舍建築やそれに遡る開発行為のために大きく攪乱されている箇所、そして遺物包含層と遺構検出が出来るレベルの自然堆積層まで破壊されていた箇所については重機で深掘りを行い、遺構・遺物の有無を確認するとどめた。遺構・遺物の存在が予想される調査区及び遺物が得られた調査区については、表土及び無遺物層を重機で掘削した後に遺構の検出と遺物の取り上げに努めた。

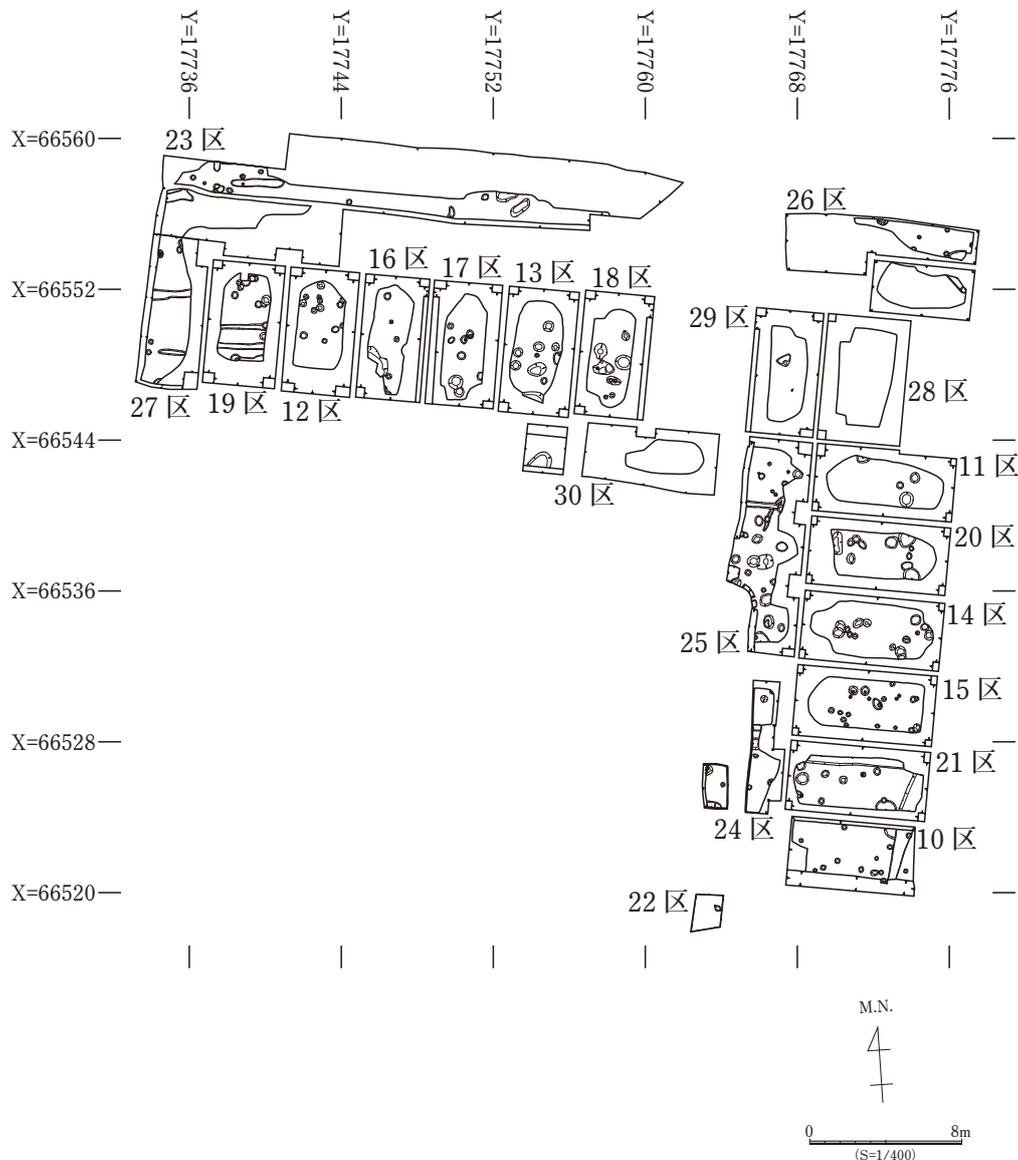


Fig.37 原遺跡第2期調査（平成21年度）調査区全体図

2-1 第2期調査10区 (Fig.38～40: 遺物番号71～74)

旧寄宿舎基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴13基、溝1条、土坑1基を検出した。4基の柱穴が直線上にほぼ等間隔で並ぶが、それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

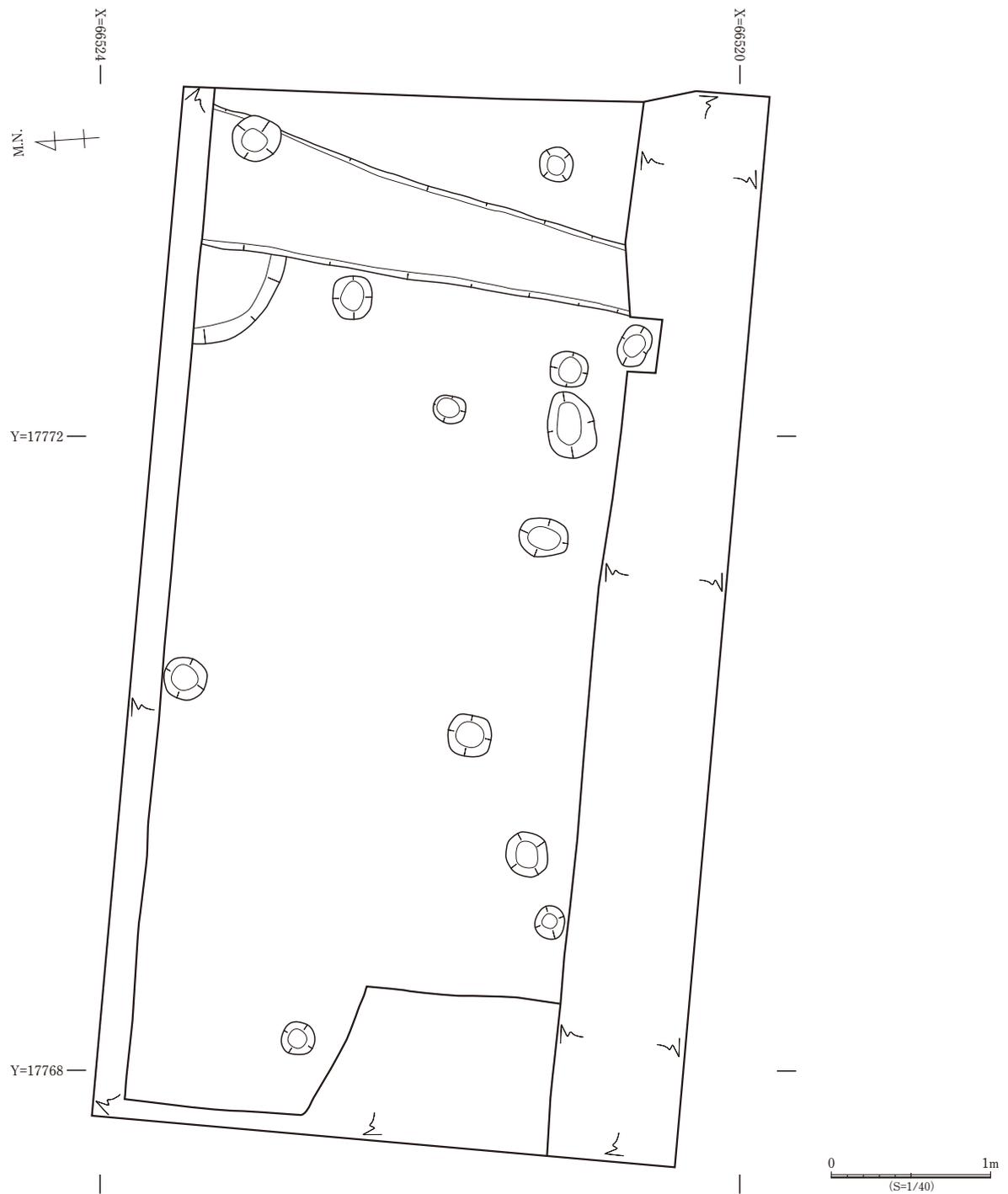


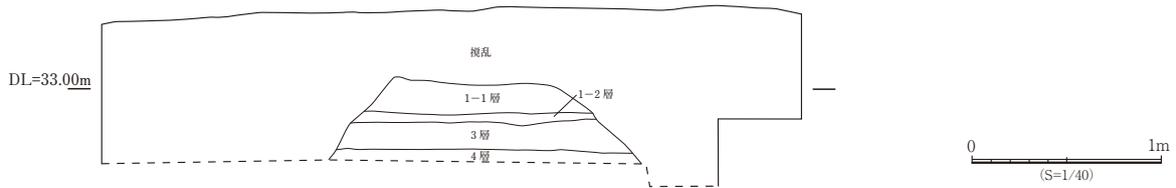
Fig.38 原遺跡第2期調査10区平面図

3層からは須恵器・土師器が出土している。71～73は須恵器である。71は坏蓋であり、比較的器高が高い器形が考えられる。72は壺である。比較的長い頸部を有する器形が考えられる。73は甕であり、胴部外面に平行タタキを有する。

74は表採遺物で、緑釉陶器である。皿であり、体部中央で内向きに屈曲し、口縁部は緩く外反しながら立ち上がる。京都産の可能性が高い。

N.P.
X=66523.502
Y=17774.189

S.P.
X=66519.988
Y=17774.048



原遺跡 10 区東壁土層図注記

1-1層 旧耕作土

1-2層 旧床土

3層 砂礫及び粘土混シルト層 (黒褐色 10YR 3/1)

しまり不良。粘性強い。5～10mm大の円礫を多く含む。遺物包含層。

4層 砂礫混シルト層 (灰黄褐色 10YR 5/2)

しまりやや良。粘性弱い。5～10cm大の円礫を多く含む。

Fig.39 原遺跡第2期調査10区東壁土層図

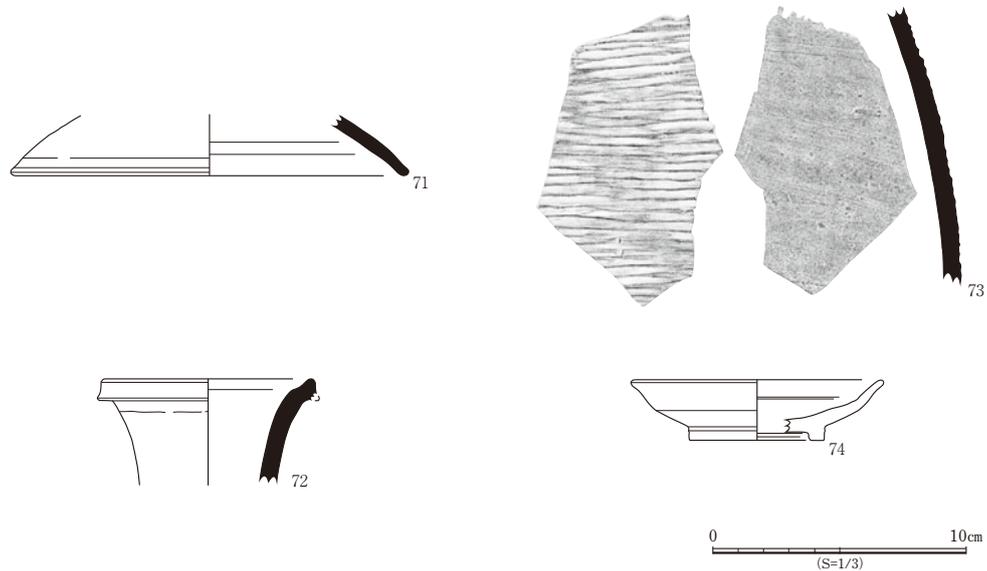


Fig.40 原遺跡第2期調査10区出土遺物図

2-2 第2期調査11区 (Fig.41・42: 遺物番号75～77)

旧寄宿舎基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来なかったため、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、

柱穴3基、土坑1基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

3層からは須恵器・土師器が出土している。75は須恵器である。坏身で、精緻な作りである。受部はほとんど形骸化している。

76・77は表土及び表採遺物で、76は須恵器、77は土師器である。76は坏蓋であり、内端に凹線を有する。77は椀であり、口縁部内端に凹線状の強いナデを有する。

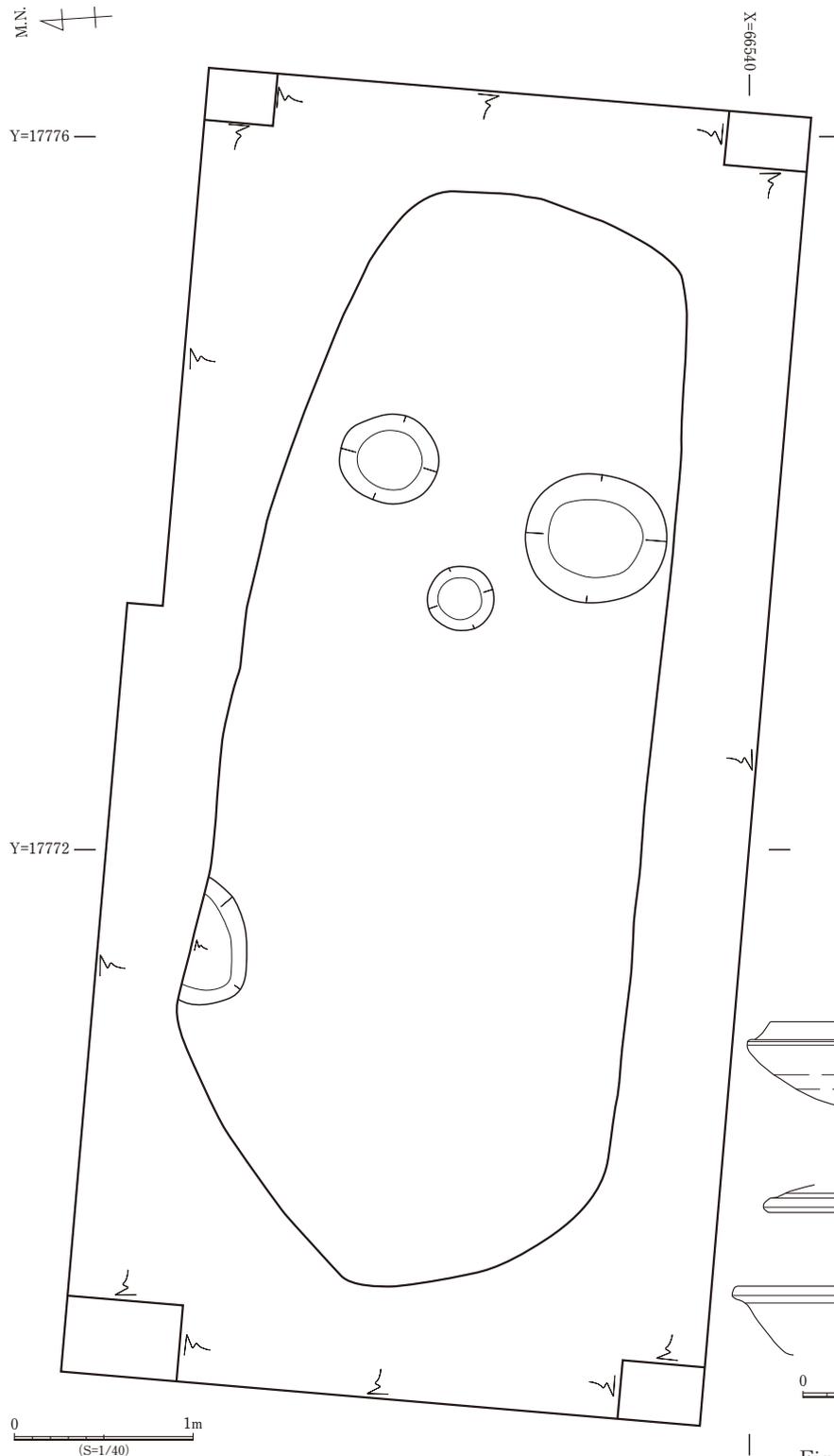


Fig.41 原遺跡第2期調査11区平面図

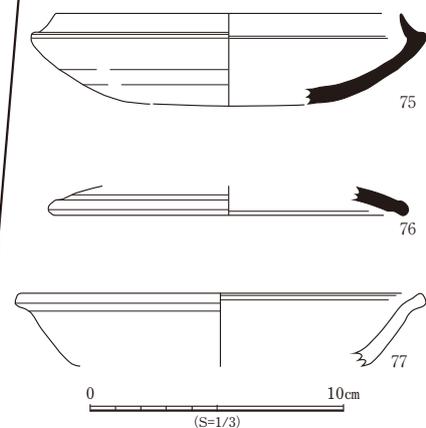


Fig.42 原遺跡第2期調査11区出土遺物図

2-3 第2期調査12区 (Fig.43・44: 遺物番号78)

旧寄宿舍基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴13基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

3層からは須恵器・土師器が出土している。78は須恵器である。椀であり、口縁部が緩く外反する。

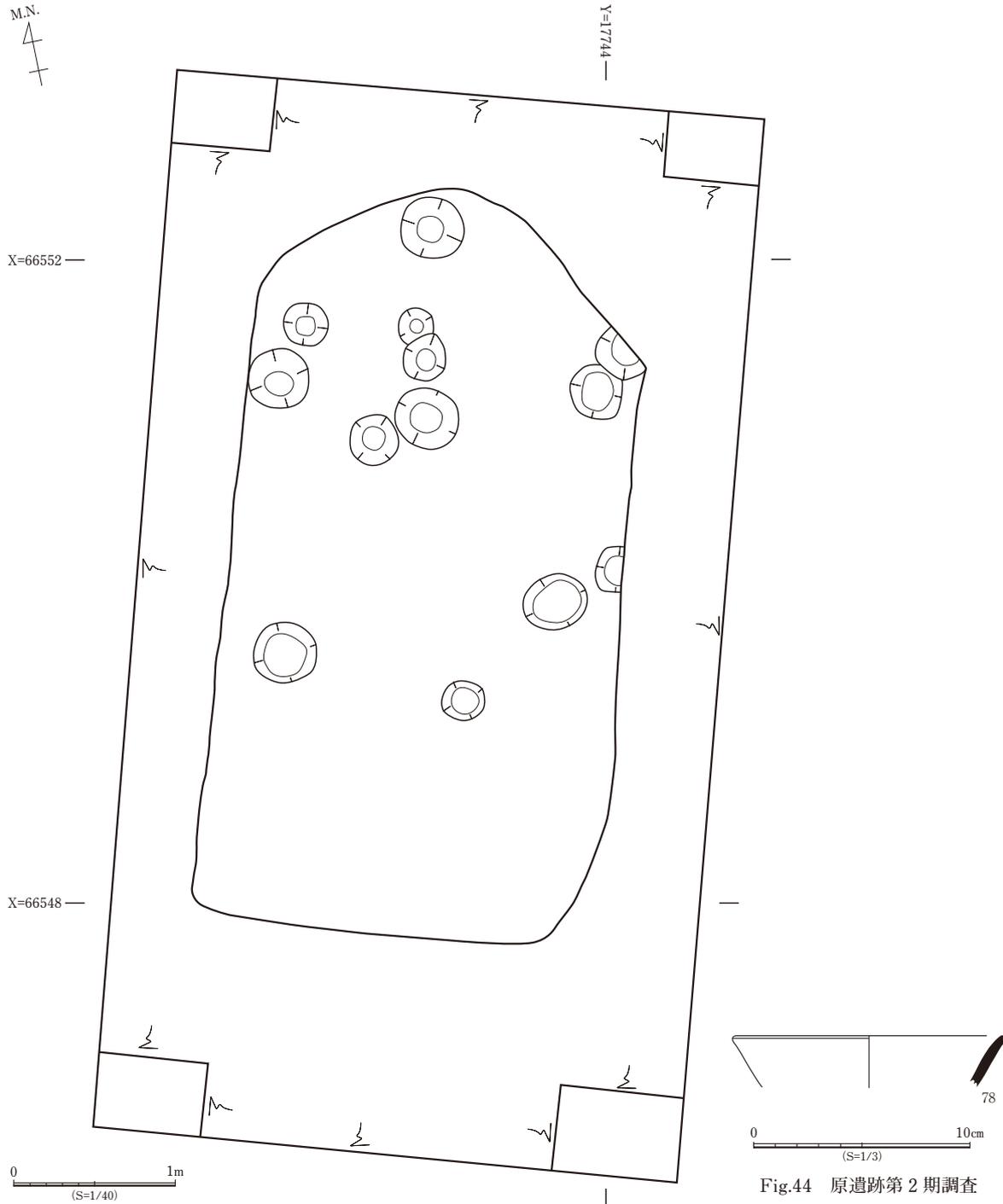


Fig.43 原遺跡第2期調査12区平面図

Fig.44 原遺跡第2期調査12区出土遺物図

2-4 第2期調査13区 (Fig.45 ~ 49 : 遺物番号 79 ~ 93)

旧寄宿舎基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴8基、土坑2基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

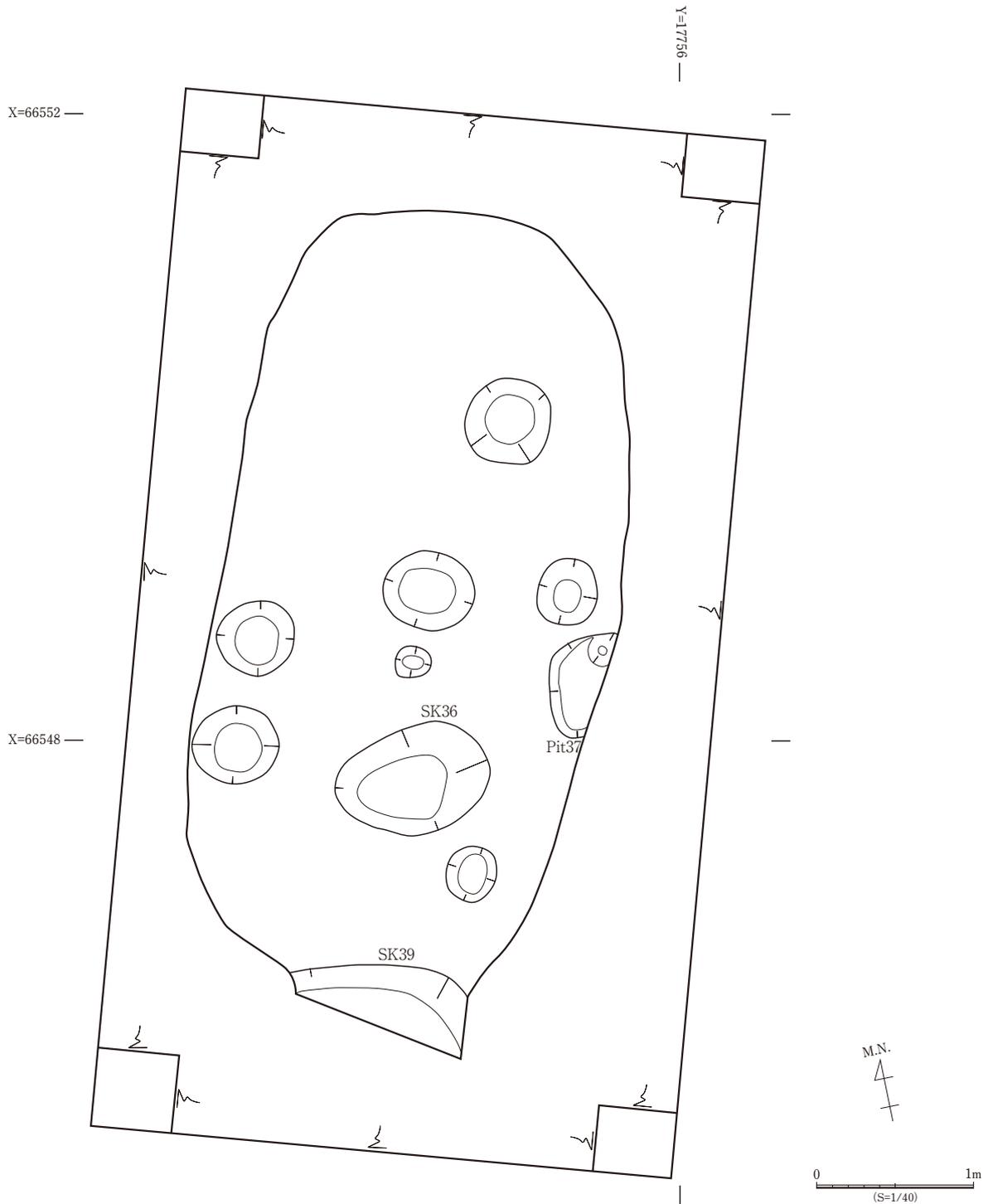


Fig.45 原遺跡第2期調査13区平面図

Pit37 は最大長 63cm、最大幅 40cm、深さ 40cm を測り、隅丸方形を呈すると考えられ、遺構内に掘り込みを有する。須恵器・土師器の小破片が出土した。79 は須恵器である。坏蓋であり、器高が高い。80 は土師器である。坏であり、口縁部内端に凹線状の強いナデを有する。

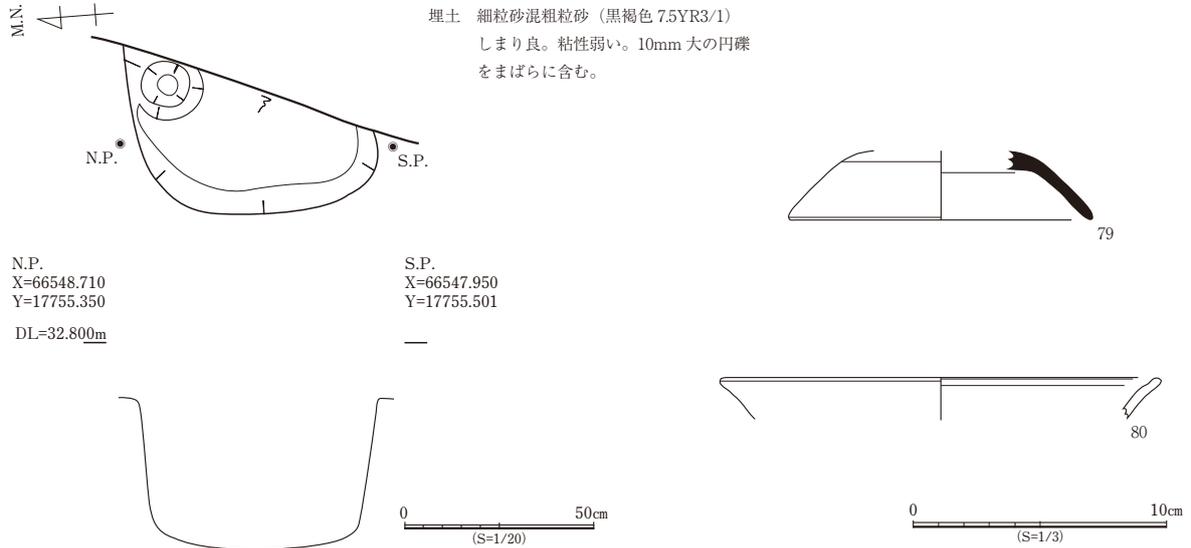


Fig.46 原遺跡第 2 期調査 13 区 Pit37 遺構及び出土遺物図

SK36 は最大長 100cm、最大幅 70cm、深さ 44cm を測り、楕円形状を呈する。須恵器・土師器の小破片が出土した。81 は土師器である。鍋の口縁部であり、内端を上向きにつまみ出している。

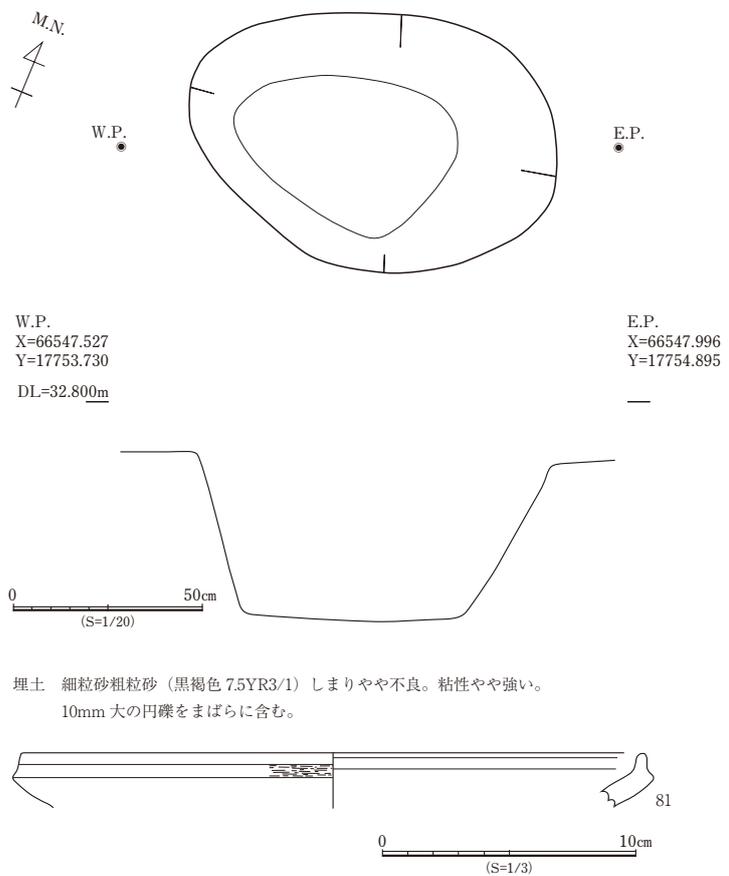


Fig.47 原遺跡第 2 期調査 13 区 SK36 遺構及び出土遺物図

SK39はそのほとんどが旧寄宿舍基礎の下であるため、規模及び形状は不明である。弥生土器・須恵器・土師器が出土した。82は弥生土器である。甕の底部である。83～88は須恵器である。83・84は坏蓋であり、83は宝珠状ツマミを、84は内端に段を有する。85は坏身、86は椀である。85は口縁部内端に緩いナデを有する。87・88は壺の底部である。いずれも貼付高台を有する。89は土師器である。椀の底部と考えられ、貼付高台を有する。90は土師質土器である。鍋と考えられる。

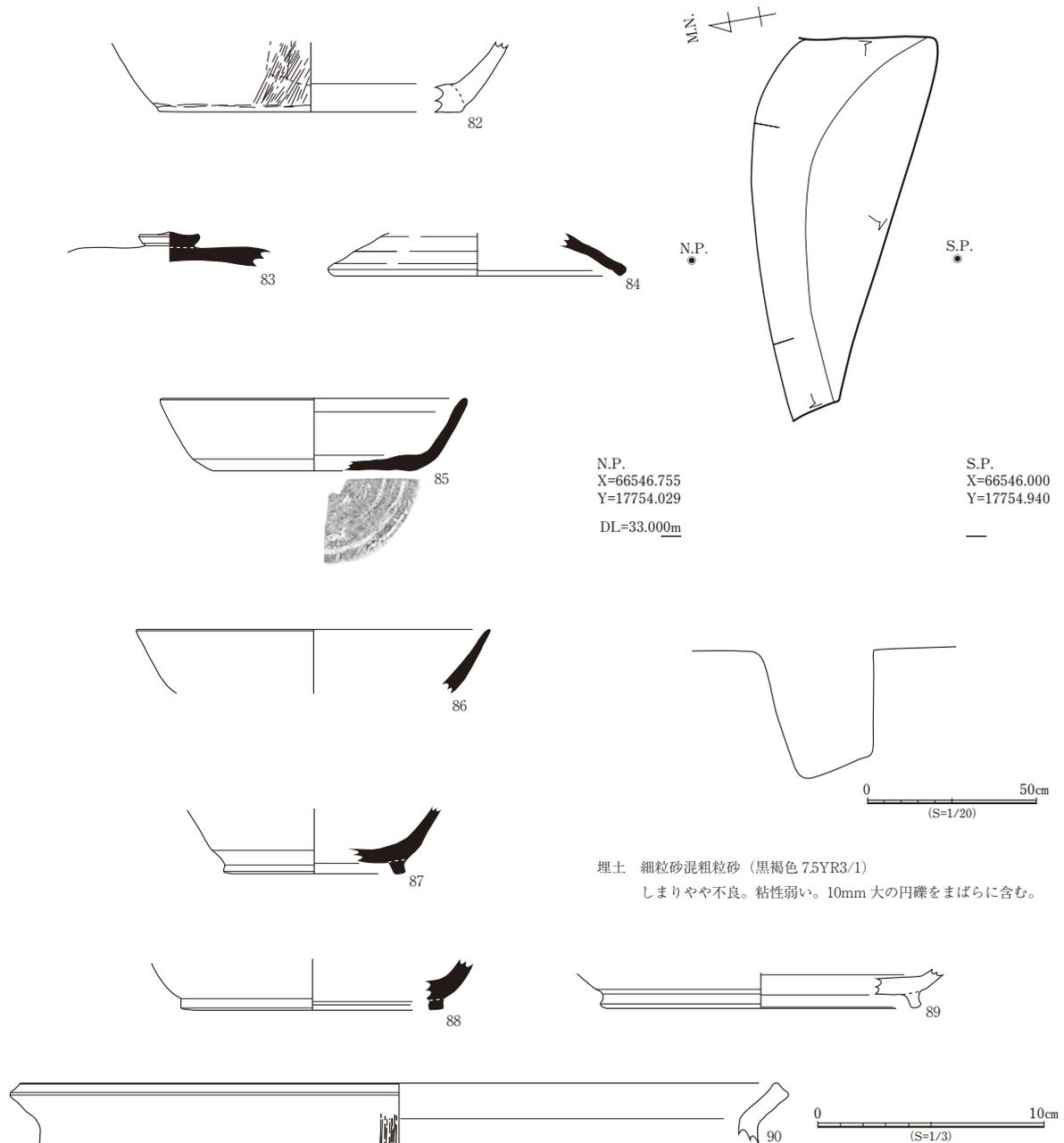


Fig.48 原遺跡第2期調査13区SK39遺構及び出土遺物図

3層からは須恵器・土師器が出土している。91・92は須恵器である。91は坏蓋であり、端部を下向きに突出させている。92は壺の底部である。

93は表土からの出土遺物で、須恵器である。坏蓋であり、宝珠状ツマミを有する。

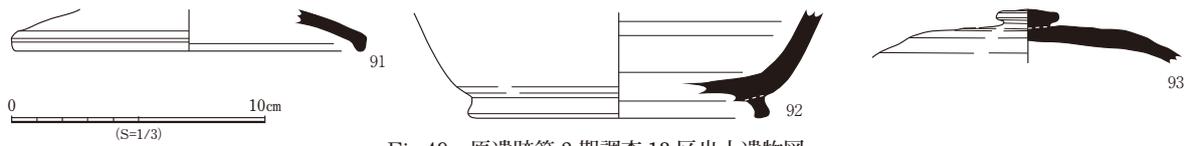


Fig.49 原遺跡第2期調査13区出土遺物図

2-5 第2期調査14区 (Fig.50・51: 遺物番号94~112)

旧寄宿舎基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴15基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

3層からは須恵器・土師器が出土している。94~101は須恵器である。94は皿であり、体部外面のハケナデが顕著である。95~98は壺である。いずれも口縁であり、95・96は端部を幅広く作出

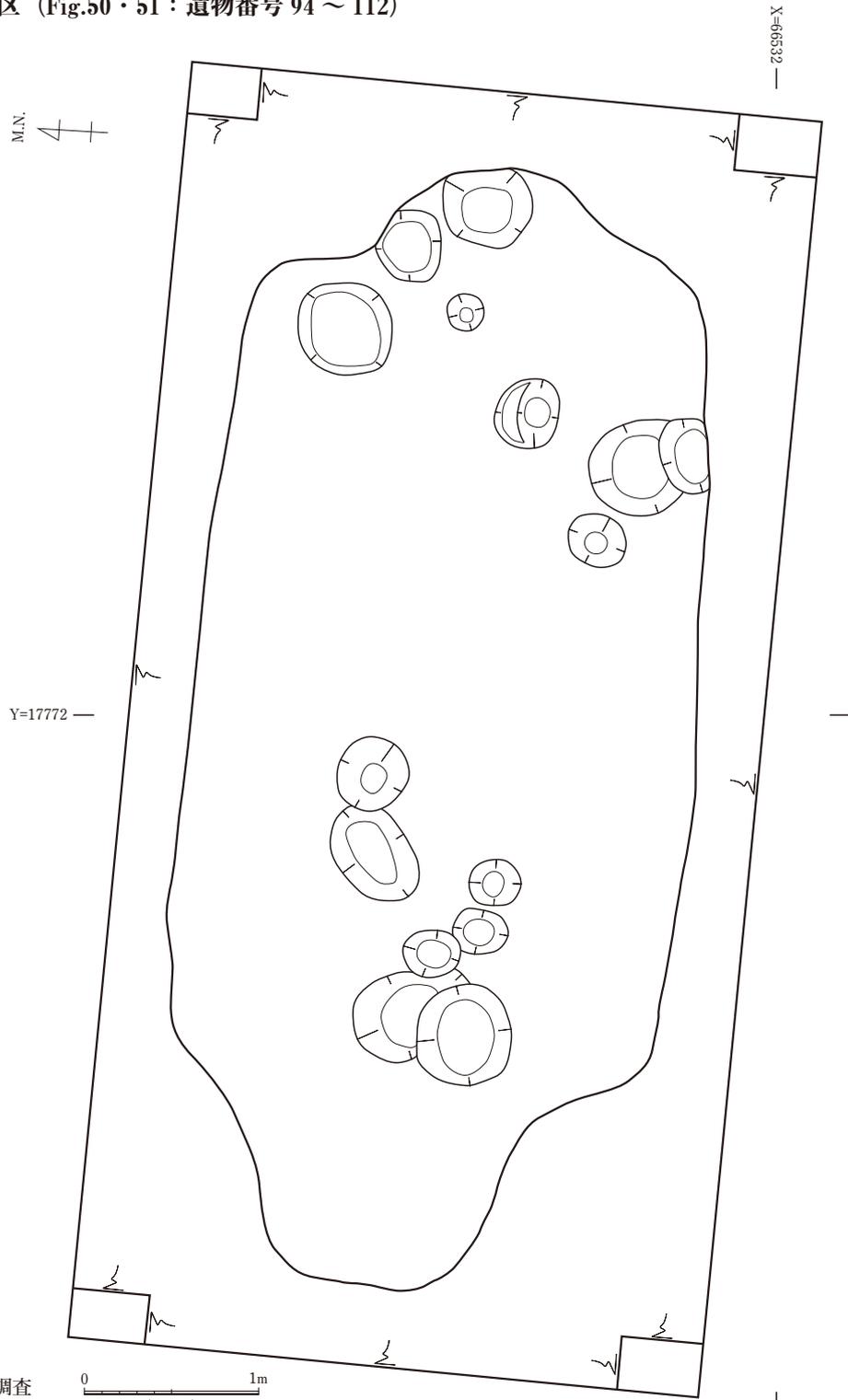


Fig.50 原遺跡第2期調査14区平面図

している。99は椀の底部と考えられ、回転糸切痕を有する。100・101は壺の底部と考えられ、比較的しっかりした高台を有する。102・103は土師器である。102は蓋であり、内端に段を有する。103は椀であり、口縁部内端に凹線状の強いナデを有する。104～107は土師質土器である。いずれも甕と考えられる。

108～112は攪乱及び表採で得られた資料である。108・109は須恵器であり、いずれも坏蓋である。110～112は土師器である。110は坏、111は蓋、112は椀である。

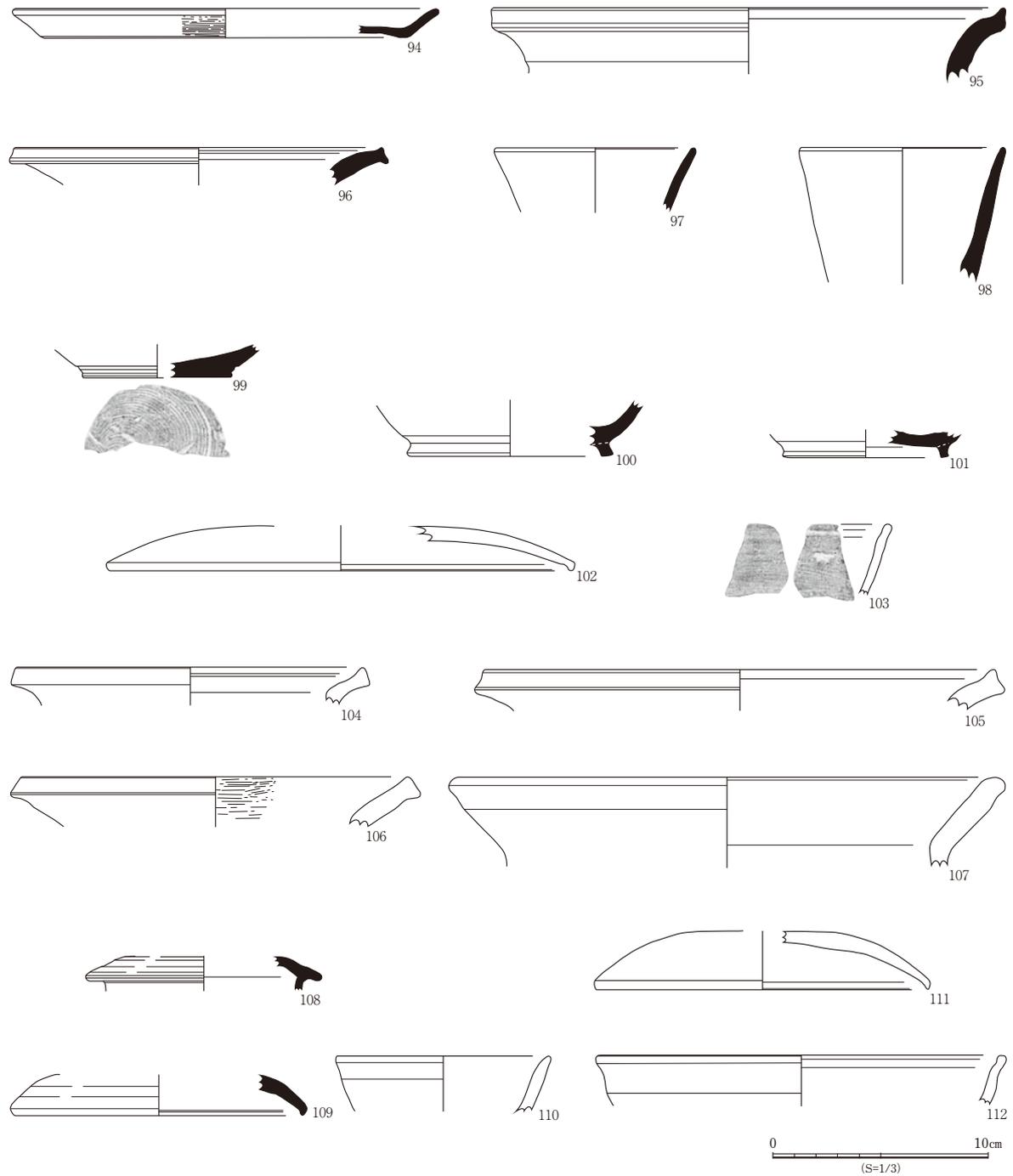


Fig.51 原遺跡第2期調査14区出土遺物図

2-6 第2期調査15区 (Fig.52・53: 遺物番号113～118)

旧寄宿舍基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴20基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

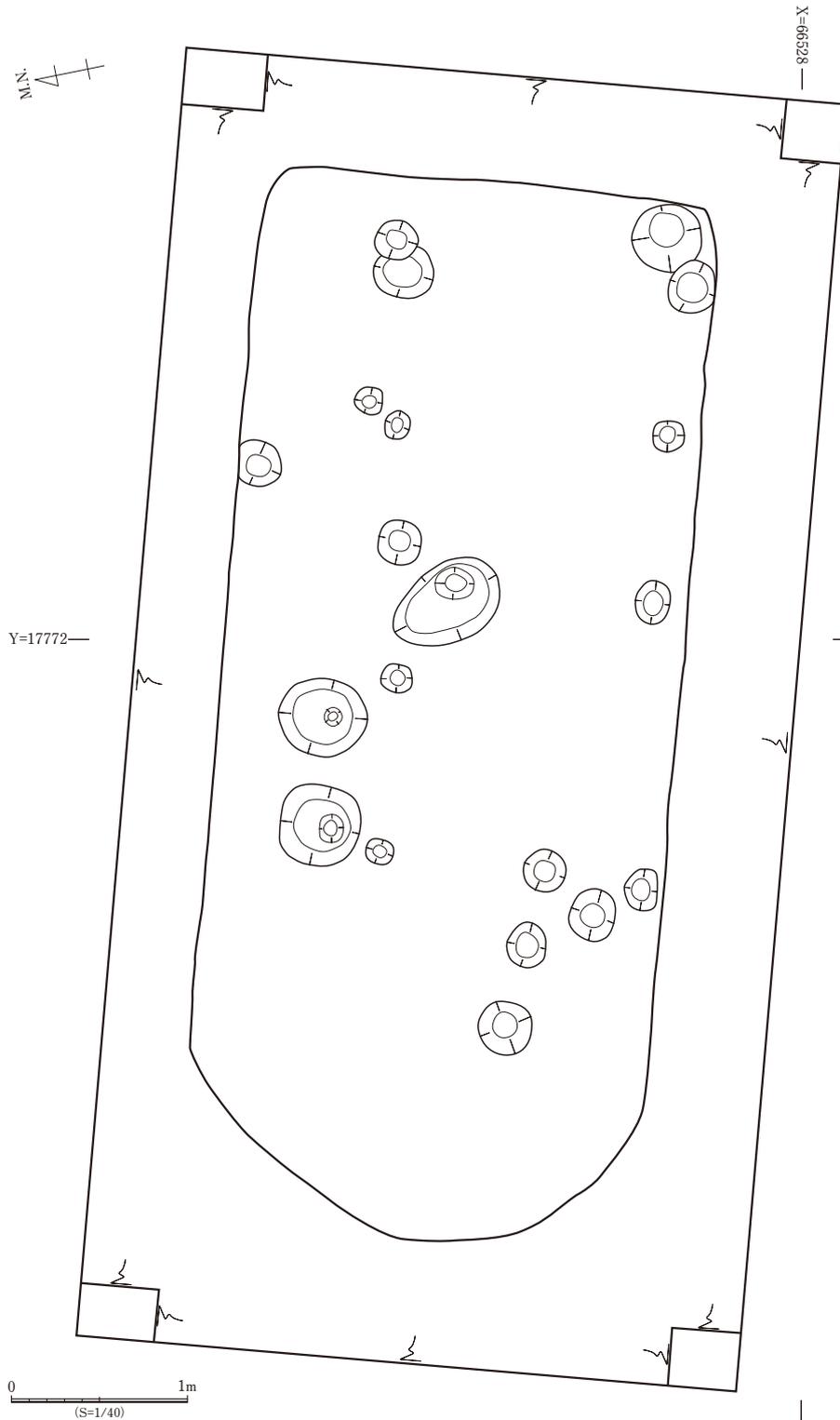


Fig.52 原遺跡第2期調査15区平面図

3層からは須恵器・土師器が出土している。113～115は須恵器である。113は坏蓋であり、内端を下向きにつまみ出している。114は椀である。端部が緩く外反する。115は壺である。胴上部に強い屈曲を有し、その外面に沈線を有する。

116～118は表採で得られた資料である。116は須恵器で、椀である。117は青磁である。碗であり、端部は断面玉縁状に作出されている。118は土師質土器である。羽釜であり、体部外面に平行タタキを有する。

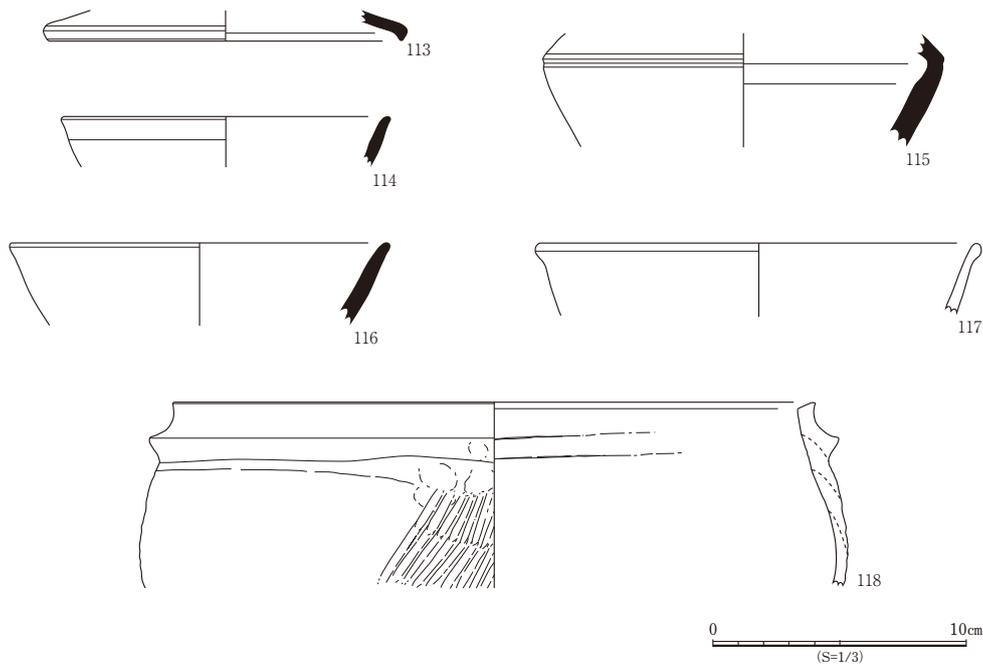


Fig.53 原遺跡第2期調査15区出土遺物図

2-7 第2期調査16区 (Fig.54・55: 遺物番号119～122)

旧寄宿舎基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴4基、性格不明2基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

3層から須恵器・土師器が出土している。119～121は須恵器である。119・120は坏蓋であり、119は内端を下向きに弱くつまみ出し、120は宝珠状ツマミを有する。121は椀であり、口縁部はやや厚く作出され、外反する。

122は表採で得られた資料である。丸瓦である。

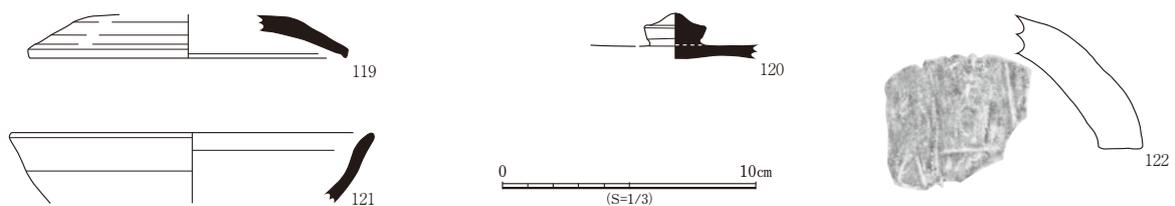


Fig.54 原遺跡第2期調査16区出土遺物図

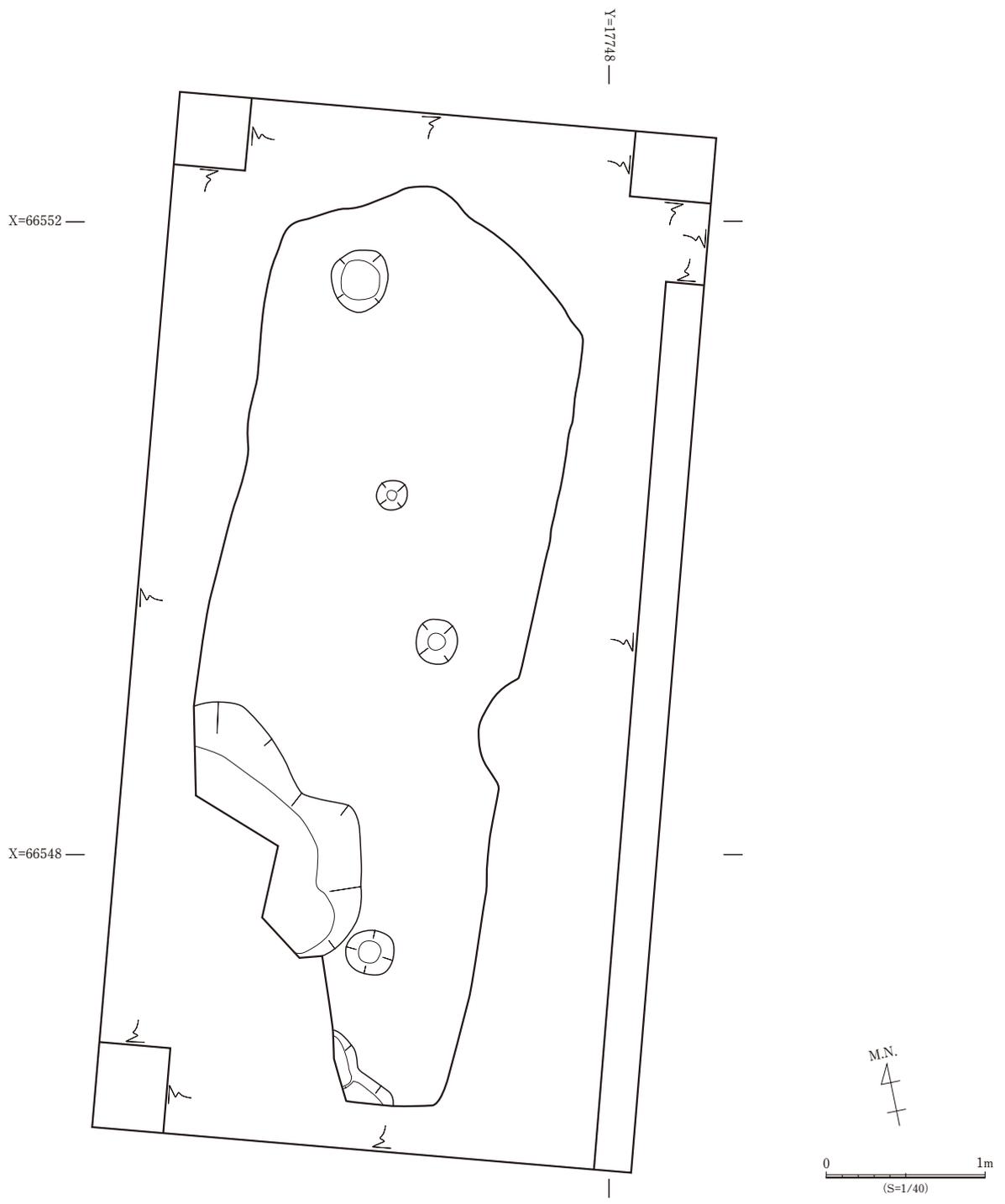


Fig.55 原遺跡第2期調査16区平面図

2-8 第2期調査17区 (Fig.56 ~ 58 : 遺物番号 123 ~ 126)

旧寄宿舍基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴8基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

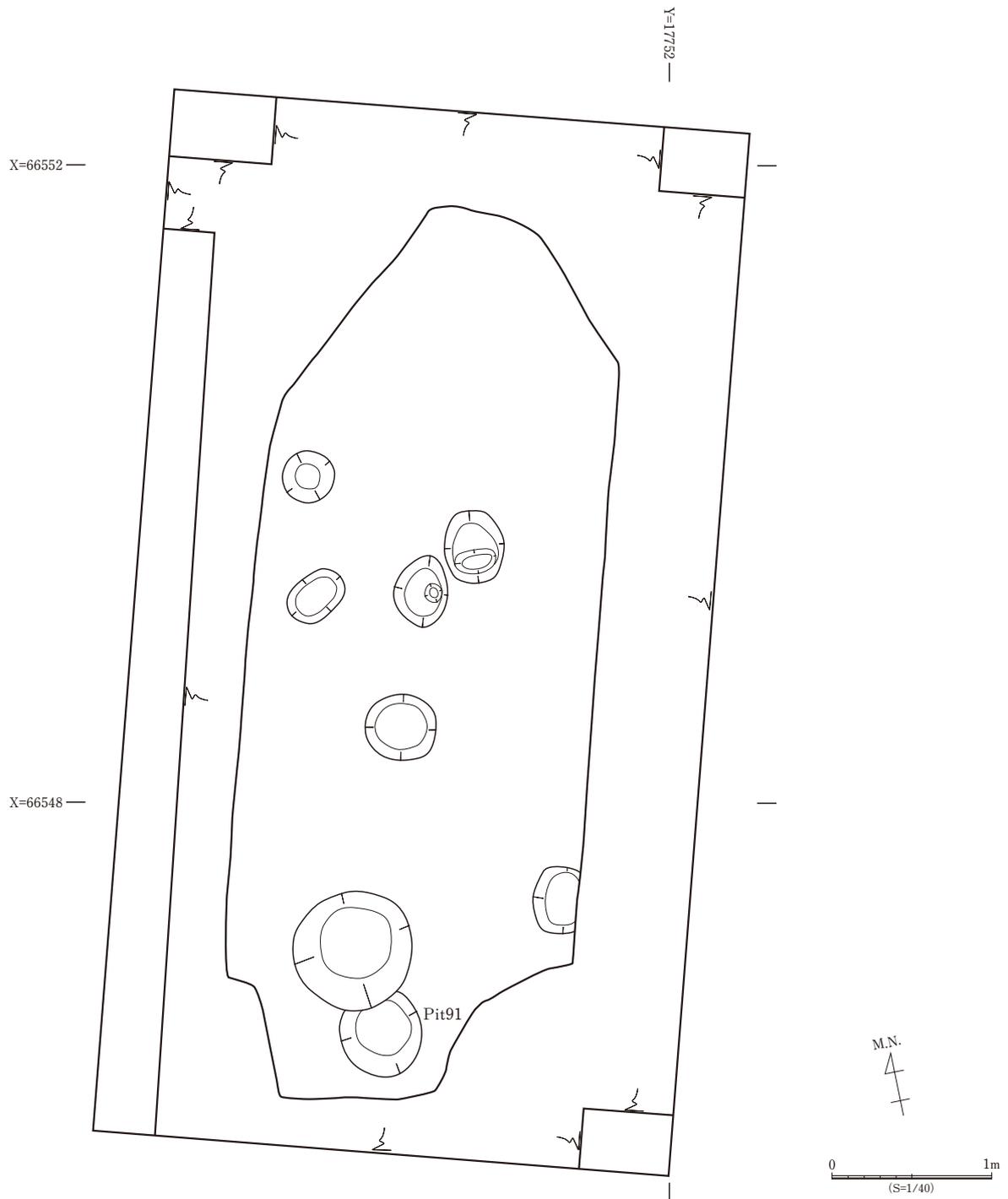
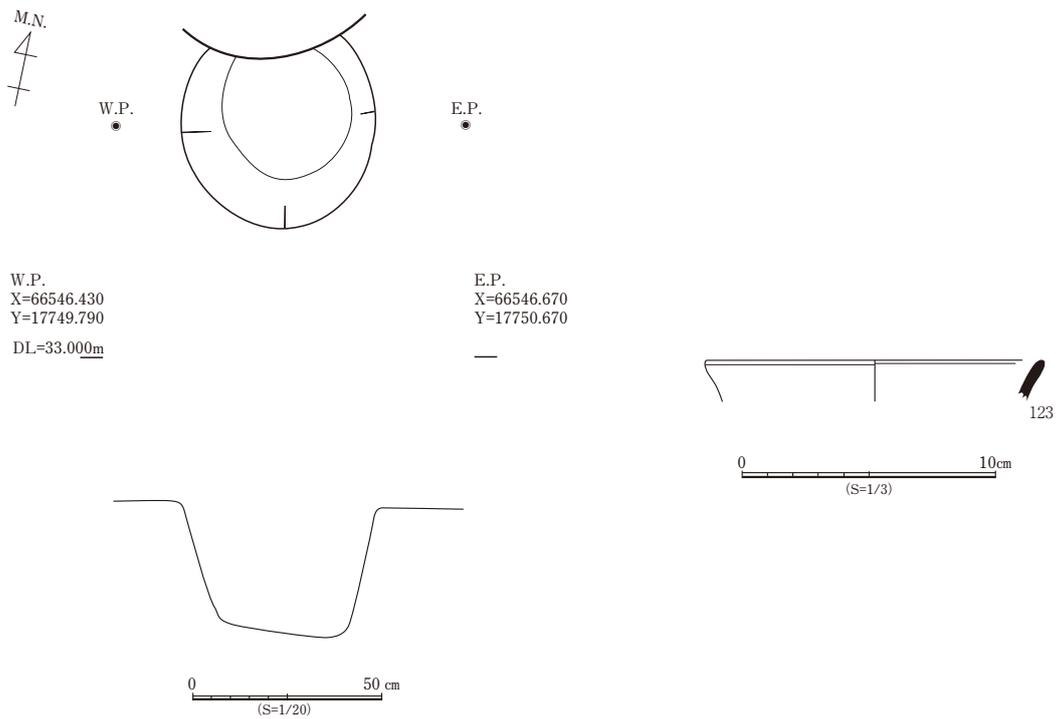


Fig.56 原遺跡第2期調査17区平面図

Pit91 は一部を Pit90 に切られている。最大長は復元で 57cm、最大幅 50cm、深さ 36cm を測り、楕円形状を呈していたと考えられる。須恵器・土師器の小破片が出土した。123 は須恵器であり、椀と考えられる。

3 層からは須恵器・土師器が出土している。124・125 は須恵器であり、壺の底部であると考えられる。126 は土師器であり、比較的大振りな椀の底部であると考えられる。貼付高台を有し、底部内面には串状工具が当たった痕跡が認められる。



埋土 細粒砂混粗粒砂(黒褐色10YR3/2) しまりやや良。粘性無し。10~30mm大の礫を多く含む。

Fig.57 原遺跡第2期調査17区 Pit91 遺構及び出土遺物図

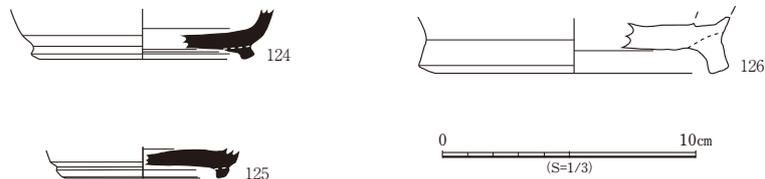


Fig.58 原遺跡第2期調査17区出土遺物図

2-9 第2期調査18区 (Fig.59 ~ 62 : 遺物番号 127 ~ 129)

旧寄宿舍基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴5基、土坑2基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

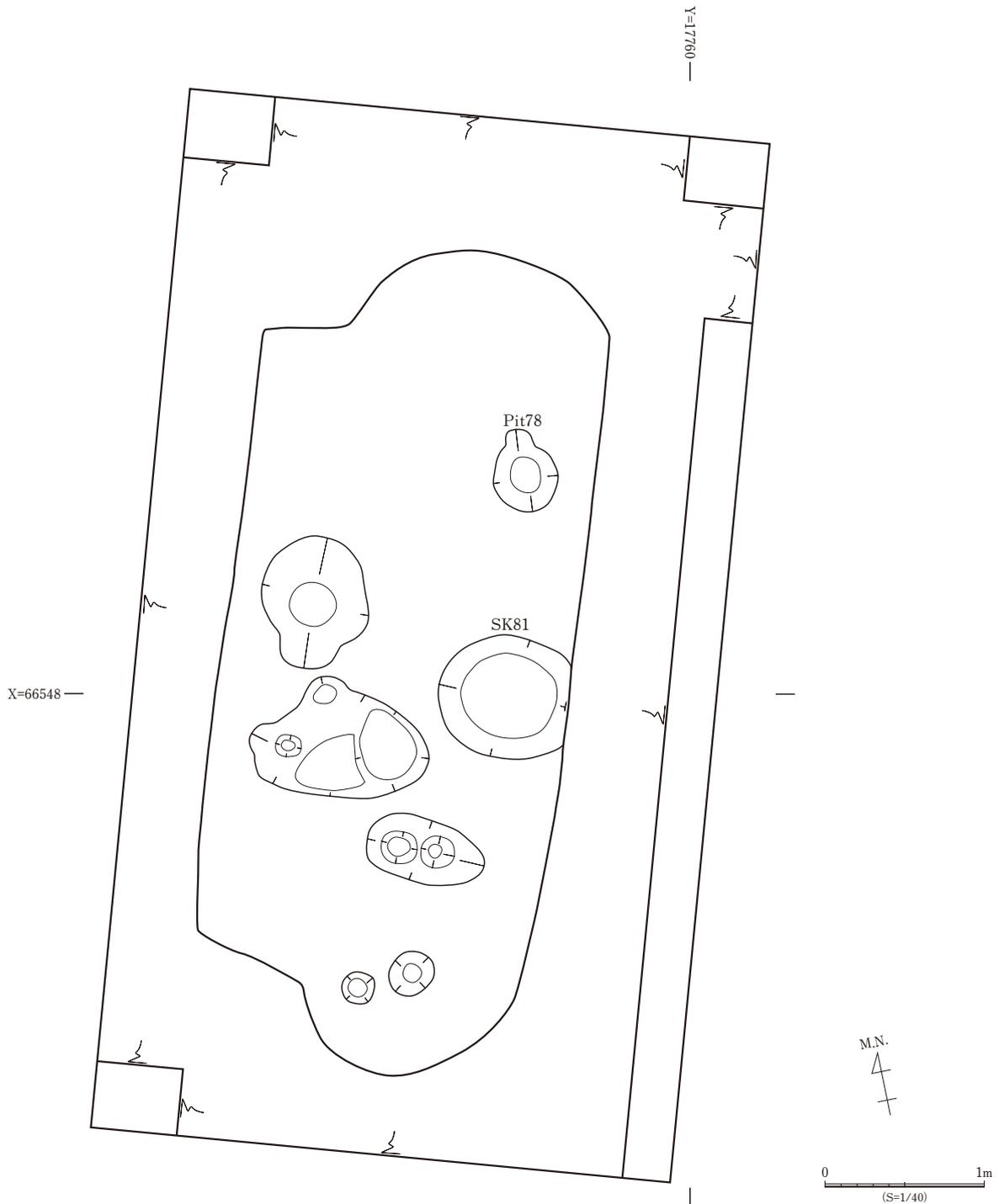


Fig.59 原遺跡第2期調査18区平面図

Pit78 は最大長 54cm、最大幅 40cm、深さ 20cm を測り、不定形状を呈する。須恵器・土師器の
小片が出土した。127 は須恵器である。皿であり、端部が短く外傾する。

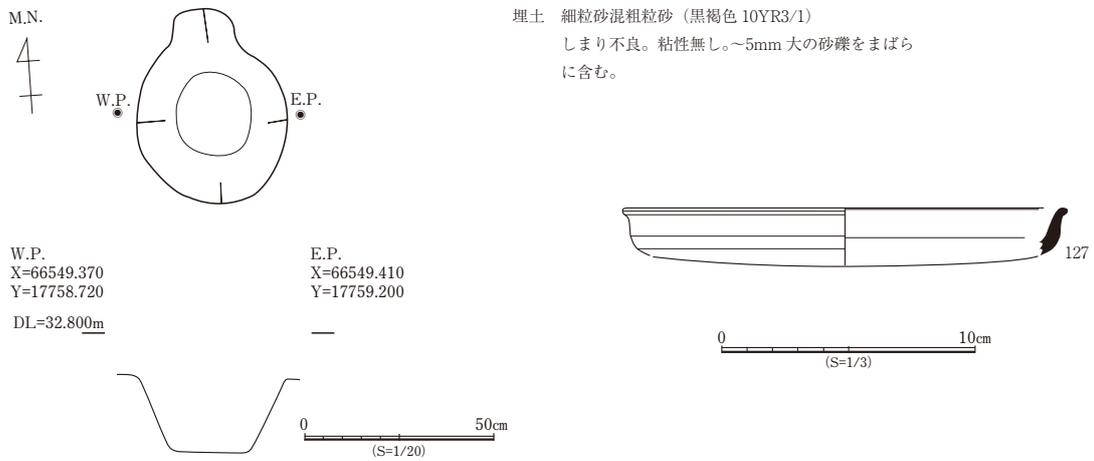


Fig.60 原遺跡第 2 期調査 18 区 Pit78 遺構及び出土遺物図

SK81 は最大長を復元で 88cm、最大幅 76cm、深さ 28cm を測り、楕円形状を呈する。弥生土器・
須恵器・土師器の小片が出土した。128 は弥生土器と考えられる。甕であり、口縁端部は断面 T 字
状に作出し、頸部外面にハケ目を有する。

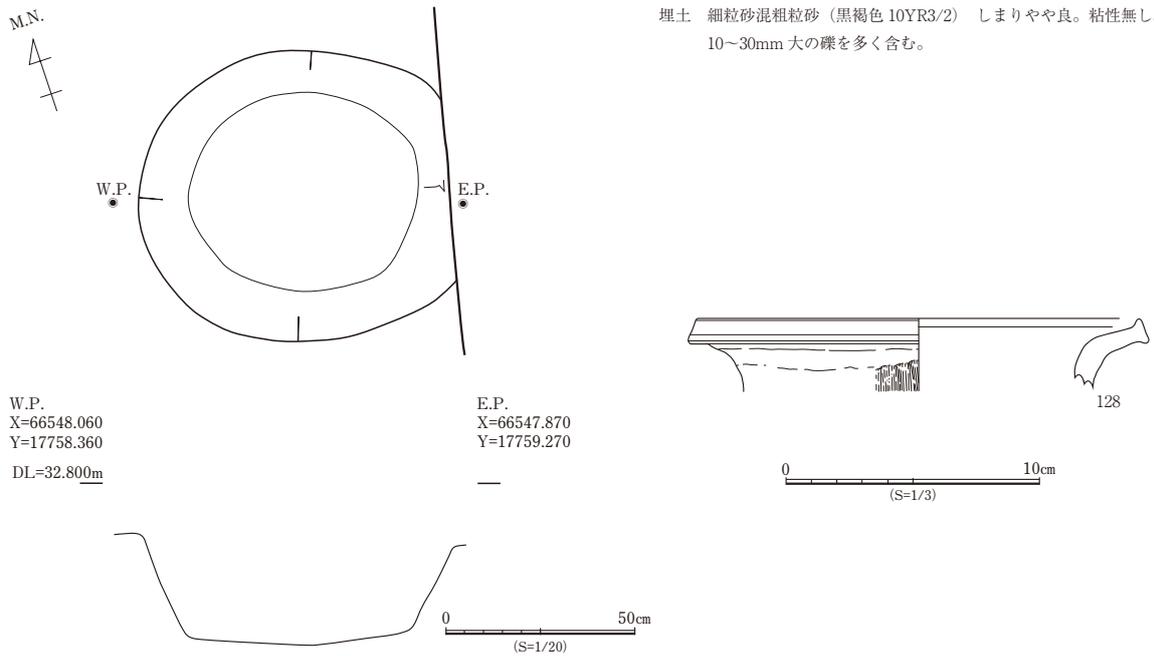


Fig.61 原遺跡第 2 期調査 18 区 SK81 遺構及び出土遺物図

129 は表採で得られた資料である。須恵
器であり、坏身である。

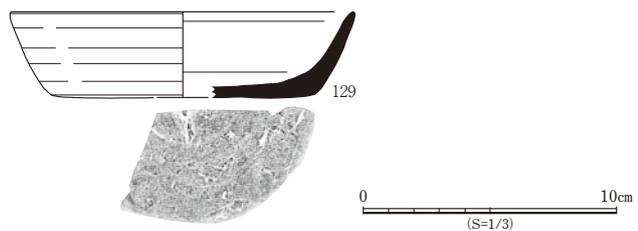


Fig.62 原遺跡第 2 期調査 18 区出土遺物図

2-10 第2期調査19区 (Fig.63～65：遺物番号130～132)

旧寄宿舍基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴12基、溝3条を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

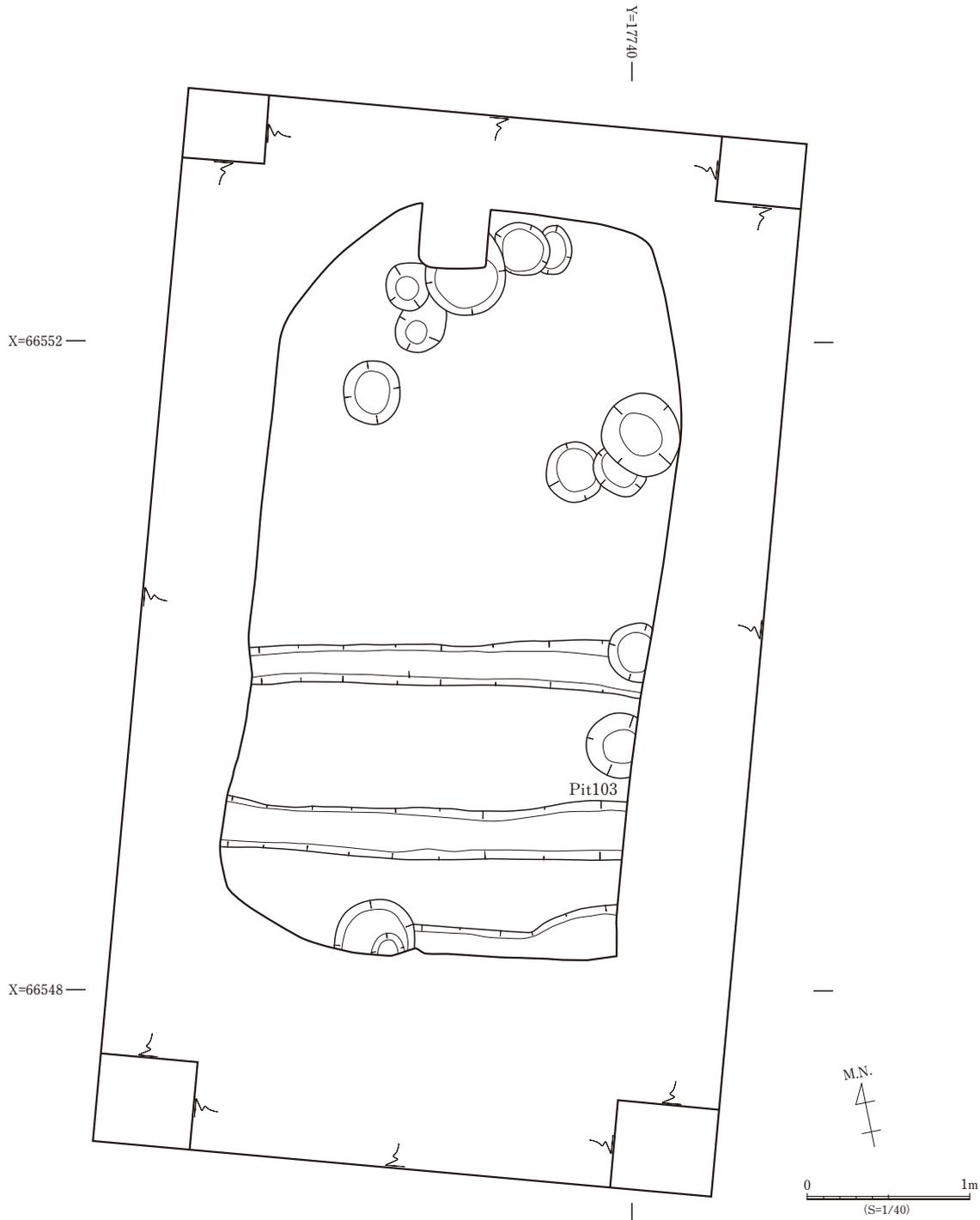
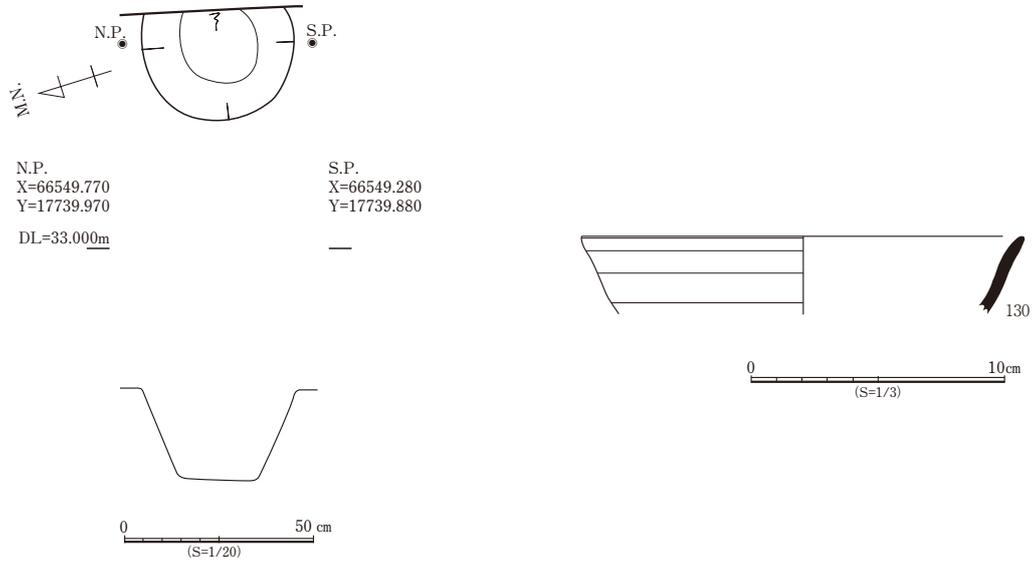


Fig.63 原遺跡第2期調査19区平面図

Pit103 は最大長 40cm、最大幅を復元で 36cm、深さ 22cm を測り、円形状を呈すると考えられる。須恵器・土師器の小片が出土した。130 は須恵器である。坏身と考えられる。



埋土 細粒砂混粗粒砂(黒褐色7.5YR3/1) しまり不良。粘性無し。

Fig.64 原遺跡第2期調査19区 Pit103 遺構及び出土遺物図

3層からは須恵器・土師器の細片が出土している。131・132 は須恵器である。131 は椀、132 は坏蓋である。



Fig.65 原遺跡第2期調査19区出土遺物図

2-11 第2期調査20区 (Fig.66～69：遺物番号133～136)

旧寄宿舍基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴10基、性格不明1基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

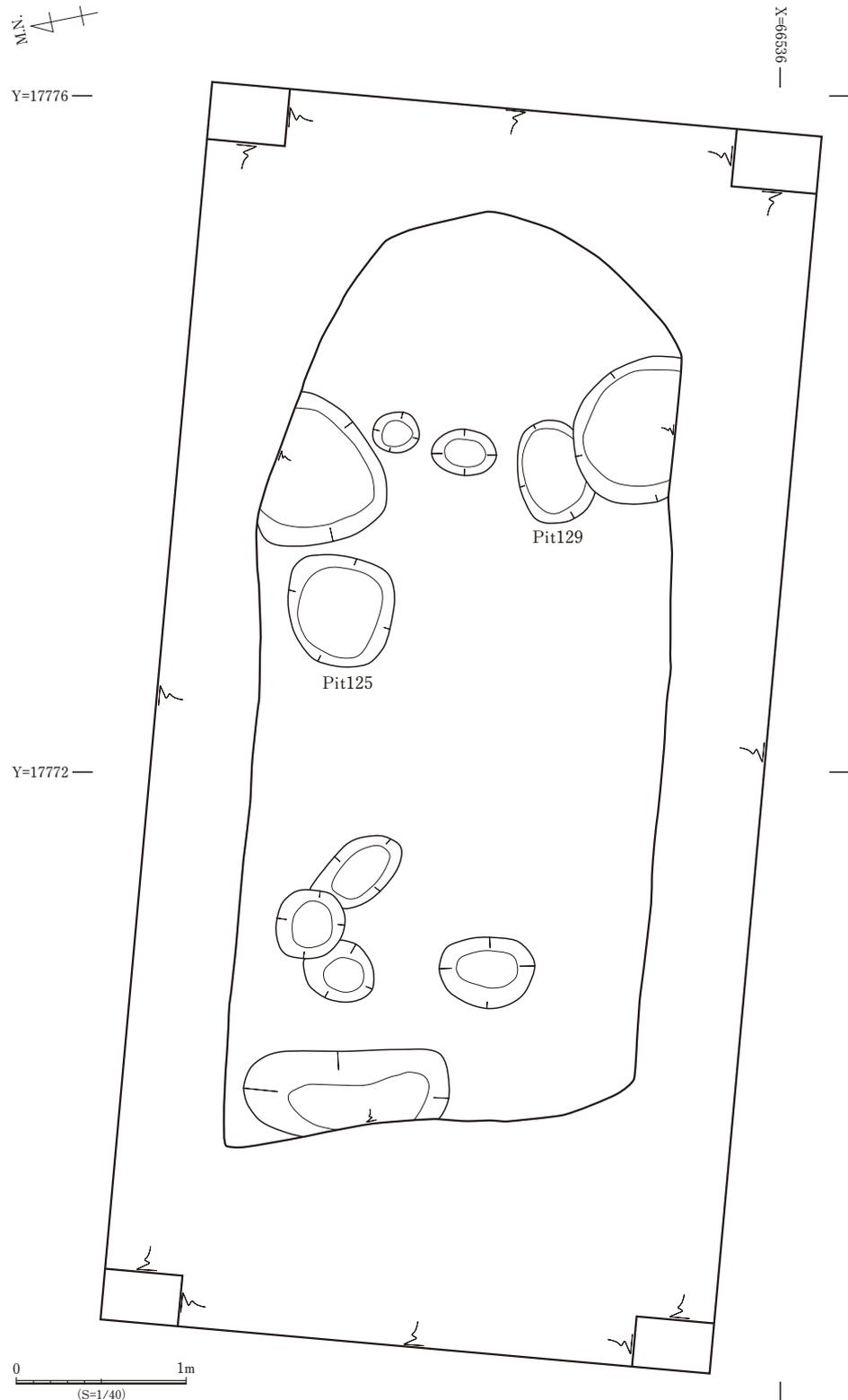


Fig.66 原遺跡第2期調査20区平面図

Pit125 は最大長 72cm、最大幅 66cm、深さ 24cm を測り、不定形状を呈する。須恵器・土師器の
の小片が出土した。133 は須恵器である。坏蓋であり、端部が下向きに突出するように作出されて
いる。宝珠状ツマミを有していた可能性が考えられる。

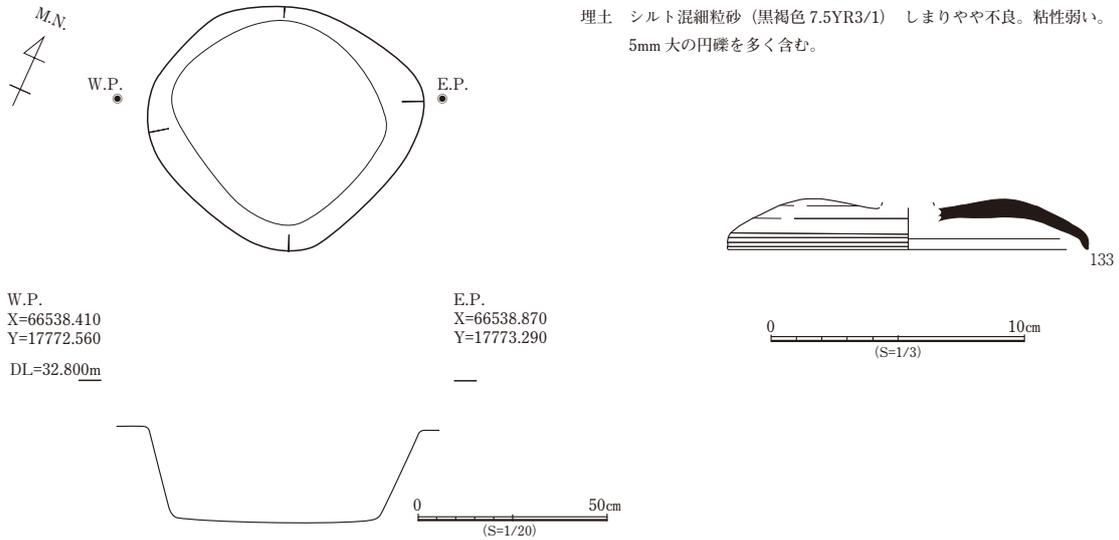


Fig.67 原遺跡第 2 期調査 20 区 Pit125 遺構及び出土遺物図

Pit129 は一部を Pit130 に切られている。最大長 60cm、最大幅を復元で 46cm、深
さ 30cm を測り、楕円形状を呈する。須恵器・土師器・土師質土器の小片が出土した。
134 は土師質土器である。鍋と考えられる。

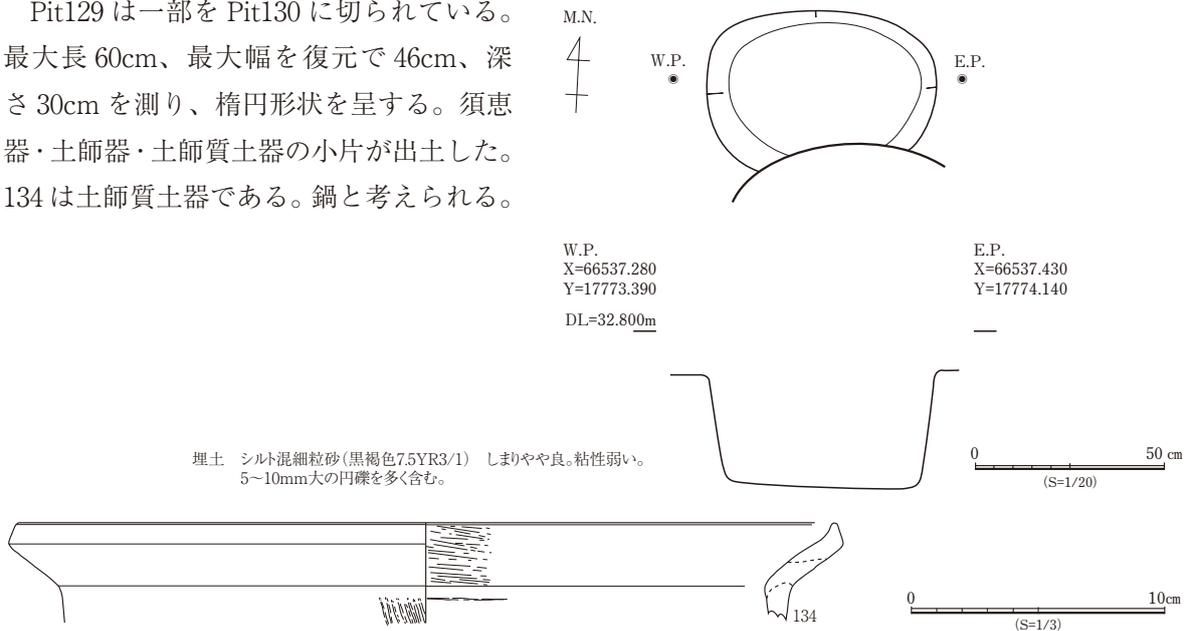


Fig.68 原遺跡第 2 期調査 20 区 Pit129 遺構及び出土遺物図

3 層からは須恵器・土師器・土師質土器の細片が出土している。135 は須恵器であり、壺である。
136 は土師質土器であり、小型の鍋の可能性が考えられる。



Fig.69 原遺跡第 2 期調査 20 区出土遺物図

2-12 第2期調査21区 (Fig.70・71: 遺物番号137~141)

旧寄宿舎基礎内の調査区である。攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴9基、土坑1基、溝2条を検出した。それぞれ
 の配置と隣の調査区
 における遺構の配置
 により、建物等の構
 築物は復元できな
 かった。

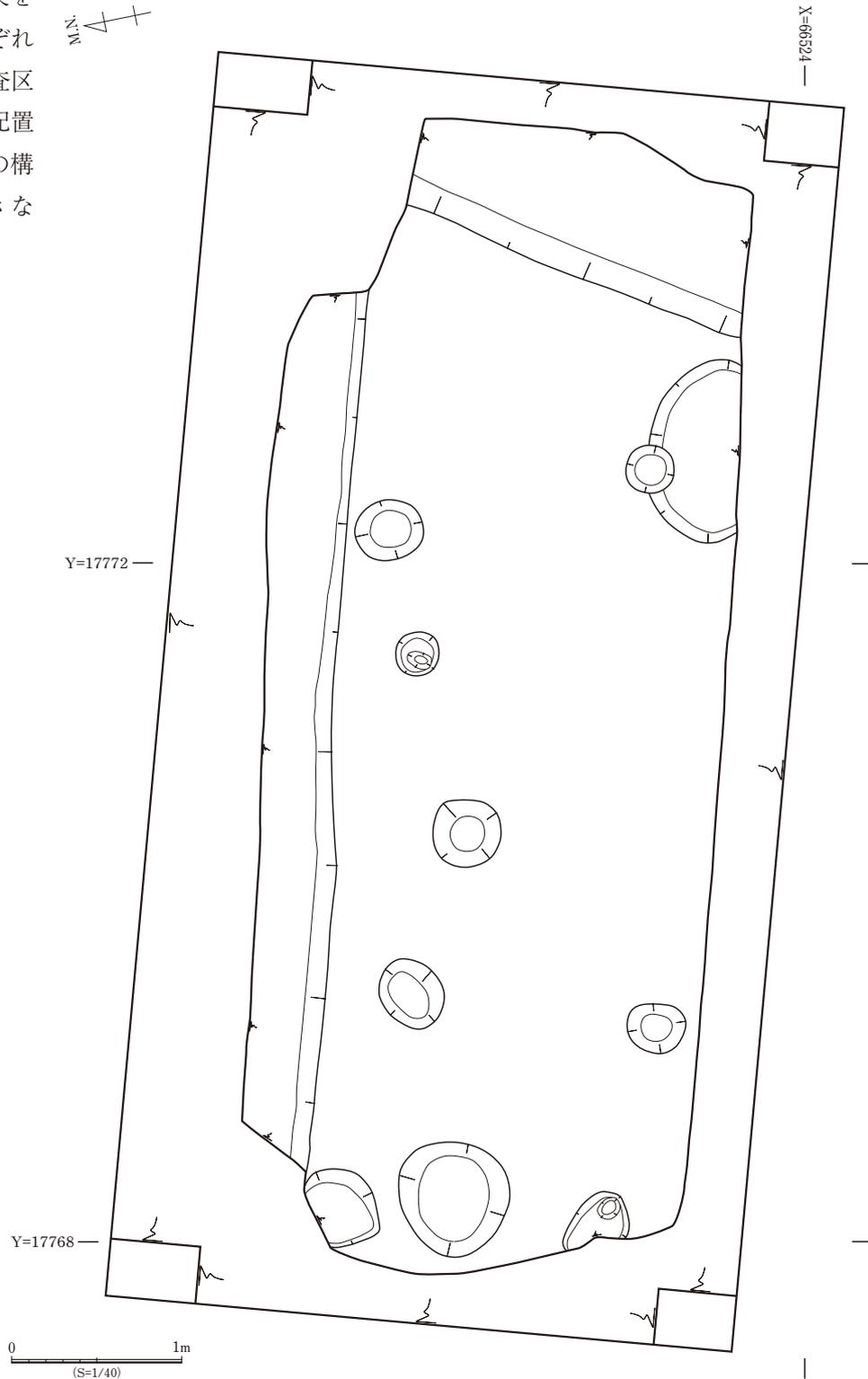


Fig.70 原遺跡第2期調査21区平面図

3層からは須恵器・土師器・土師質土器の細片が出土している。137・138は須恵器であり、いずれも広口壺の可能性が考えられる。139は土師器であり、椀である。口縁部内端に凹線状のナデを有する。140は青磁である。碗の底部であり、高台内面は無施釉である。141は白磁である。碗であって、口縁端部が緩く外反する。

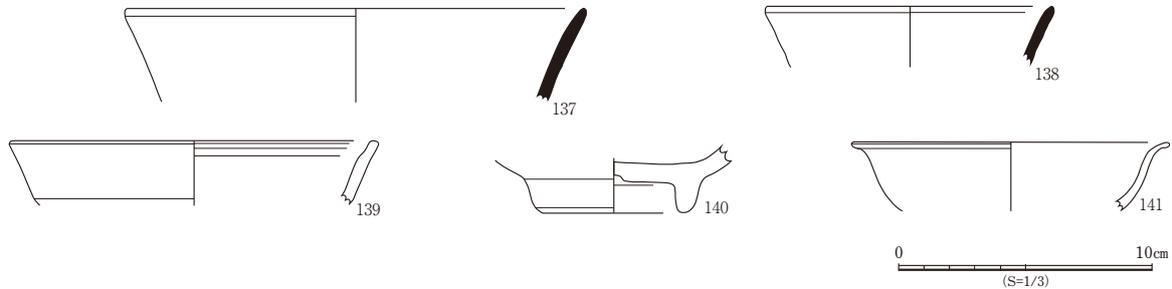


Fig.71 原遺跡第2期調査21区出土遺物図

2-13 第2期調査22区 (Fig.72~74: 遺物番号142)

攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴1基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

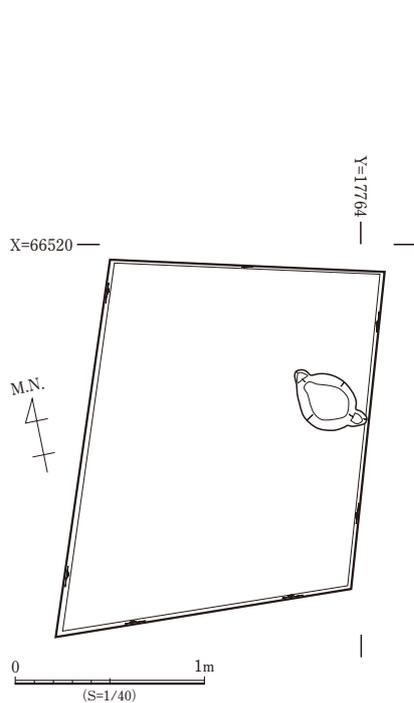
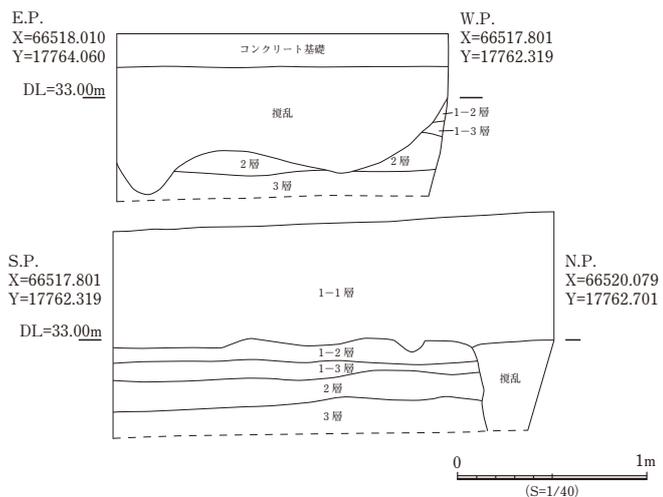


Fig.72 原遺跡第2期調査22区平面図



原遺跡22区南壁・西壁土層図注記

- | | | |
|------|----------------------------|-------------------------------------|
| 1-1層 | 盛土 | |
| 1-2層 | 細粒砂混シルト層 (灰色 5Y5/1) | しまり良。粘性極めて強い。旧耕作土。 |
| 1-3層 | 粗粒砂混シルト層 (灰褐色 7.5YR4/2) | しまり良。粘性やや強い。旧床土。 |
| 2層 | 砂礫混シルト層 (暗赤褐色 5YR3/2) | しまり良。粘性やや強い。5~10mm大の円礫及び微細土器片を多く含む。 |
| 3層 | 砂礫及び粘土混シルト層 (黒褐色 10YR 3/1) | しまり不良。粘性強い。5~10mm大の円礫を多く含む。遺物包含層。 |

Fig.73 原遺跡第2期調査22区南壁・西壁土層図

3層からは須恵器・土師器・土師質土器の細片が出土している。142は須恵器であり、坏身である。



Fig.74 原遺跡第2期調査22区出土遺物図

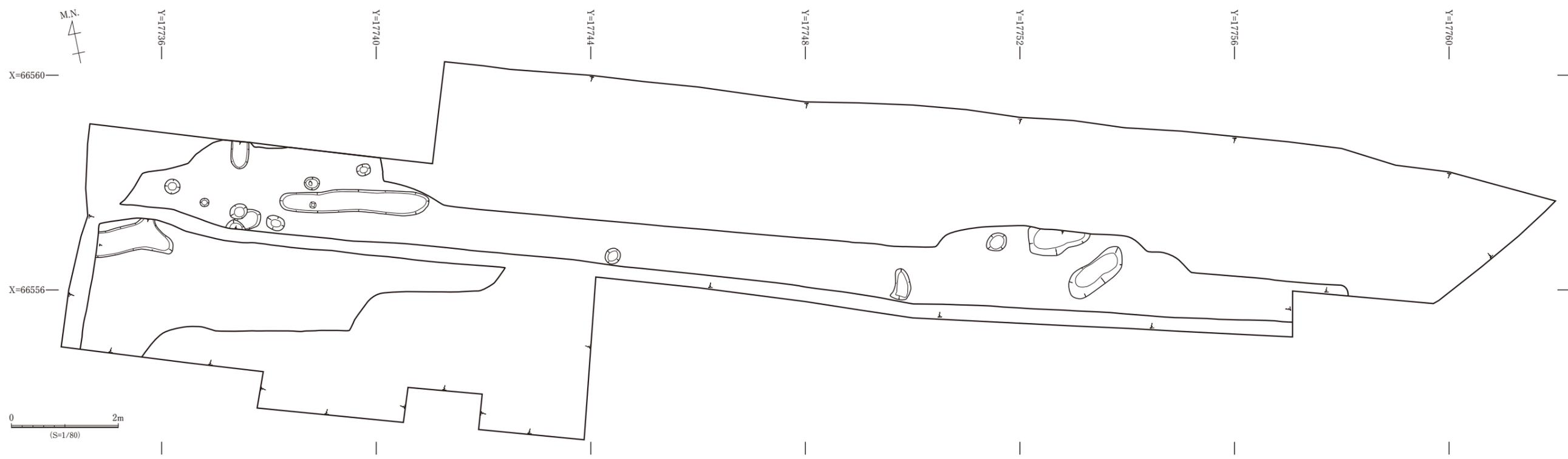


Fig.75 原遺跡第2期調査23区平面図

2-14 第2期調査23区 (Fig.75・76：遺物番号143)

攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。しかし攪乱が著しく、遺存状況は極めて悪い。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴10基、性格不明3基、溝状遺構2基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。第1期調査7区にもっとも近い調査区であり、第2期調査における3層は第1期調査7区の4層と類似している。

143は1層から得られた資料である。
青磁であり、碗の底部である。

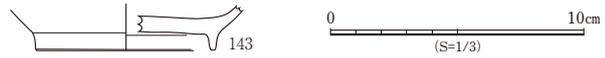


Fig.76 原遺跡第2期調査23区出土遺物図

2-15 第2期調査24区 (Fig.77～80：遺物番号144)

攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面で遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴6基、土坑1基、溝2条、性格不明1基

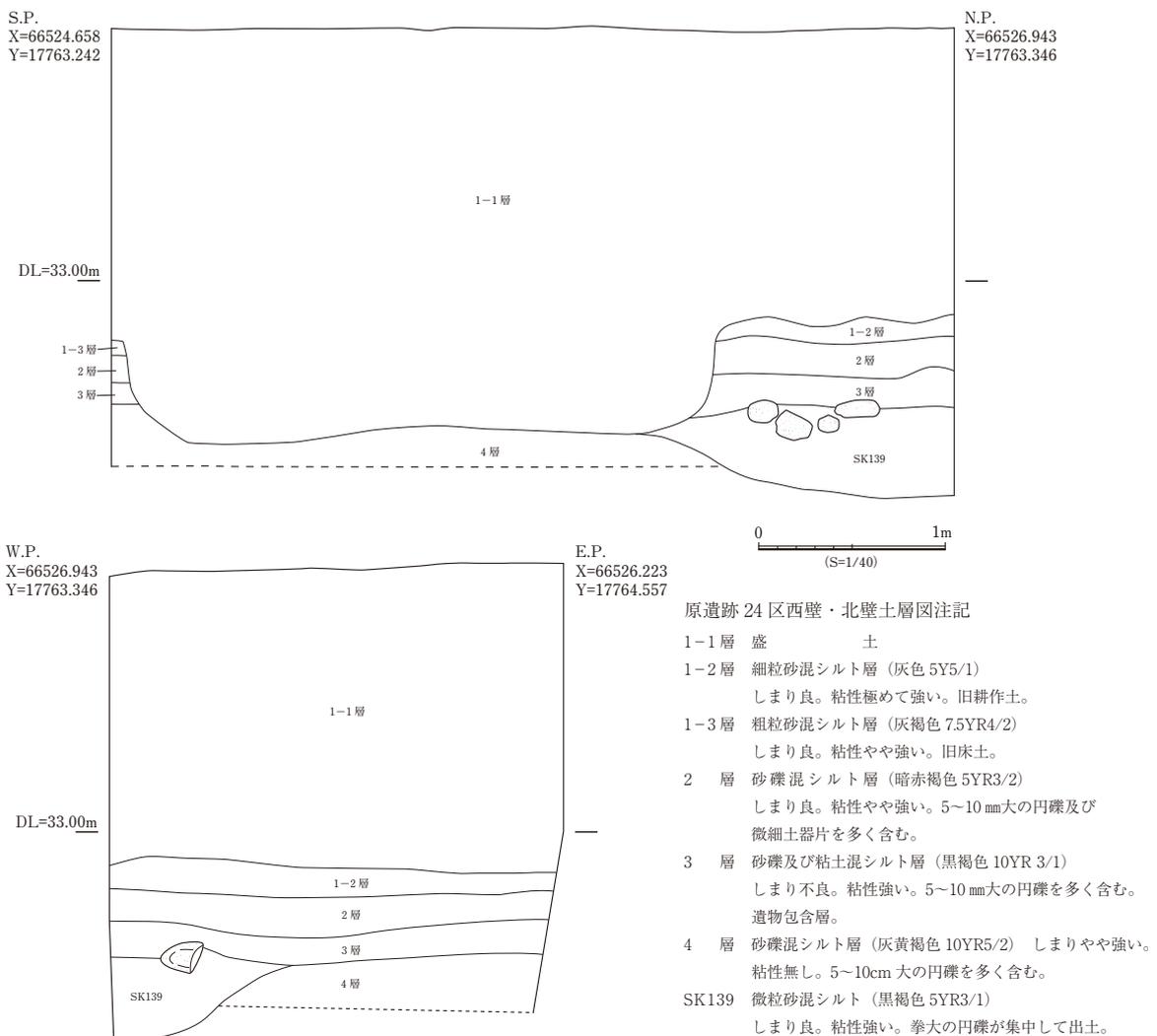
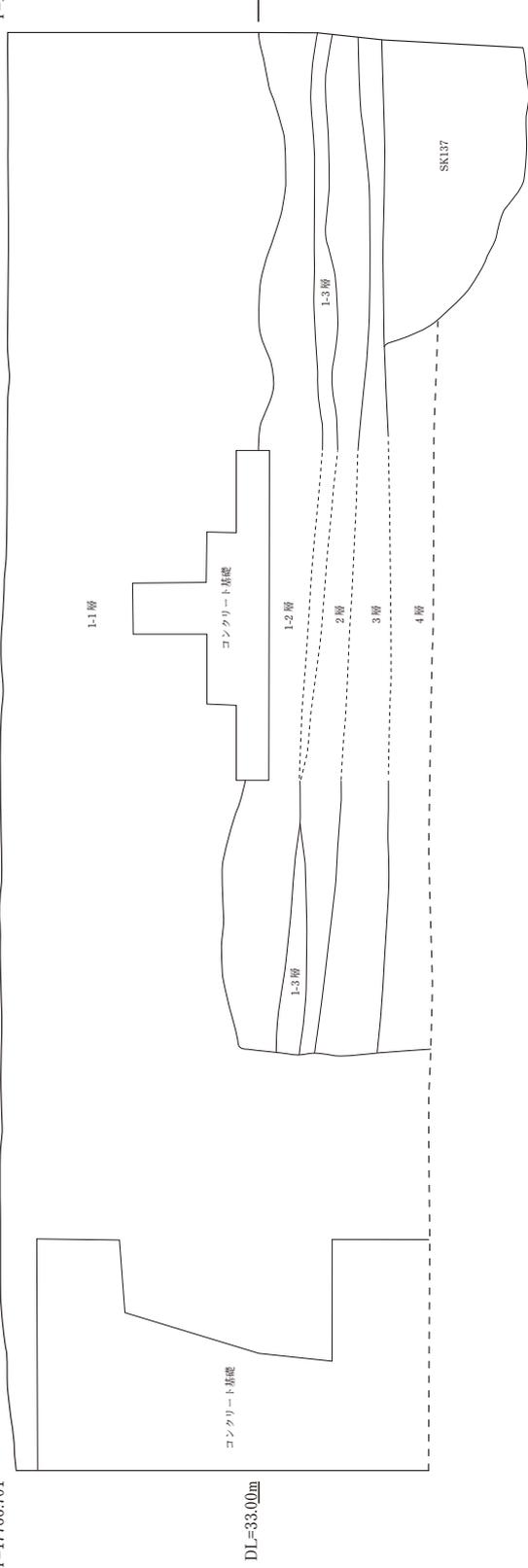


Fig.77 原遺跡第2期調査24区西壁・北壁土層図

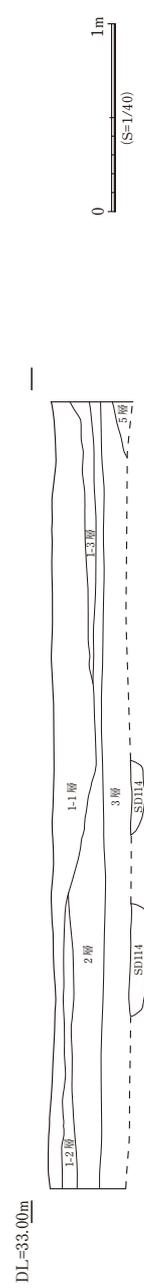
E.P.
X=66524.181
Y=17766.701

W.P.
X=66524.658
Y=17763.242



S.P.
X=66526.699
Y=17765.482

N.P.
X=66531.244
Y=17765.765



原遺跡 24 区南壁及び中央バンク土層図注記

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------------|
| 1-1層 盛土 | しまり良。粘性極めて強い。旧耕作土。 |
| 1-2層 細粒砂混シルト層 (灰色 5Y5/1) | しまり良。粘性やや強い。旧床土。 |
| 1-3層 粗粒砂混シルト層 (灰褐色 7.5YR4/2) | しまり良。粘性やや強い。5~10mm大の円礫及び微細土器片を多く含む。 |
| 2層 砂礫混シルト層 (暗赤褐色 5YR3/2) | しまり不良。粘性強い。5~10mm大の円礫を多く含む。遺物包含層。 |
| 3層 砂礫及び粘土混シルト層 (黒褐色 10YR 3/1) | しまりやや良。粘性弱い。5~10cm大の円礫を多く含む。 |
| 4層 砂礫混シルト層 (灰黄褐色 10YR 5/2) | |
| 5層 礫層 | |
| SD114 微粒砂混シルト (黒褐色 5YR3/1) | しまり良。粘性強い。 |
| SK137 微粒砂混シルト (黒褐色 5YR3/1) | しまり良。粘性強い。 |

Fig.78 原遺跡第2期調査 24区南壁及び中央バンク土層図

を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

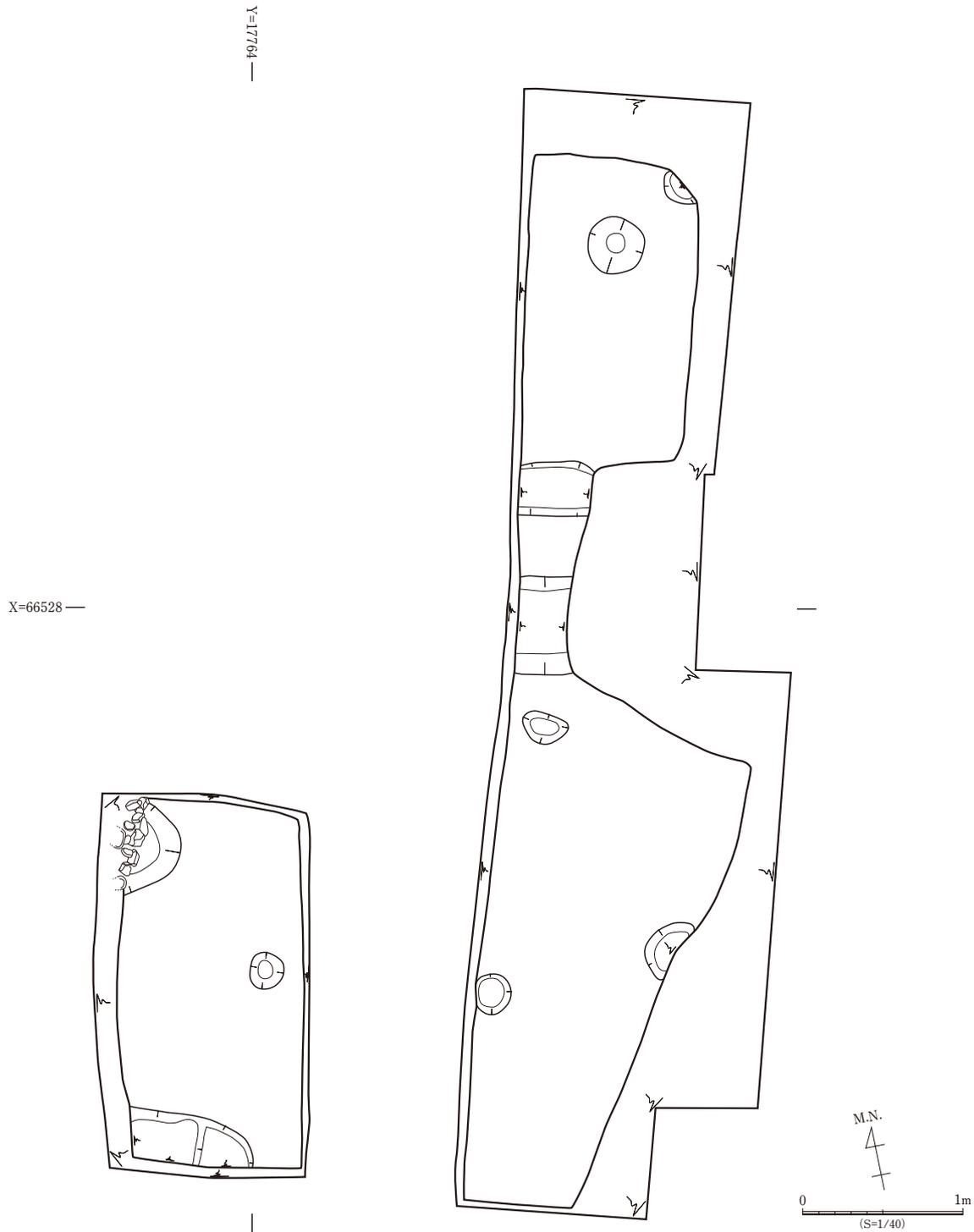


Fig.79 原遺跡第2期調査24区平面図

3層からは須恵器・土師器・土師質土器の細片が出土している。144は土師器であり、皿である。



Fig.80 原遺跡第2期調査24区出土遺物図

2-16 第2期調査25区 (Fig.81 ~ 89 : 遺物番号 145 ~ 159)

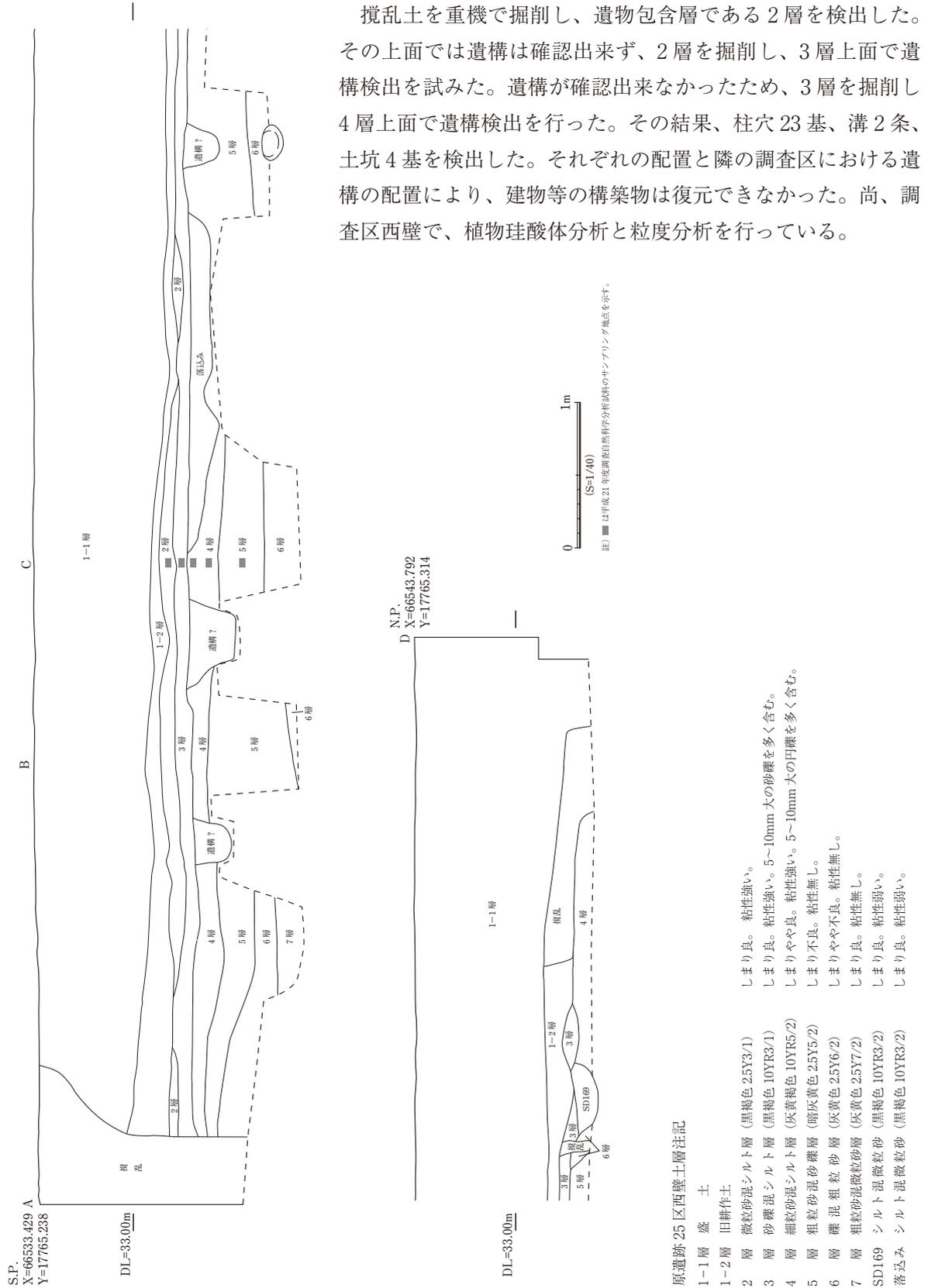


Fig.81 原遺跡第2期調査25区西壁土層図

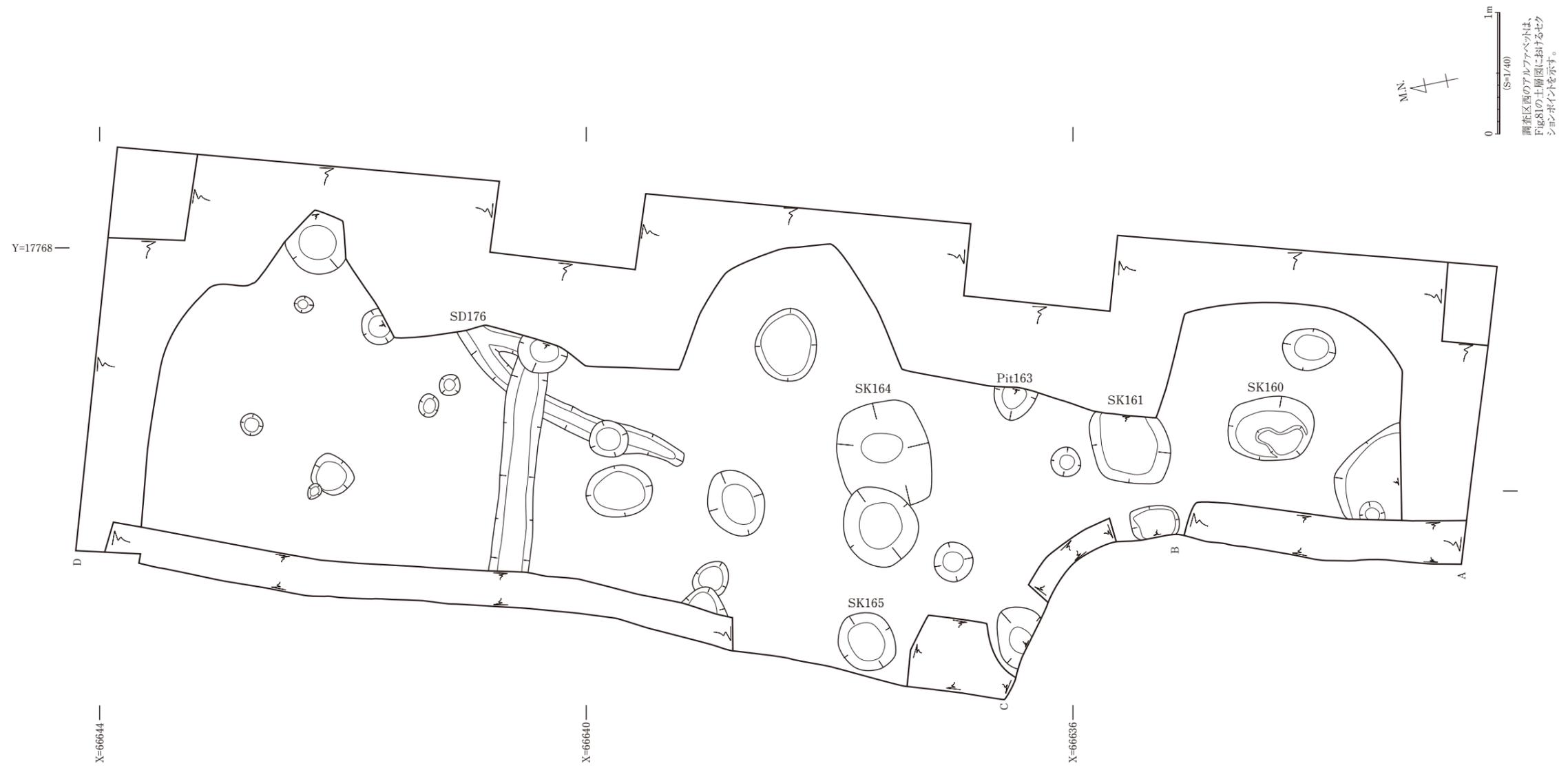
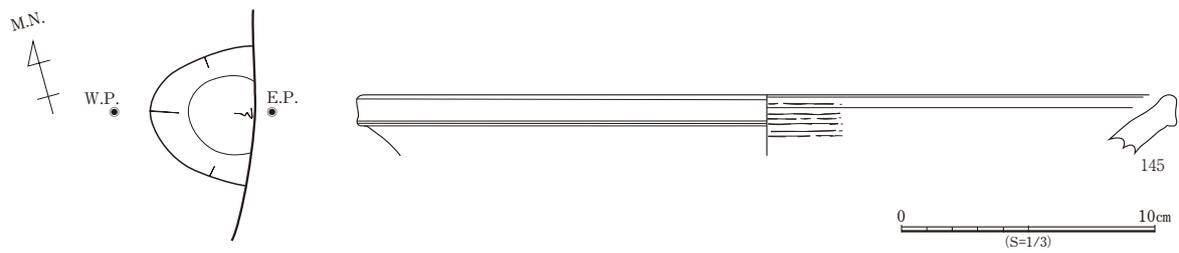


Fig.82 原遺跡第2期調査25区平面図

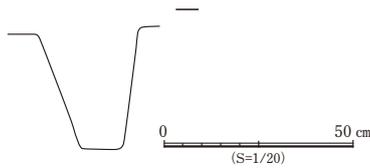


W.P.
X=66536.530
Y=17766.500
DL=32.600m

E.P.
X=66536.500
Y=17766.900

Fig.83 原遺跡第2期調査25区 Pit163 遺構及び出土遺物図

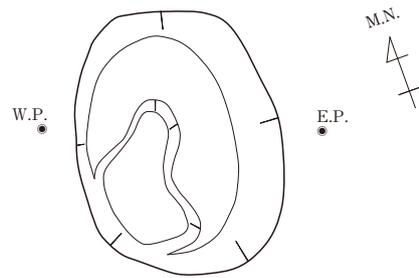
Pit163は破壊が著しいため、規模と形状は不明である。須恵器・土師器の細片が出土している。145は土師質土器である。鍋の可能性が考えられる。



埋土 シルト混微粒砂（黒褐色 10YR3/2）しまり良。粘性弱い。

SK160は最大長74cm、最大幅54cm、深さ52cmを測り、楕円形状を呈する。二段掘りの構造であって、須恵器・土師器の細片が出土している。

146は須恵器である。甕であり、胴部外面に平行タタキを有する。



W.P.
X=66534.460
Y=17766.160

E.P.
X=66534.350
Y=17776.900

DL=32.800m

埋土 シルト混微粒砂（黒褐色 10YR3/2）しまり良。粘性弱い。

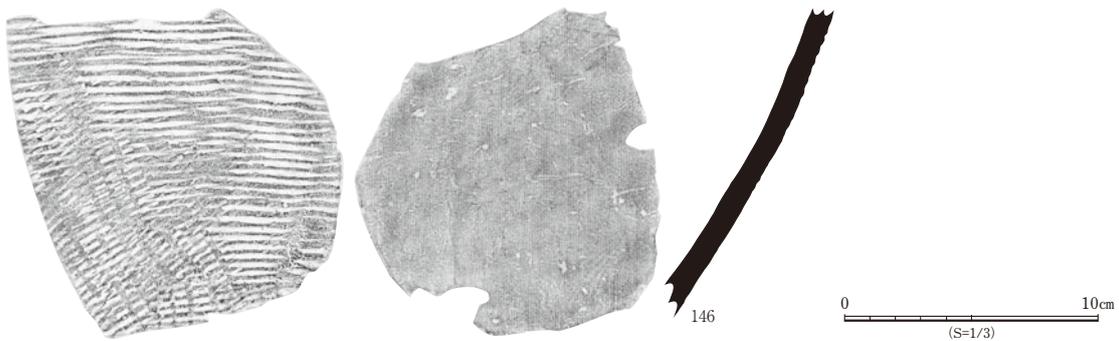
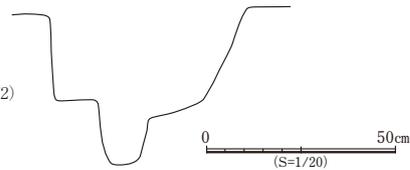


Fig.84 原遺跡第2期調査25区 SK160 遺構及び出土遺物図

SK161 は破壊が著しいため、その規模と形状は不明である。須恵器・土師器の細片が出土している。147・148 は須恵器である。147 は坏蓋であり、宝珠状ツマミを有する。148 は坏身である。

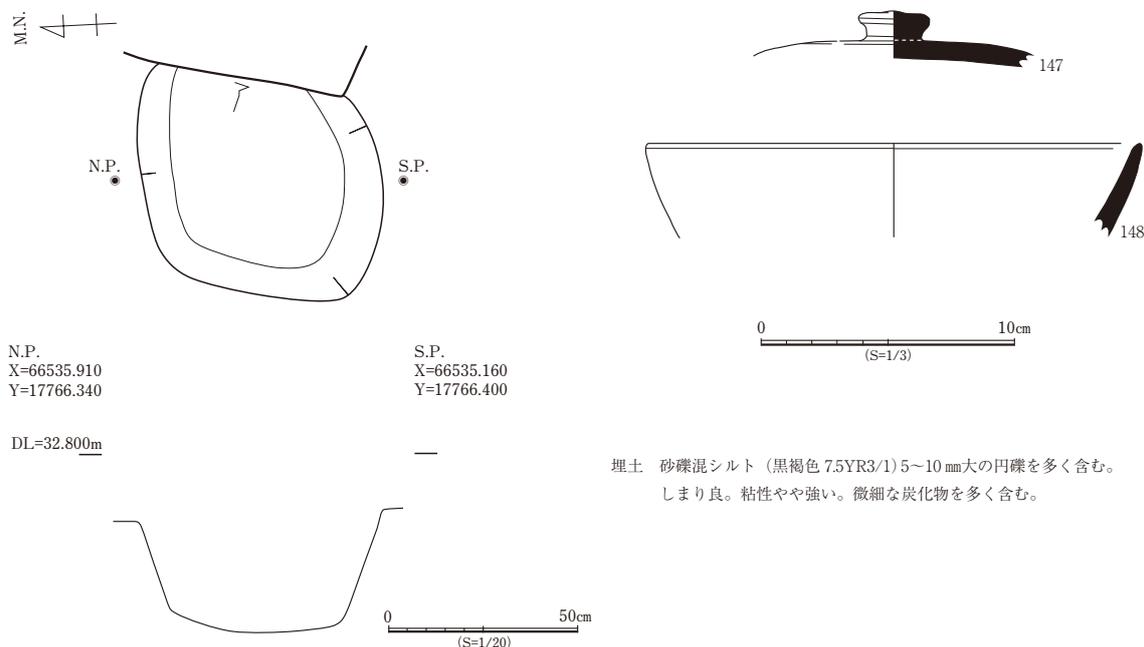


Fig.85 原遺跡第2期調査25区SK161遺構及び出土遺物図

SK164 は最大長は復元で90cm、最大幅78cm、深さ44cmを測り、隅丸形状を呈すると考えられる。須恵器・土師器の細片が出土している。149~151は須恵器である。149・150は坏蓋であり、149は乳頭状ツマミを有し、外面に平行タキを有する。151は壺の底部と考えられる。152は土師器であり、坏の底部と考えられる。

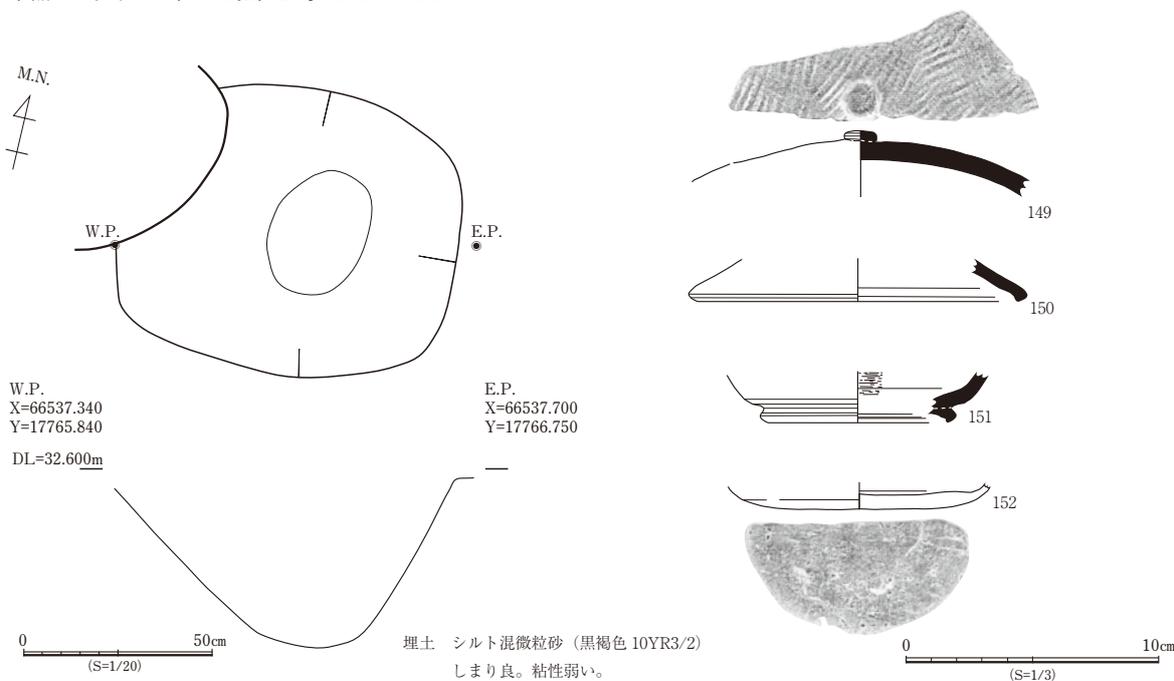


Fig.86 原遺跡第2期調査25区SK164遺構及び出土遺物図

SK165 は最大長 52cm、最大幅 44cm、深さ 26cm を測り、楕円形状を呈する。須恵器・土師器の細片が出土している。153 は土師器である。坏であり、底部外面に粘土帯巻き上げ痕が認められる。



Fig.87 原遺跡第2期調査25区 SK165 遺構及び出土遺物図

SD176 からは須恵器・土師器の細片が出土している。154 は土師器である。坏と考えられ、底部外面に粘土帯巻き上げ痕が認められる。

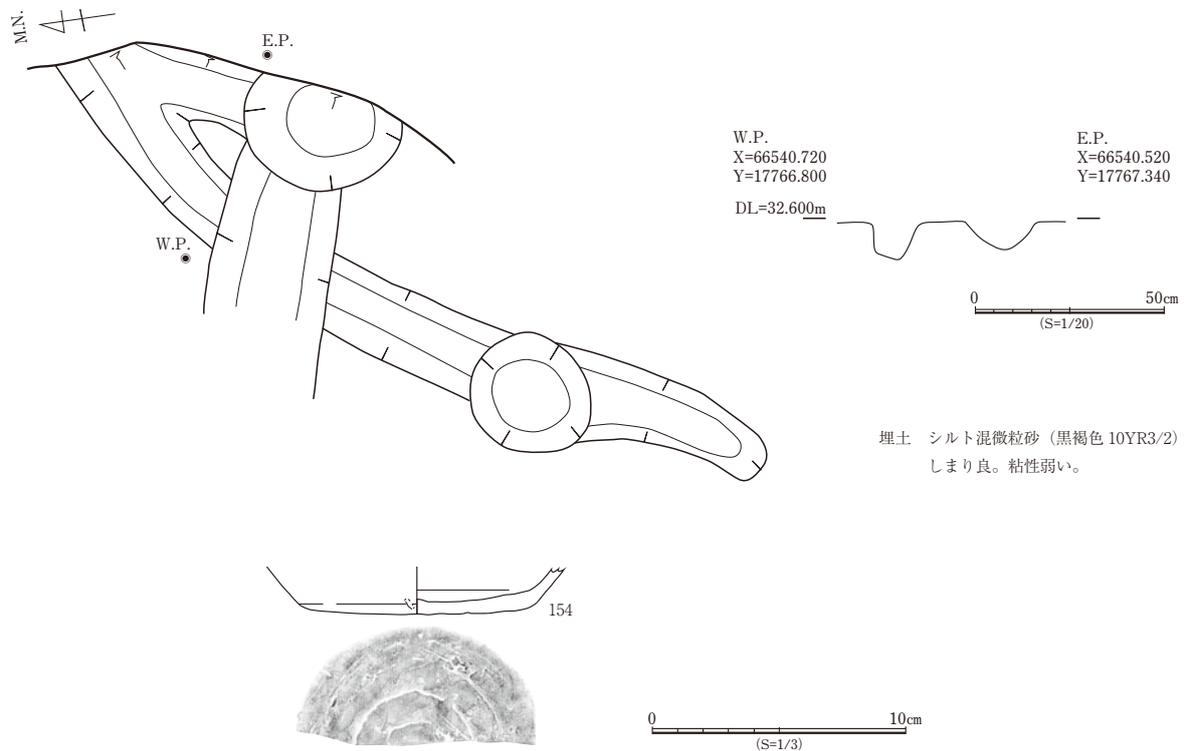


Fig.88 原遺跡第2期調査25区 SD176 遺構及び出土遺物図

2層からは須恵器・土師器・土師質土器の細片が出土している。155は須恵器で、坏蓋である。

3層からは須恵器・土師器・土師質土器の細片が出土している。156は須恵器である。坏身であり、受部から口縁部がやや外反しながら短く立ち上がる。157は土師器である。坏であり、内面に粗雑なミガキを有する。

158・159は西壁トレンチから得られた資料である。おおむね3層からの出土に相当し、いずれも須恵器である。158は壺の可能性が考えられる。体部外面に四条の凹線を有する。159は甕である。外面に平行タタキとカキメ、内面に同心円文タタキを有する。

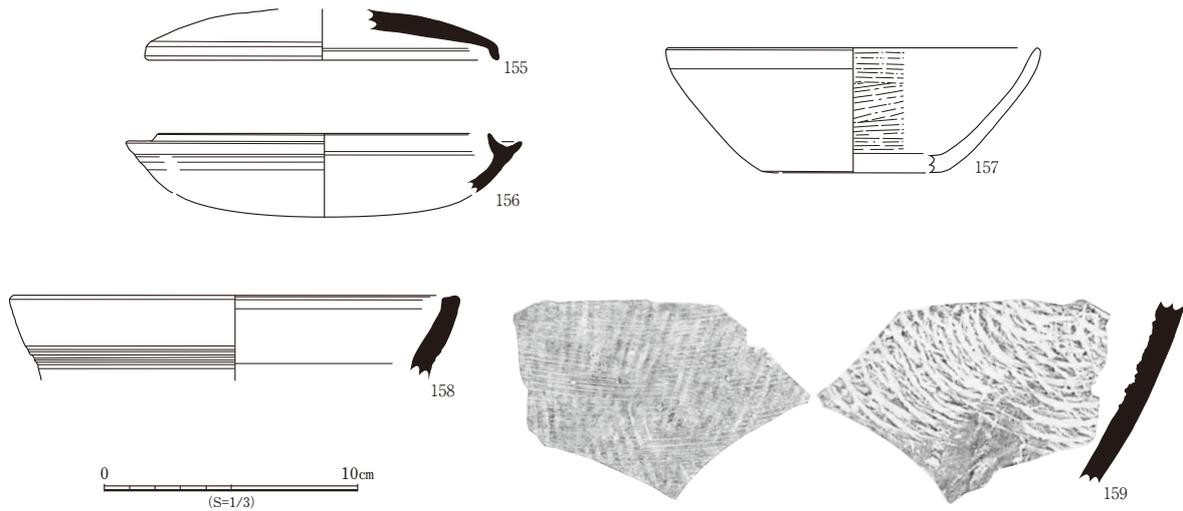


Fig.89 原遺跡第2期調査25区出土遺物図

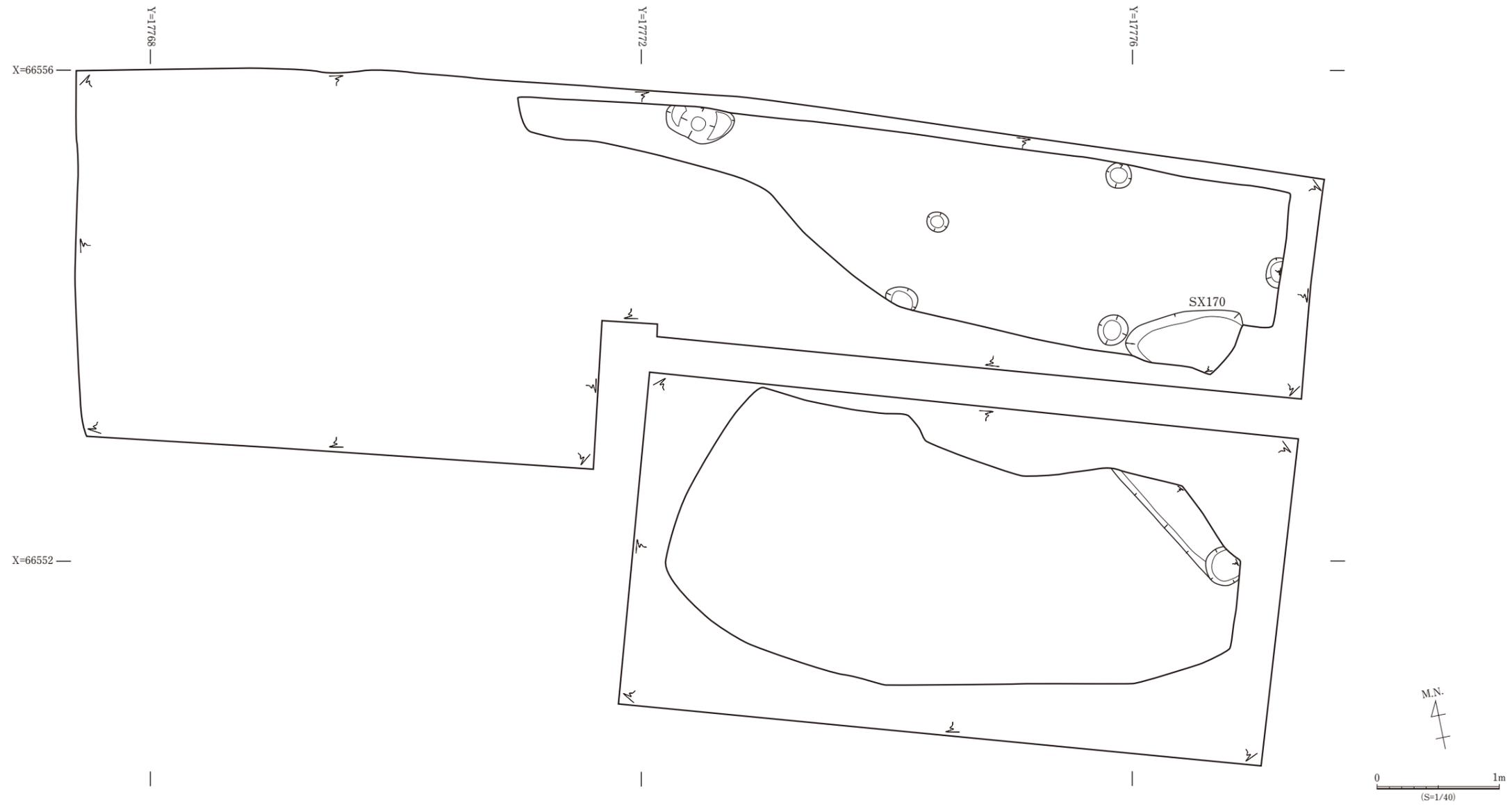
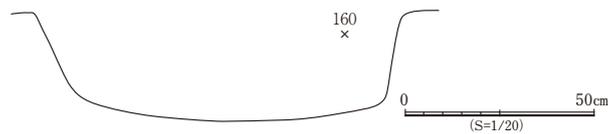
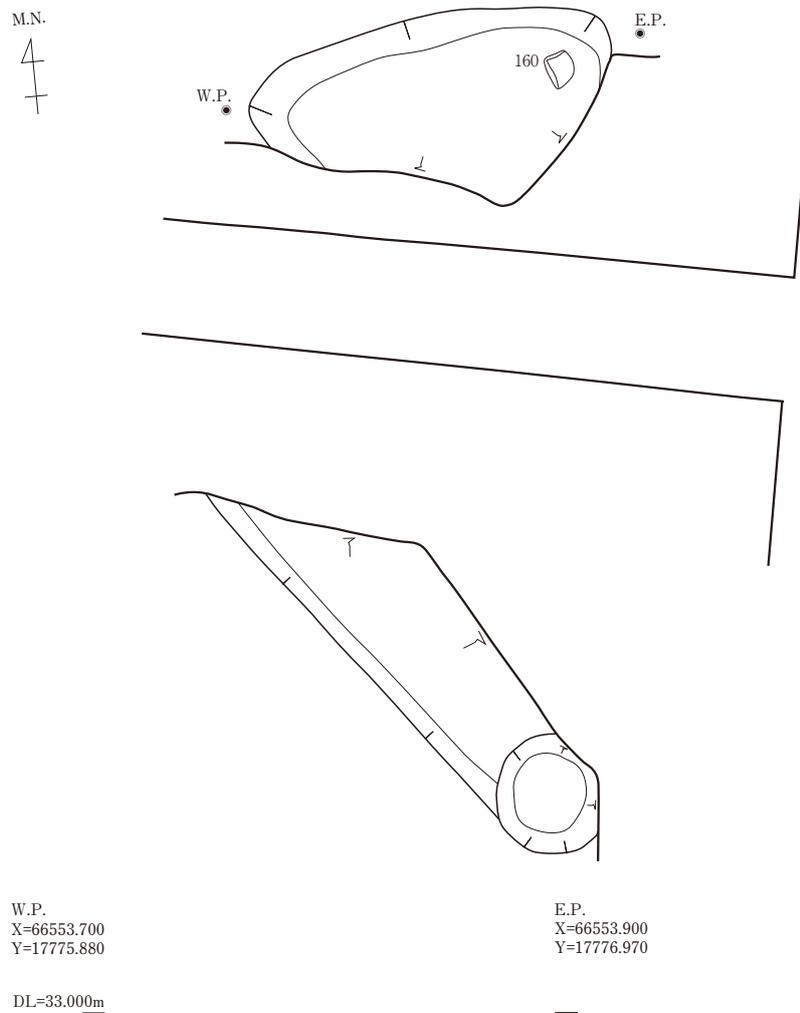


Fig.90 原遺跡第2期調査26区平面図

2-17 第2期調査26区 (Fig.90・91: 遺物番号160)

攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴7基、性格不明1基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

SX170からは須恵器・土師器の細片が出土している。160は土師器である。坏であり、精緻なつくりである。



埋土 シルト混微粒砂 (黒褐色 10YR3/2) しまり良。粘性弱い。

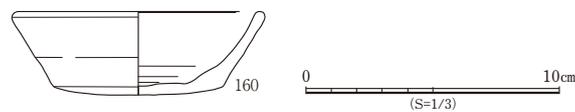
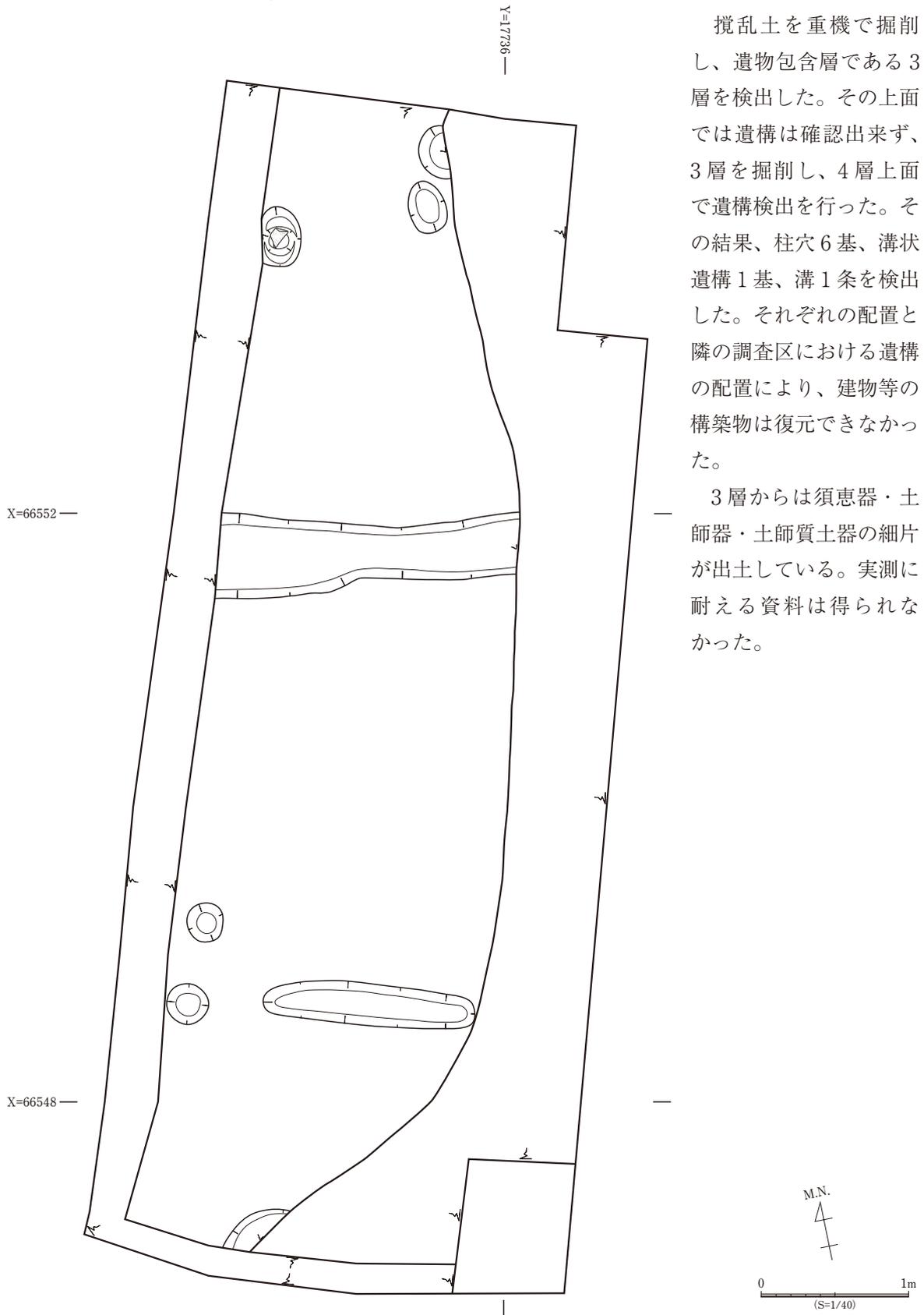


Fig.91 原遺跡第2期調査26区 SX170 遺構及び出土遺物図

2 - 18 第 2 期調査 27 区 (Fig.92・93)



攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である 3 層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3 層を掘削し、4 層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴 6 基、溝状遺構 1 基、溝 1 条を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

3 層からは須恵器・土師器・土師質土器の細片が出土している。実測に耐える資料は得られなかった。

Fig.92 原遺跡第 2 期調査 27 区平面図

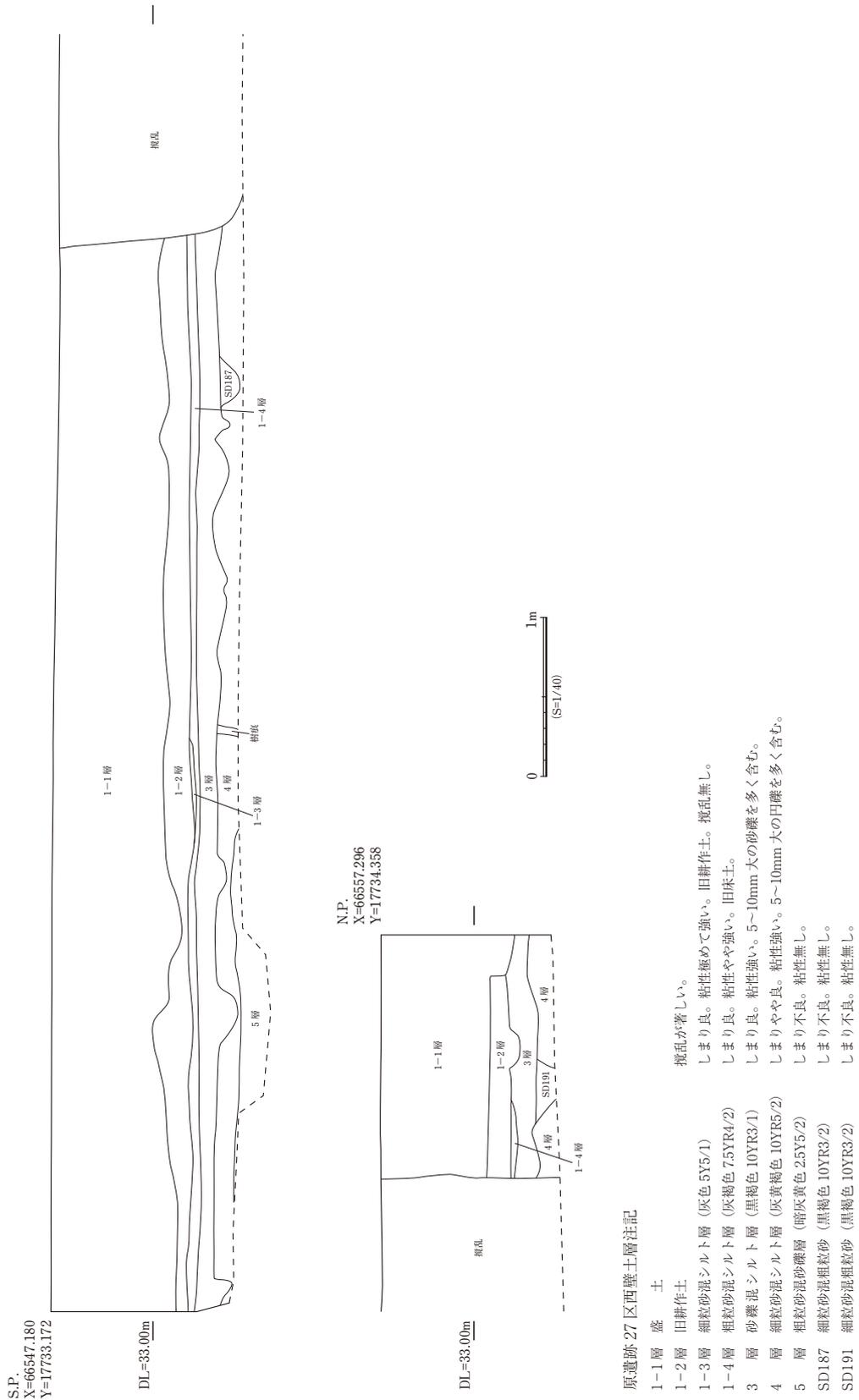


Fig.93 原遺跡第2期調査27区西壁土層図

2-19 第2期調査28区 (Fig.94・95: 遺物番号161~163)

攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、遺構は検出できなかった。

3層からは須恵器・土師器・土師質土器・青磁・白磁の細片が出土している。161は白磁である。碗であり、口縁部がゆるく外反する。

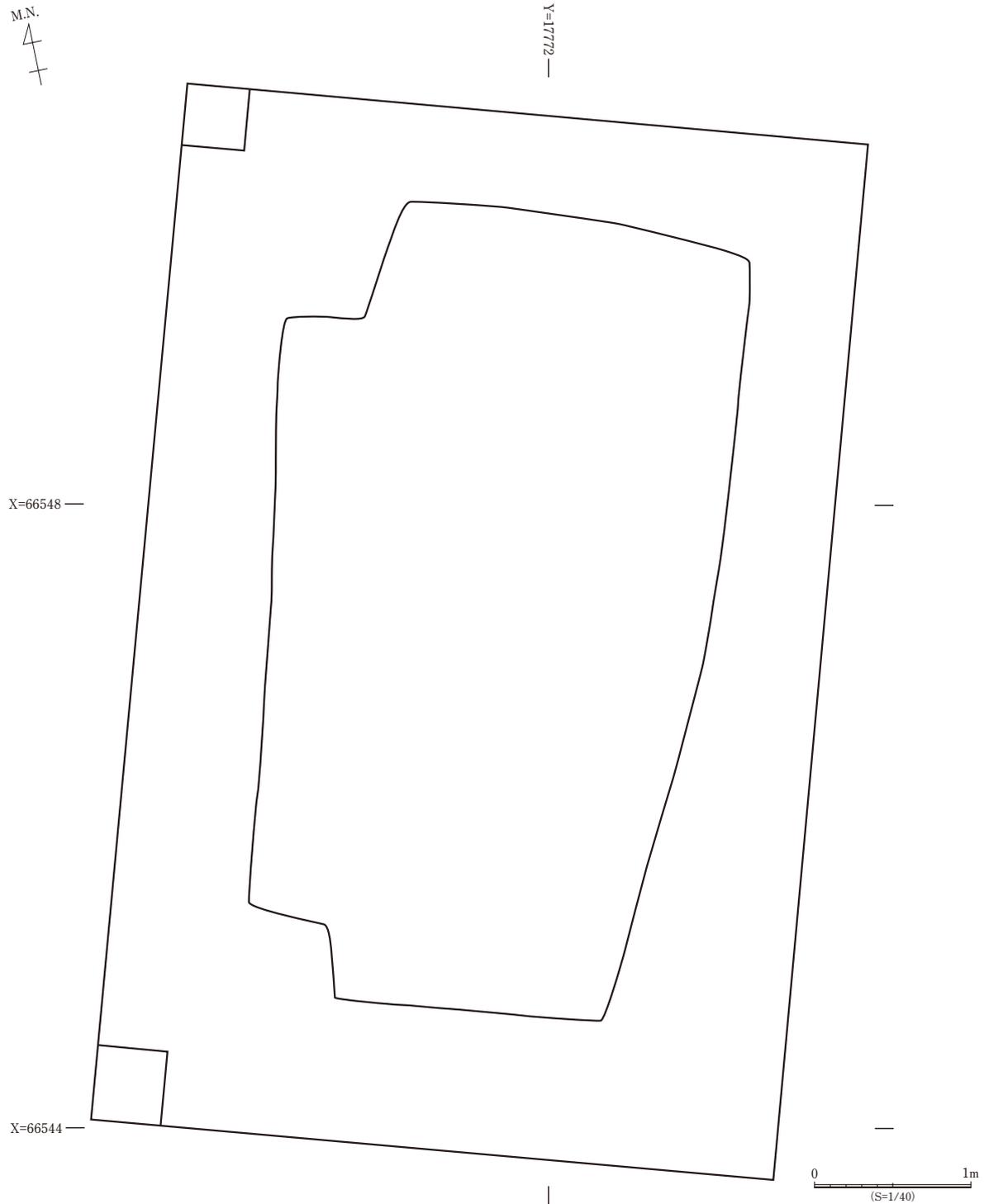


Fig.94 原遺跡第2期調査28区平面図

162・163は表採及び攪乱から得られた資料で、いずれも須恵器である。162は坏蓋であり、宝珠状ツマミを有する。163は坏身であり、比較的器高が高い。

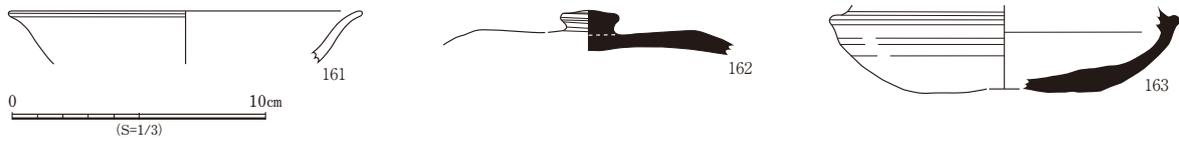
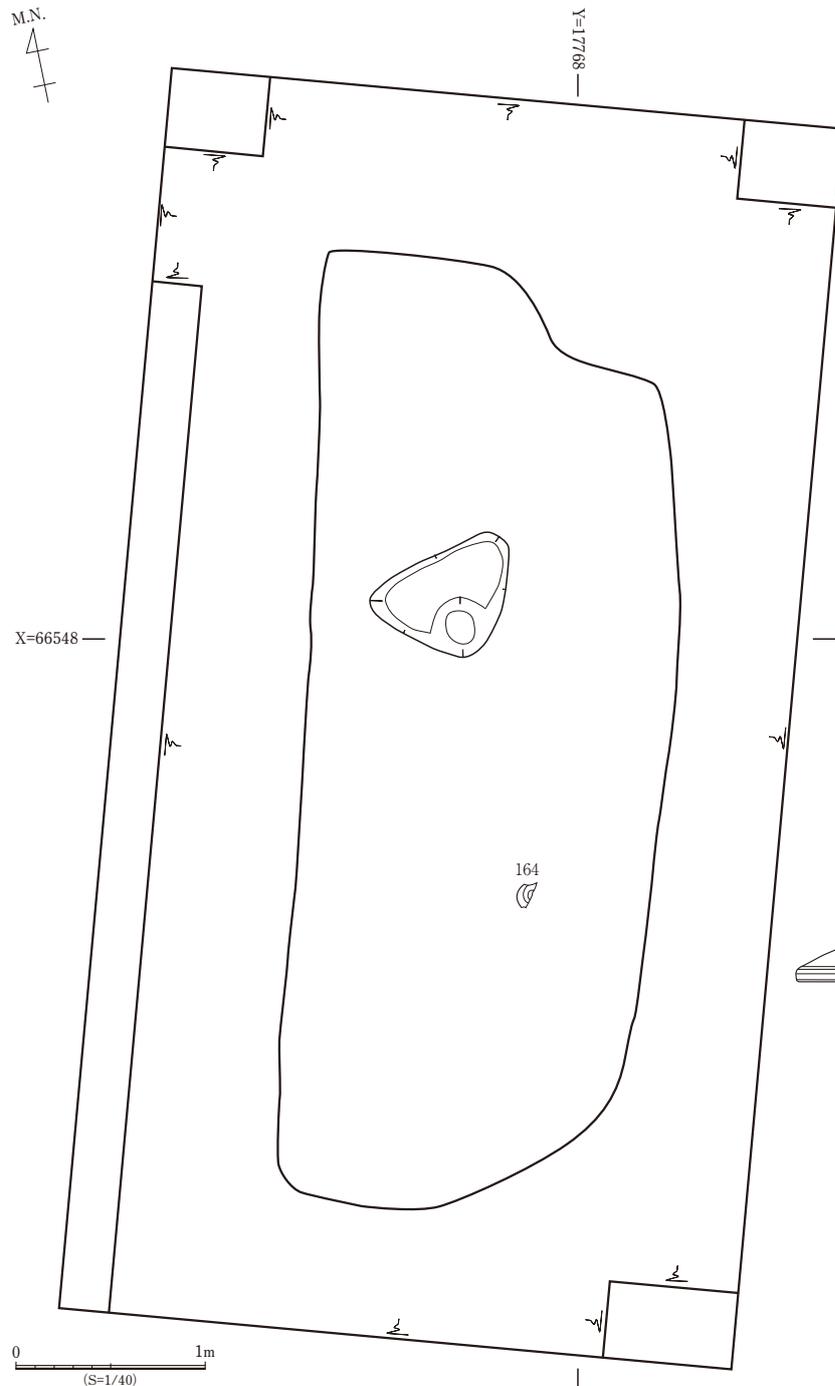


Fig.95 原遺跡第2期調査28区出土遺物図

2-20 第2期調査29区 (Fig.96: 遺物番号164)



攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。その結果、柱穴1基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

3層からは須恵器・土師器・土師質土器の細片が出土している。164は須恵器である。坏蓋であり、宝珠状ツマミを有した可能性が考えられる。

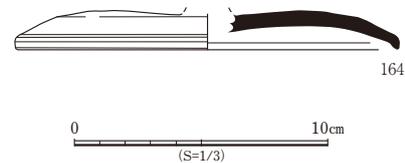


Fig.96 原遺跡第2期調査29区平面図及び出土遺物図

2-21 第2期調査30区 (Fig.97~99: 遺物番号165~170)

攪乱土を重機で掘削し、遺物包含層である3層を検出した。その上面では遺構は確認出来ず、3層を掘削し、4層上面で遺構検出を行った。性格不明1基を検出した。それぞれの配置と隣の調査区における遺構の配置により、建物等の構築物は復元できなかった。

3層からは須恵器・土師器・土師質土器が出土している。165~169は須恵器である。165は椀、166・167は坏身、168は壺、169は甕である。170は土師器であり、坏である。

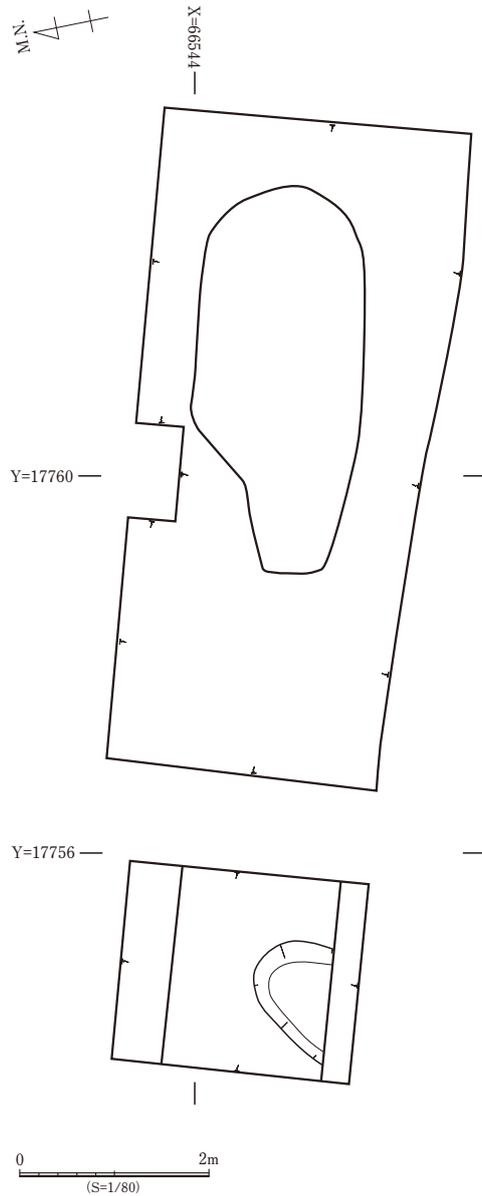


Fig.97 原遺跡第2期調査30区平面図

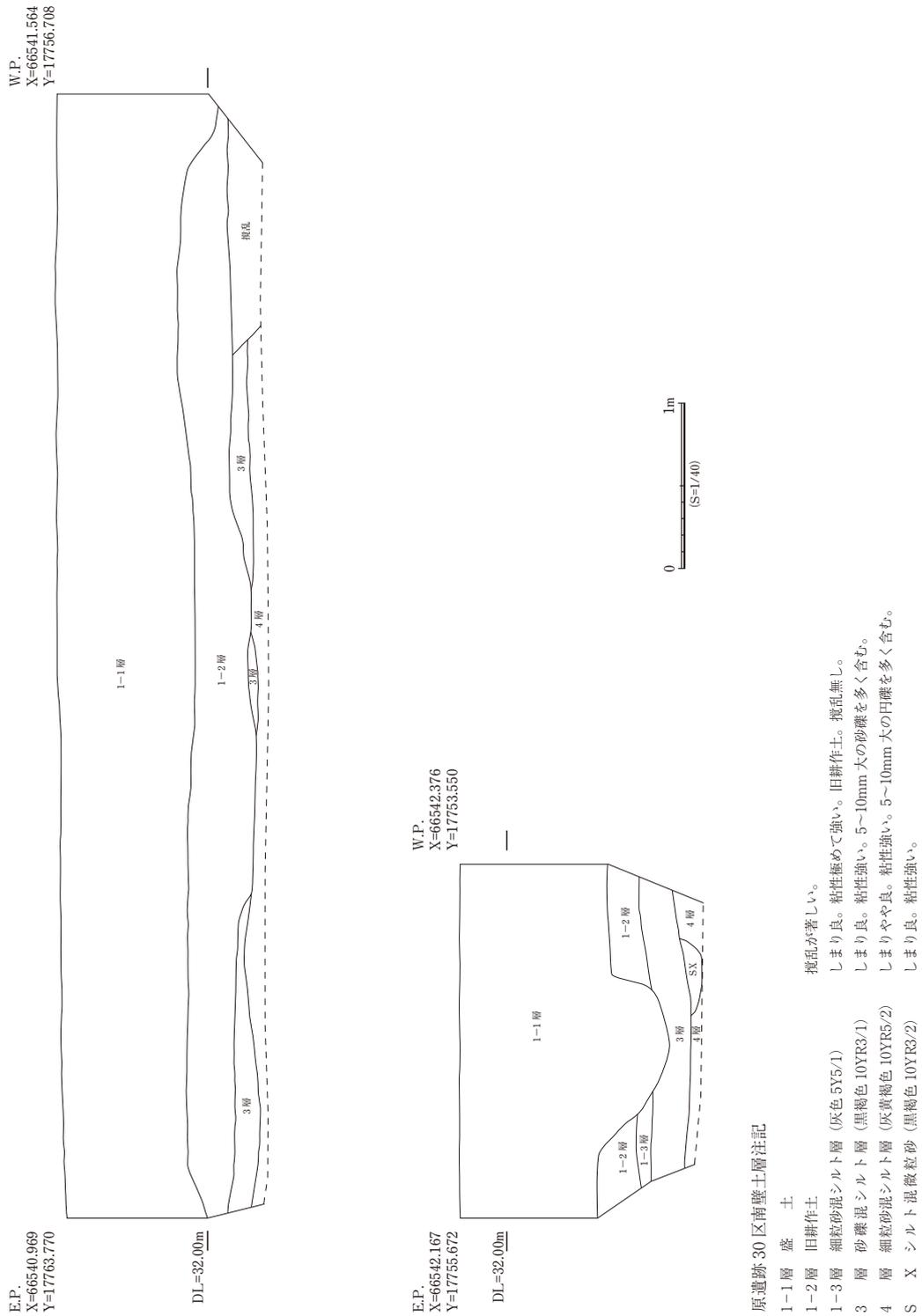


Fig.98 原遺跡第2期調査30区南壁土層図

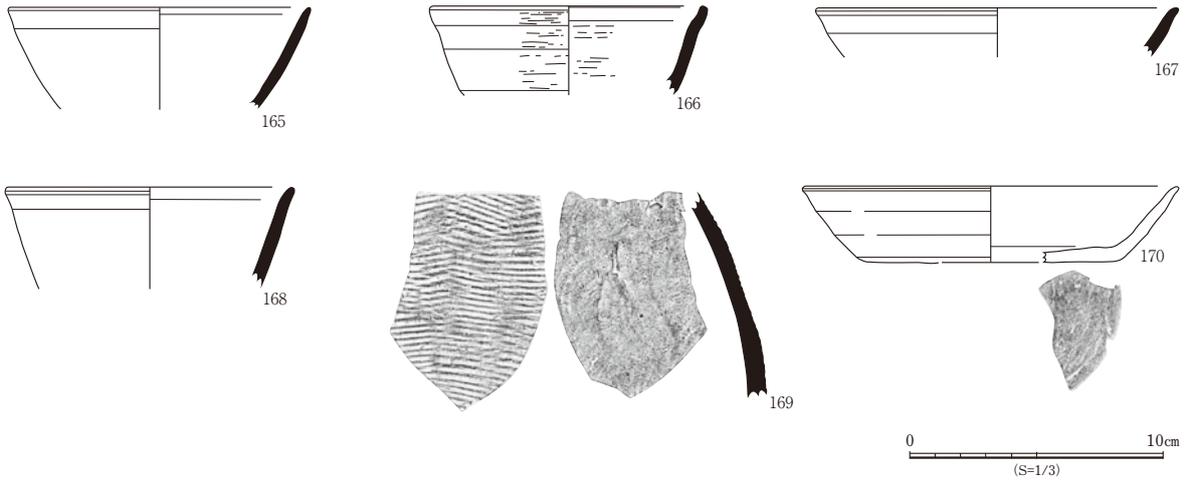


Fig.99 原遺跡第2期調査30区出土遺物図

許諾手続き中

3. 原遺跡（第2期発掘調査）における自然科学分析

辻 康男・斉藤 紀行・馬場 健司（パリノ・サーヴェイ株式会社）

はじめに

本報告では、現地調査による堆積層の記載と、調査区壁面から採取した堆積物の粒度分析、腐植含量分析、植物珪酸体分析結果にもとづき、層序と古地形および古植生についての検討を行う。

1. 試料

分析試料採取は25区西壁で行った。試料は上位から試料番号1～5の5点を採取した（図5）。粒度分析、腐植含量分析、植物珪酸体分析の分析点数は、いずれも4点である。このうち、粒度分析と腐植含量分析は試料番号1・2・3・5、植物珪酸体分析は試料番号1・2・3・4について実施した。

2. 分析方法

(1) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリユラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2004）の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算）を求める。結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100個/g未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は10の位で丸め（100単位にする）、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。また、各分類群の植物珪酸体含量とその層位的変化から古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位的変化を図示する。

(2) 粒度分析

碎屑性堆積物研究会（1983）の方法を参考に礫・砂粒子画分はふるい分け法、シルト・粘土粒子画分はピペット法で行った。また、粒径区分はWentworth(1922)に従った。以下に分析操作工程を示す。試料を乾燥して2mmφ篩でふるい分ける。2mmφ篩上粒子は水洗・乾燥後、64、32、16、8、4、2mmφ篩でふるい分け、篩上残留物の重量を測定する。一方、2mmφ篩下粒子は10.00gをビーカーに秤量し、蒸留水と30%過酸化水素水を加え、熱板上で有機物分解を行う。分

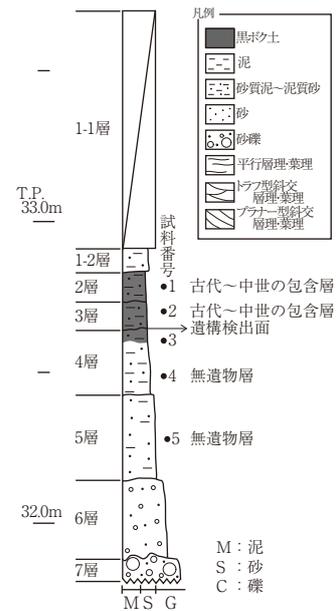


図5. 試料採取地点の柱状図

解終了後、蒸留水と分散剤（4%カルゴン）を加え、攪拌しながら30分間音波処理を行う。沈底瓶にこの懸濁液を移し、往復振とう機で1時間振とうする。振とう終了後、水で全量を1000mlにする。この沈底瓶を1分間手で激しく振り、直ちに静置する。ピペット法に準じて所定時間に所定深度から粘土・シルト画分（0.063mm >）、粘土画分（0.0039mm >）を10ml採取し、105℃で24時間乾燥させた後、重量を測定する。ピペット法終了後、懸濁液を63 μ m 篩で水洗し、篩上残留物を105℃で5時間熱乾後、1.0、0.5、0.25、0.125mm φ 篩でふるい分け、篩上残留物の重量を測定する。ピペット法およびふるい分け法によって求められる各粒径区分における残留質量（通過質量）から粒径区分範囲ごとの質量百分率を算出する。

（3）腐植含量分析

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を振動ミル（平工製作所製 TI100；10ml 容量ステンカーバイト容器）で微粉碎し、微粉碎試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。その後、微粉碎試料0.100～0.500 gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4 Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2 N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C 乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

3. 結果

（1）植物珪酸体分析

分析結果を表4と図6に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。試料ではタケ亜科の産出が目立つ。タケ亜科については、短細胞珪酸体を近藤・大滝（1992）、機動細胞珪酸体を杉山（1987）などを参考にして、分類を試みた。各試料のタケ亜科には、メダケ節型とネザサ節型、および両型に当たらない「その他」が見られる。各試料での含量は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体のそれぞれでメダケ節型とネザサ節型がほぼ同等である。また、全てのタケ亜科に対する比率は、短細胞珪酸体のメダケ節型が10～20%、ネザサ節型が10%前後、機動細胞珪酸体のメダケ節型が20%前後、ネザサ節型が20～30%である。なお、タケ亜科の多くは「その他」である。栽培種のイネ属は試料番号1・2・3で産出し、試料によっては葉部の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体、籾（穎）の珪酸体をともなう。その含量は上位に向かって増加し、試料番号1では短細胞珪酸体が約3,800個/g、機動細胞珪酸体が約2,600個/gとなる。タケ亜科、イネ属の他には、ヨシ属、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが認められる。

（2）粒度分析

分析結果を表5に示す。粒径頻度分布を図7、Folk(1954)にもとづいた三角ダイアグラムを図8に示す。黒ボク土に相当する試料番号1・2・3では粘土が相対的に多く含まれる。砂は黒ボク土下層の試料番号5で50%と相対的に多く含まれる。礫は細礫～中粒の細礫がいずれの試料でも含まれる。試料番号3では粗粒な中礫の含有も認められる。Folk(1954)の分類では、試料番号1が礫質泥質砂、2が礫をわずかに含む泥質砂、3が礫質泥質砂、5が礫をわずかに含む砂質泥に分類さ

種類	試料番号			
	1	2	3	4
イネ科葉部短細胞珪酸体				
イネ族イネ属	3,800	2,600	700	-
タケ亜科メダケ節型	1,800	1,800	500	200
タケ亜科ネザサ節型	1,800	1,500	800	<100
タケ亜科	14,900	14,500	5,900	700
ウシクサ族ススキ属	600	400	<100	-
イチゴツナギ亜科	1,600	600	300	-
不明キビ型	5,700	2,100	800	100
不明ヒゲシバ型	1,200	1,100	400	<100
不明ダンチク型	1,500	2,300	900	100
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
イネ族イネ属	2,600	1,400	400	-
タケ亜科メダケ節型	1,300	1,300	1,000	<100
タケ亜科ネザサ節型	1,200	1,500	1,100	<100
タケ亜科	5,600	2,600	1,400	200
ヨシ属	300	-	<100	-
ウシクサ族	300	-	-	-
不明	6,000	4,500	3,200	300
合計				
イネ科葉部短細胞珪酸体	32,800	26,900	10,300	1,300
イネ科葉身機動細胞珪酸体	17,300	11,300	7,200	600
総計	50,100	38,200	17,500	1,900
珪化組織片				
イネ属穎珪酸体	*	*	*	-
イネ属短細胞列	*	-	*	-

含量は、10 の位で丸めている (100 単位にする)

<100 : 100 個 / g 未満

なお、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている

- : 未検出, * : 検出

表 4. 原遺跡 (第 2 期調査) 植物珪酸体含量

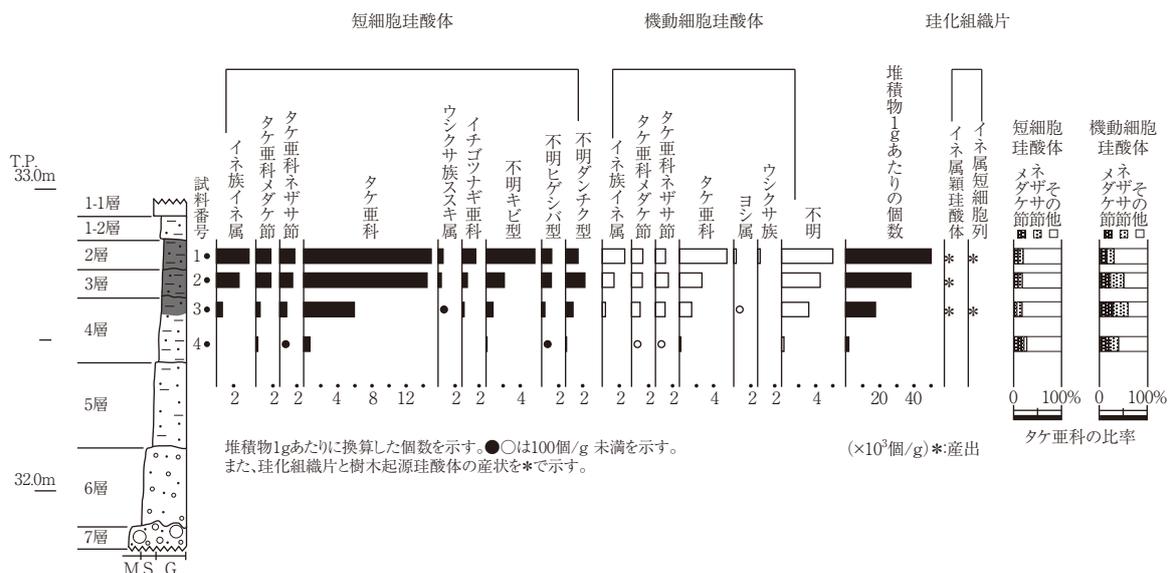


図 6. 原遺跡 (第 2 期調査) 植物珪酸体含量の層位的変化と珪化組織片の産状

粒径区分 試料名	中礫				細礫		砂					泥		
	32 ~		16 ~		8 ~		4 ~	極粗粒砂	粗粒砂	中粒砂	細粒砂	極細粒砂	シルト	粘土
	16mm	8mm	4mm	2mm	2.00 ~	1.00 ~	0.50 ~	0.25 ~	0.125 ~	0.063 ~	0.0039mm	0.0039mm >		
1	0.0	1.0	2.2	2.2	3.6	4.5	9.7	12.8	8.9	31.4	23.7			
2	0.0	0.0	2.7	1.2	1.8	4.3	9.6	13.5	10.7	32.5	23.7			
3	6.5	0.9	1.0	1.6	2.4	5.5	11.6	14.0	10.3	27.4	18.8			
5	0.0	0.0	1.8	2.2	0.7	2.9	10.6	21.8	14.6	30.0	15.4			

注.) 単位は重量%で表示。

表 5. 原遺跡 (第 2 期調査) 粒度分析結果

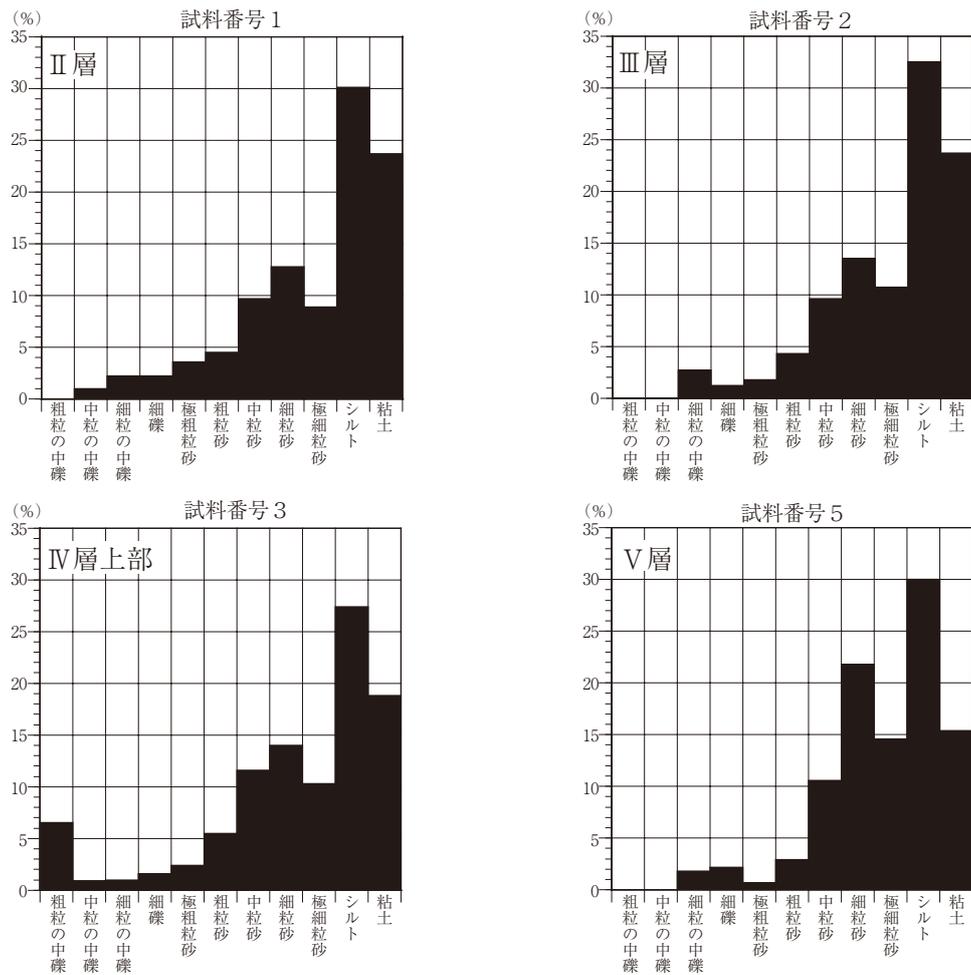


図 7. 原遺跡 (第 2 期調査) 粒径頻度分布

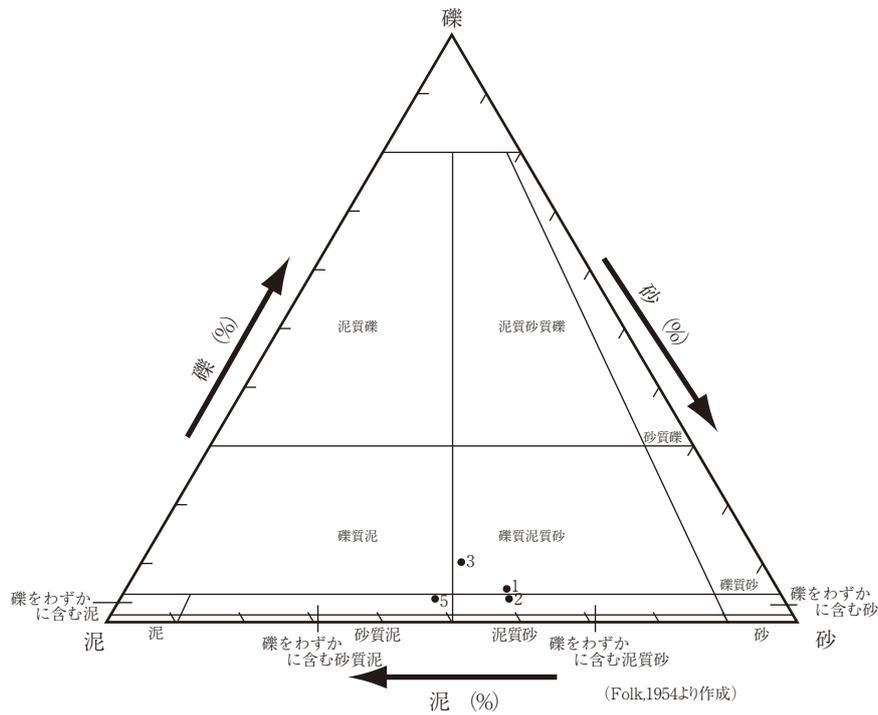


図 8. 原遺跡（第 2 期調査）粒度分析結果三角ダイアグラム

試料名	土色	腐植含量 (%)
1	10YR3/1 黒褐	3.21
2	2.5Y3/1 黒	2.89
3	2.5Y3/1 黒	2.26
5	2.5Y4/2 暗灰黄	0.74

注. (1) 土色：マンセル表色系に準じた
新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議
監修，1967）による。

表 6. 原遺跡（第 2 期調査）土壤理化学分析結果

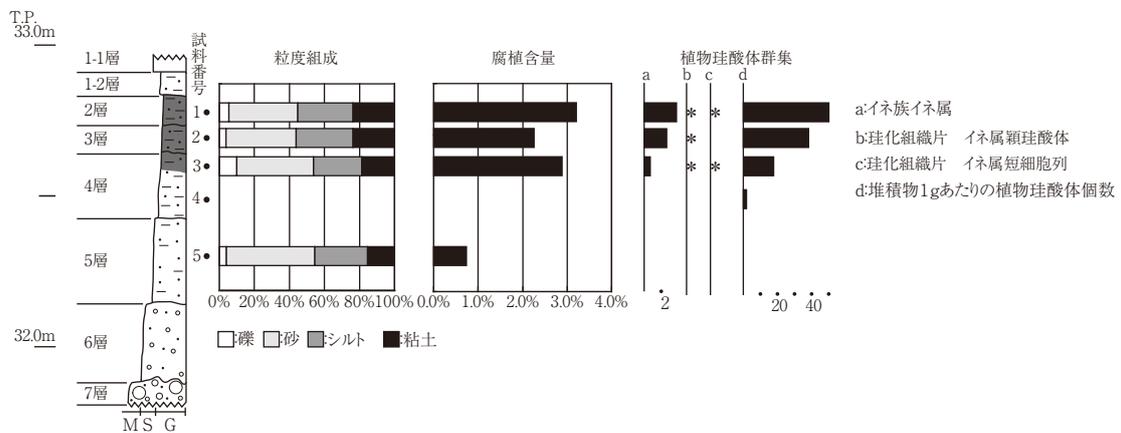


図 9. 原遺跡（第 2 期調査）粒度分析および植物珪酸体分析結果

れる。

(3) 腐植含量分析

結果を表6に示す。植物珪酸体、粒度分析、腐植含量分析結果をまとめた結果を図9に示す。腐植含量は上位に向かって増加し、黒ボク土で2.26～3.21%を示す。

4. 考察

(1) 堆積層の特徴

物部川下流域には、土佐山田町の山田堰付近を扇頂とする台地と扇状地が分布する。台地は開析扇状地（古期扇状地地面）をなし、比高の異なる上下2面の地形面で構成される（太田ほか編 2004）。このうち、上位の開析扇状地地面は、物部川右岸を中心に分布しており、長岡台地と称される。下位の開析扇状地地面は、物部川左岸に位置しており、野市台地と呼ばれる。原遺跡は、長岡台地の縁辺部に形成された下位の開析扇状地地面に対比される地形面上に立地する（図10）。

調査区では、下半部に碎屑物を主体とする堆積層、上半部に黒ボク土をなす土壌が積層する。堆積層下半部には、流路や氾濫原で累重した堆積層が認められる。堆積層最下部では、流路内を充填するとみられる砂礫層が存在する。砂礫層の最大礫径は、10～15cm前後で中礫～細粒の大礫からなり、粗粒砂～極粗粒砂が基質となる。砂礫層の上面は、上に凸状をなし、調査区において30～50cmの高度差がある。砂礫層の上位には、流路埋没後に周囲から流入した洪水層の礫をわずかに含む泥質砂層や礫質砂層が累重する。これらの堆積層は、砂礫層の高まりから外れた凹部に厚く累

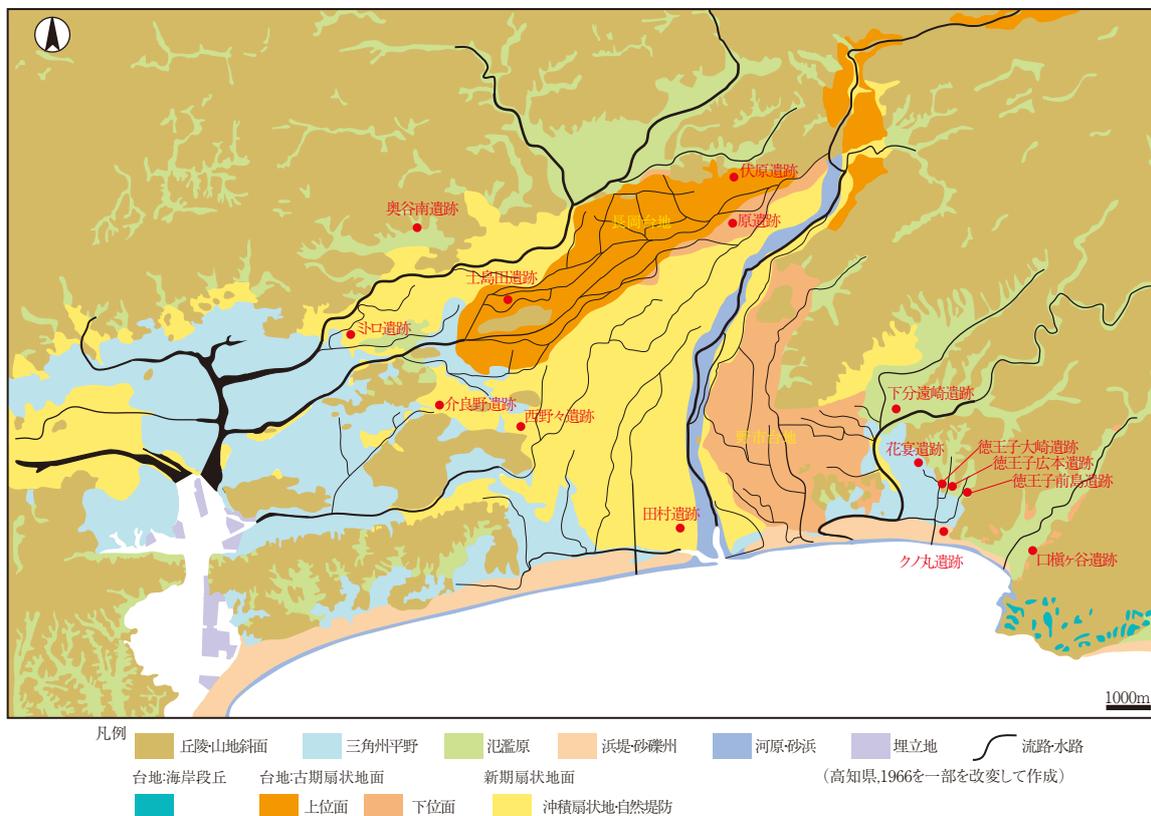


図10. 香長平野の地形と遺跡の立地

重する。堆積層上半部の黒ボク土は、本遺跡が立地する地形面が離水した後に発達した積層的な土壌である。本調査区では、黒ボク土が遺物包含層をなす。

北側に隣接する平成 19 年度の調査区では、砂礫層と黒ボク土の間に赤褐色シルト層が累重していた。この赤褐色シルト層は、本調査区において確認されない。既往の分析結果より、赤褐色シルト層は、約 7300 年前に噴出したアカホヤ火山によって構成されることが判明している。赤褐色シルト層はテフラを主体とする堆積層であることから、砂礫層や砂層からなる扇状地構成層が離水した後に累重した風成堆積物とみなされる。このことから、原遺跡が立地する下位の開析扇状地面は、7300 年前以前には既に離水していたことが確認される。

(2) 黒ボク土の特徴

黒ボク土の植物珪酸体群集は、ネザザ節、メダケ節を含むタケ亜科が優占し、ススキ属をともなう。これらは、いずれも明るく乾いた場所を好む種類である。このような植物珪酸体群集は、台地上に位置する本遺跡の立地環境と調和的である。従って、調査区は扇状地面の離水後、乾燥し好氣的な土壌環境が長期間にわたって維持されるような場所であったと判断される。

栽培種のイネ属珪酸体は、黒ボク土の層準で産出する。産出したイネ属には、稲籾殻に形成される穎珪酸体をともなう。既往および今回の調査結果では、古代以降に調査区が生活空間として利用されていたことが確認されている。このことから、産出したイネ属については、人間が生活空間内に持ち込んだものに由来するとも考えられる。また立地からは、包含層をなす黒ボク土が畑作地として利用されたことも想定される。畑作地では、農業資材として稲藁が利用されることも多く、それらを起源とするイネ属が産出することがある。上記した状況をふまえると、現時点では、黒ボク土から産出したイネ属珪酸体の由来を特定することが難しいと判断される。この点については、黒ボク土の土壌構造などを併せて、さらに検討していくことが課題と思われる。

なお、本調査区の黒ボク土は、平安時代～中世の遺物包含層となっており、人為的擾乱を受けていると判断される。イネ属については、遺構検出面直下の黒ボク土でも産出しており、この層準でも人為的擾乱の影響があることが示唆される。これらの黒ボク土には、細礫～中礫が含まれる。台地上の風成堆積物を母材とする本遺跡での黒ボク土生成過程では、礫が含まれることが少ない。そのため、これらの礫については、人為的な擾乱の際に下位や周囲の扇状地堆積物から混入したものと捉えられる。また、2～3%を示す腐植含量は、黒ボク土の値として相対的に低い。分析層準の由来をふまえると、これについては、耕作などの人為的擾乱の影響により減少した可能性がある。

黒ボク土については、本調査区と平成 19 年度の調査区で、層厚に大きな差異が認められる点が注目される。層序対比の結果、平成 19 年度調査区の 1 区などでは、扇状地堆積物の上面高度が本調査区と大差がないにもかかわらず、包含層をなさない自然堆積とみなされる黒ボク土が比較的厚く累重することが判明した(図 11)。これに対し、本調査区では黒ボク土の層厚が薄く、さらにはほぼ全層準にわたって人為的な擾乱を受けていた。このような層厚と層相の違いから、本調査区ではある段階に黒ボク土の層準が削平を受けたと解釈される。黒ボク土をなす古代～中世の包含層は、均質な層厚と層相をなし広範囲に分布することから、耕作土の可能性が高い。以上のことをふまえると、今年度および平成 19 年度の調査区では、ある時期に棚田状の耕作地段差の形成をともなう地表の削平・盛土がなされたことが推察される。この点については、より詳細な堆積層の分布状況や包含層の遺物の精査から、その規模や時期について今後検証を行っていくことが必要である。

引用文献

- 土壤標準分析・測定法委員会編,1986,土壤標準分析・測定法,博友社,354p.
- Fork,R.L. 1954 The distinction between grain size and mineral composition in sedimentary-rock nomenclature. J.Geol.,62,344-359.
- 国土地理院,2006a,1:25000 土地条件図 高知. 国土地理院地理調査部防災地理課.
- 国土地理院,2006b,1:25000 土地条件図 安芸. 国土地理院地理調査部防災地理課.
- 近藤 鍊三 2004 「植物ケイ酸体研究」『ペドロジスト』48 46 - 64 頁
- 近藤 鍊三・大滝 美代子 1992 「タケ亜科植物葉身の短細胞珪酸体」『富士竹類植物園報告』36 23 - 43 頁
- 高知県,1966,土地分類基本調査 高知 5万分の1 国土調査,経済企画庁.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修,1967,新版標準土色帖.
- 太田 陽子・成瀬 敏郎・田中 真吾・岡田 篤正編 2004 『日本の地形6 近畿・中国・四国』 東京大学出版会
383 頁
- 碎屑性堆積物研究会編 1983 「堆積物の研究法」『地学双書』24 地学団体研究会 377 頁
- 杉山 真二 1987 「タケ亜科植物の機動細胞珪酸体」『富士竹類植物園報告』31 70 - 83 頁
- Wentworth,C.K.,1922,A scale of grade and class terms for clasticsediments. J.Geol.,30,377-392.

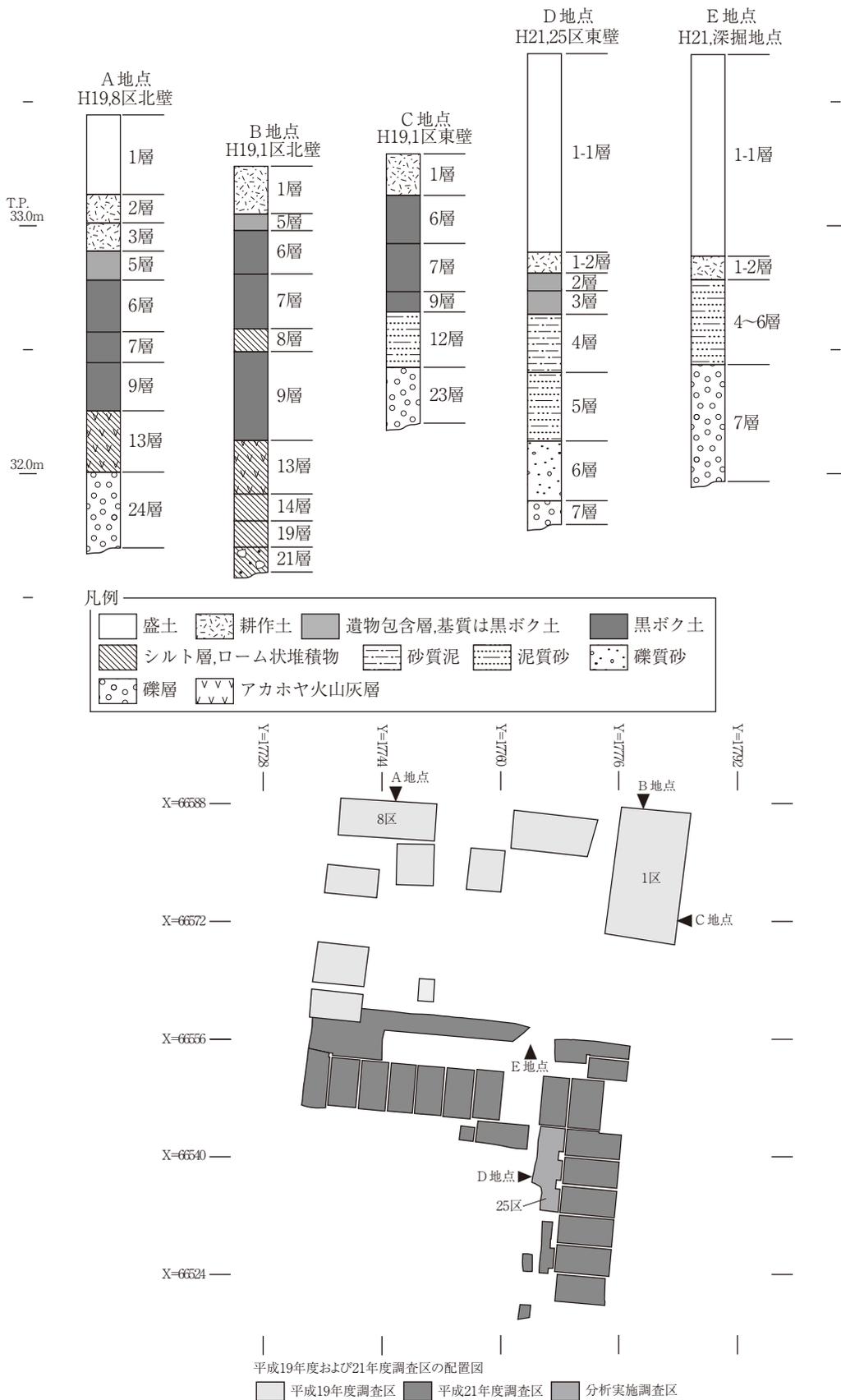
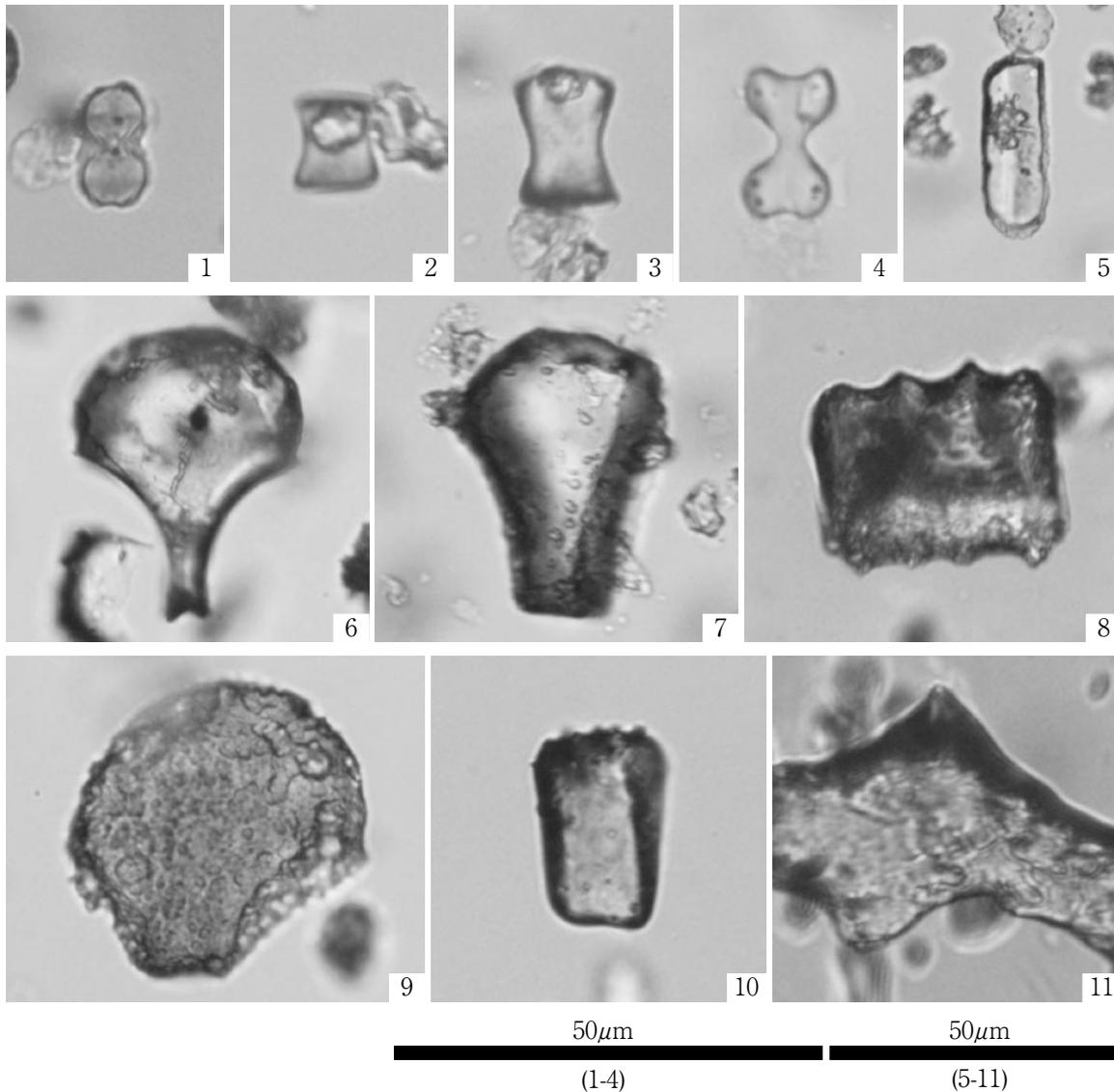


図 11. 原遺跡の調査区における堆積層累重状況



- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1.イネ属短細胞珪酸体(基本層序:1) | 2.メダケ節型短細胞珪酸体(基本層序:3) |
| 3.ネザサ節型短細胞珪酸体(基本層序:3) | 4.スキ属短細胞珪酸体(基本層序:1) |
| 5.イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(基本層序:1) | 6.イネ属機動細胞珪酸体(基本層序:1) |
| 7.メダケ節型機動細胞珪酸体(基本層序:3) | 8.ネザサ節型機動細胞珪酸体(基本層序:3) |
| 9.ヨシ属機動細胞珪酸体(基本層序:3) | 10.ウシクサ族機動細胞珪酸体(基本層序:1) |
| 11.イネ属穎珪酸体(基本層序:1) | |

原遺跡平成 21 年度調査 植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真

第IV章 考察

1. 遺跡の立地と調査成果

原遺跡の所在する物部川下流域の地形は、台地と扇状地に分けられる。両地形の境は香美市土佐山田町楠目付近であり、そこに野中兼山が築いた山田堰とそれに伴う用水が構築されている。

この台地は古期開析扇状地に地形分類され、上下二面に分けられている。上位の扇状地は長岡台地と称され、物部川右岸の香美市土佐山田町から南国市まで広がり、下位の扇状地は野市台地と称され、物部川左岸の香南市野市町に広がっている。当遺跡は、長岡台地の南縁辺部に形成された下位の開析扇状地に対比できる地形の上に立地している。

原遺跡が埋蔵文化財包蔵地つまり遺跡として認知されたのは、昭和56年度の県立山田養護学校の校舎の建築に伴う発掘調査が契機であり、弥生時代中期から中世にかけての遺跡として認識された。昭和57年度に行われた発掘調査では、弥生時代中期後半の円形竪穴住居が一棟検出されており、集落遺跡としての認識を与えることとなった。その後、平成2年に原遺跡の立地する地点から一段下がった扇状地面に立地する原南遺跡の発掘調査が行われ、弥生時代中期の円形竪穴住居や近世の井戸跡が検出されている。これまでの調査成果から、今回の発掘調査においても弥生時代から中世にかけての遺物の出土と遺構の検出が予想された。

今回の調査成果であるが、まずは遺構についてである。平成19・21年度と調査を行ったが、注目すべきはその遺構配置である。平成19年度調査において、1区と4区を中心に検出された柱穴列は東西方向に長軸を有しており、ほぼ直線に並ぶ。また、5区と6区で検出された溝も東西方向に主軸を有しており、ほぼ平行している。

これらの遺構とりわけ柱穴列より北で確認された遺構はごく僅かであり、そのほとんどは性格不明である。それに対して柱穴列及び溝の南、平成21年度調査区では遺構数が非常に多く、柱穴列を境に遺構の密度が全く異なる様相が観察できる。

この様相が土地利用に関する何らかの差異があったことを意味していると考えれば、平成19年度調査1区と4区で検出された柱穴列は、土地の区画を目的とする柵列等の設備跡の可能性が考えられる。例えるならば、柱穴列より南側は集落とそれに伴う畑地等の集落縁辺部であり、柱穴列より北側は集落の外つまり積極的な土地利用が行われなかった空間であった可能性があるということである。

この土地利用の差を、地形及び自然堆積から紐解いてみたい。柱穴列から北では黒ボク土の堆積が極めて厚く、何らかの構築物を築くための礫層等のしっかりした堆積層まではかなりの深さがある。それに対して、柱穴列より南では黒ボクの堆積は柱穴列の北ほど厚くはなく、礫層までの深さも浅い。この現象の原因として、礫層が広がっている深さが考えられる。つまり、柱穴列を境にして北と南では礫層の深さが異なっており、その層を家屋等の構築時における基盤層として考えるならば、柱穴列より北では何かを構築するために礫層まで深く掘る必要がある。よって、礫層まで容易に掘ることの出来る南側が積極的に利用されたと考えられる。

このような様相は原遺跡のこれまでの一連の調査では確認できなかったため、近隣の様相との比較検討と、柱穴列の延長を推察することが今後期待される。

2. 出土遺物の検討

遺物の出土傾向は、平成19年度調査でおおよそ840点、平成21年度調査でおおよそ6000点と大きく異なる。しかし、平成19年度調査では遺物包含層が大きく削平されており攪乱も著しかったため、遺物の出土量の傾向が遺跡における土地利用の粗密を示すとは必ずしも言えない。

全出土遺物における比率は、弥生土器が4%、須恵器が20%、土師器が8%、土師質土器66%、青磁・白磁・瓦質土器・瓦器・備前・近世陶磁器を併せて2%である。土師質土器と須恵器が優勢である。

須恵器は、宝珠状ツマミを有する坏蓋（Fig.48 - 83・Fig.49 - 93・Fig.54 - 120・Fig.85 - 147・Fig.86 - 149）や口縁端部が屈曲する坏蓋（Fig.49 - 91・Fig.51 - 109・Fig.53 - 113・Fig.65 - 132・Fig.67 - 133・Fig.86 - 150・Fig.89 - 155・Fig.96 - 164）から、8世紀から9世紀代の古代中葉に帰属する可能性が考えられる。

注目すべきは、内黒の黒色土器（Fig.35 - 67）や緑釉陶器（Fig.40 - 74）であり、緑釉陶器は京都から持ち込まれた可能性が高い。これらは10世紀代の古代後葉に帰属すると考えられる。

土師質土器では、14世紀の播磨型羽釜（Fig.53 - 118）が確認されている他は時期の分かる資料は得られていないが、おおむねこの時期に帰属する可能性が大きいと考えられる。

よって、今回の調査区においては、古代中葉から中世にかけての集落が近辺で営まれていたと考えられる。

3. まとめ

今回の調査では、古代中葉から中世にかけての土地利用を復元する上で重要な情報を得ることができた。今後の課題は、このような遺構配置が古代中葉から中世において確認できるかどうかである。また、全ての土地区画がこのような傾向を示しているとは考えられず、地形や自然堆積によって影響を受けた独特の区画である可能性も考えられる。

本報告書においては、台地縁辺部における集落とその土地区画の有り様を含めた空間利用の様相について一つのモデルを提示し、今後の調査の進展に期待したい。

遺物觀察表

番号	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)				色調 内面/外面	焼成	特徴
			口径	器高	胴径	底径			
1	1区 Pit62	須恵器 壺	-	-	166	-	明褐灰 明褐灰	良	0.5mm 大の砂粒を僅かに含む。外面に自然釉が付着。
2	1区 5層	土師質土器 鍋	-	-	-	-	暗灰黄 黄灰	良	～0.5mm 大の砂粒を多く含む。
3	1区 5層	土師質土器 甕	-	-	-	-	にぶい橙 にぶい褐	良	0.5～3mm 大の砂粒を含む。
4	1区 1層	弥生土器 甕	16.5	-	-	-	にぶい橙 にぶい橙	良	0.5～1mm 大の砂粒を多く含む。
5	1区 1層	須恵器 坏 蓋	9.2	1.2	-	-	灰 灰	不良	
6	1区 1層	須恵器 坏 蓋	10.4	-	-	-	明オリーブ灰 灰	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
7	1区 1層	須恵器 坏 蓋	13.6	-	-	-	灰 灰	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
8	1区 1層	須恵器 坏 身	-	-	受部径 13.6	-	灰 灰	良	外面に自然釉が付着。
9	1区 1層	須恵器 椀	-	-	-	-	灰 黄灰	良	0.5～1mm 大の砂粒を含む。
10	1区 1層	須恵器 壺	11.0	-	-	-	黄灰 灰	良	
11	1区 1層	須恵器 壺	14.4	-	-	-	黄灰 灰	良	0.5mm 大の砂粒を僅かに含む。
12	1区 1層	須恵器 壺	16.2	-	-	-	灰オリーブ 灰オリーブ	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。内外面に自然釉が付着。
13	1区 1層	須恵器 壺	23.4	-	-	-	灰 オリーブ黄	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。外面に自然釉が付着。
14	1区 1層	須恵器 壺	25.2	-	-	-	黄灰 黄灰	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。一部に自然釉が付着。
15	1区 1層	須恵器 壺	32.4	-	-	-	オリーブ灰 オリーブ黒	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。内外面に自然釉が付着。
16	1区 1層	須恵器 壺	-	-	21.4	-	褐灰 褐灰	良	
17	1区 1層	須恵器 壺	-	-	13.8	-	灰白 灰黄	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
18	1区 1層	須恵器 壺	-	-	13.4	-	オリーブ灰 灰オリーブ	良	0.5～3mm 大の砂粒を砂粒を多く含む。
19	1区 1層	須恵器 壺	-	-	-	-	灰 灰	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
20	1区 1層	須恵器 壺	-	-	-	-	黄灰 黄灰	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
21	1区 1層	須恵器 壺	-	-	-	6.4	灰 灰	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
22	1区 1層	須恵器 壺	-	-	-	6.6	灰 灰	やや不良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
23	1区 1層	須恵器 壺	-	-	-	11.3	褐灰 褐灰	良	
24	1区 1層	須恵器 壺	-	-	-	13.8	灰オリーブ 灰	良	内面に自然釉が付着。
25	1区 1層	須恵器 甕	-	-	-	-	灰白 灰白	良	
26	1区 1層	須恵器 甕	-	-	-	-	灰白 灰黄	不良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
27	1区 1層	須恵器 甕	-	-	-	-	にぶい赤褐 にぶい橙	不良	
28	1区 1層	須恵器 甕	-	-	-	-	灰 黄灰	良	0.5～1mm 大の砂粒を含む。
29	1区 1層	須恵器 甕	-	-	-	-	黄灰 褐灰	良	～1mm 大の砂粒を含む。
30	1区 1層	須恵器 甕	-	-	-	-	黒褐 黒褐	良	0.5～1mm 大の砂粒を多く含む。

番号	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)				色調 内面 / 外面	焼成	特徴
			口径	器高	胴径	底径			
31	1区 1層	土師器 椀	13.4	-	-	-	にぶい黄橙 にぶい黄橙	良	
32	1区 1層	土師器 椀	-	-	-	7.0	明赤褐 明赤褐	不良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
33	1区 1層	土師器 椀	-	-	-	-	にぶい黄橙 にぶい黄橙	やや不良	
34	1区 1層	土師器 皿	14.3	3.6	-	-	浅黄 浅黄	やや不良	
35	1区 1層	土師器 皿	14.4	-	-	-	灰白 灰白	良	
36	1区 1層	土師器 把手	-	-	-	-	にぶい黄橙	良	0.5～2mm 大の角礫を多く含む。鍋と考えられる。
37	1区 1層	土師質土器 鉢	-	-	-	-	橙 橙	良	
38	1区 1層	土師質土器 鍋	-	-	-	-	にぶい褐 黒 褐	良	0.5～4mm 大の砂礫を多く含む。
39	2区 Pit4	弥生土器 甕	-	-	-	-	にぶい橙 灰 黄 褐	良	0.5～1mm 大の砂粒を多く含む。
40	5区 SD34 ①	須恵器 坏 身	-	-	受部径 14.0	-	灰 灰	良	0.5～1mm 大の砂粒を多く含む。
41	5区 SD34 ①	土師器 把 手	-	-	-	-	にぶい黄橙 にぶい黄橙	良	鍋と考えられる。
42	5区 SD34 ①	近世陶器 碗	-	-	10.8	-	にぶい赤褐 にぶい赤褐	良	
43	5区 SD34 ②	須恵器 皿	15.6	-	-	-	灰 灰	良	～0.1mm 大の砂粒をまばらに含む。
44	5区 SD34 ②	土師器 椀	10.8	-	-	-	にぶい黄褐 にぶい黄褐	良	
45	5区 SD34 ③	須恵器 壺	-	-	-	7.2	灰白 灰白	不良	
46	6区 SD35	須恵器 甕	-	-	29.2	-	褐灰 褐灰	良	～0.1mm 大の砂粒を多く含む。
47	7区 4層	弥生土器 甕	-	-	-	-	にぶい黄橙 にぶい黄橙	やや不良	
48	7区 4層	須恵器 坏 蓋	-	-	9.6	-	灰黄 灰黄	良	
49	7区 4層	須恵器 皿	18.4	1.6	-	-	灰白 灰白	やや不良	
50	7区 4層	須恵器 壺	-	-	-	10.6	明褐灰 明褐灰	良	外面に自然釉が付着。
51	7区 4層	須恵器 甕	-	-	29.6	-	褐灰 褐灰	良	
52	7区 4層	土師器 椀	-	-	-	-	橙 暗赤灰	良	
53	7区 4層	土師器 鉢	-	-	-	-	橙 灰黄褐	良	0.5～1mm 大の砂粒を僅かに含む。
54	8区 5層	須恵器 高 坏	-	-	-	14.2	黄灰 黄灰	やや不良	
55	8区 5層	須恵器 甕	-	-	-	-	灰 灰	良	
56	8区 5層	白磁 碗	14.8	3.3	-	8.4	灰白 灰白	良	
57	8区 1層	須恵器 坏 身	12.2	-	-	-	灰 灰	良	高坏の可能性有り。
58	9区 5層	須恵器 壺	21.2	-	-	-	灰 褐灰	不良	～0.5mm 大の砂粒を多く含む。
59	9区 5層	須恵器 壺	19.0	-	-	-	灰 灰	やや不良	0.5～1mm 大の砂粒を僅かに含む。内外面に自然釉が付着。
60	9区 5層	須恵器 壺	19.0	-	-	-	灰 灰	良	0.5mm 大の砂粒を多く含む。

番号	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)				色調 内面/外面	焼成	特徴
			口径	器高	胴径	底径			
61	9区 5層	須恵器 壺	22.4	-	-	-	褐灰 灰	良	
62	9区 5層	須恵器 壺	26.0	-	-	-	灰 灰	良	
63	9区 5層	須恵器 壺	-	-	-	-	灰 オリーブ黒	良	
64	9区 5層	須恵器 壺	21.8	-	-	-	灰 灰	良	0.5～3mm 大の砂粒を僅かに含む。
65	9区 5層	須恵器 壺	-	-	17.2	-	灰 灰	良	
66	9区 5層	須恵器 壺	-	-	-	7.6	黄灰 黄灰	良	
67	9区 5層	黒色土器 椀	14.2	5.7	-	7.8	オリーブ黒 浅黄	良	
68	9区 5層	土師質土器 椀	16.6	-	-	-	にぶい黄橙 にぶい褐	不良	
69	9区 5層	土師質土器 皿	10.2	1.7	-	8.0	にぶい黄橙 にぶい黄橙	やや不良	～0.5mm 大の砂粒を僅かに含む。
70	9区 1層	土師質土器 鍋	-	-	-	-	にぶい黄橙 にぶい黄橙	良	
71	10区 3層	須恵器 坏 蓋	15.4	-	-	-	灰 灰	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
72	10区 3層	須恵器 壺	8.1	-	-	-	黄灰 灰	良	緻密で精選された粘土を使用。
73	10区 3層	須恵器 甕	-	-	-	-	灰 暗灰	やや不良	～1mm 大の砂粒をまばらに含む。
74	10区 表探	緑釉陶器 皿	9.7	2.4	-	5.3	灰オリーブ 灰オリーブ	良	～0.1mm 大の砂粒を多く含む。京都洛北産の可能性有。
75	11区 3層	須恵器 坏 身	13.6	-	受部径 15.6	-	灰白 灰白	良	外面に自然釉が付着。
76	11区 表土	須恵器 坏 蓋	13.8	-	-	-	灰黄 灰黄	不良	
77	11区 表探	土師器 椀	15.8	-	-	-	橙 橙	良	緻密で精選された粘土を使用。
78	12区 3層	須恵器 椀	12.4	-	-	-	灰 灰	良	緻密で精選された粘土を使用。
79	13区 Pit37	須恵器 坏 蓋	11.8	-	-	-	灰白 灰白	良	～0.5mm 大の砂粒を僅かに含む。
80	13区 Pit37	土師器 坏	17.1	-	-	-	橙 橙	良	緻密で精選された粘土を使用。
81	13区 SK36	土師器 鍋	24.6	-	-	-	浅黄 浅黄	良	0.5～1mm 大の砂粒を多く含む。
82	13区 SK39	弥生土器 甕	-	-	-	13.4	橙 橙	良	1～3mm 大の砂粒を多く含む。
83	13区 SK39	須恵器 坏 蓋	-	-	-	-	灰白 灰白	不良	～0.5mm 大の砂粒を多く含む。
84	13区 SK39	須恵器 坏 蓋	12.6	-	-	-	灰 灰	良	～1mm 大の砂粒を僅かに含む。
85	13区 SK39	須恵器 坏 身	13.4	3.2	-	9.0	灰 灰	良	～0.5mm 大の砂粒を多く含む。
86	13区 SK39	須恵器 椀	15.6	-	-	-	灰白 灰白	不良	～0.5mm 大の砂粒を多く含む。
87	13区 SK39	須恵器 壺	-	-	-	8.0	灰白 灰白	不良	0.5～1mm 大の砂粒を多く含む。
88	13区 SK39	須恵器 壺	-	-	-	11.6	灰黄 灰黄	不良	緻密で精選された粘土を使用。
89	13区 SK39	土師器 椀	-	-	-	14.0	橙 橙	良	緻密で精選された粘土を使用。
90	13区 SK39	土師質土器 鍋	32.4	-	-	-	にぶい黄褐 にぶい黄褐	良	0.5～1mm 大の砂粒を多く含む。

番号	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)				色調 内面 / 外面	焼成	特徴
			口径	器高	胴径	底径			
91	13区 3層	須恵器 坏 蓋	13.6	-	-	-	灰白 灰白	不良	緻密で精選された粘土を使用。
92	13区 3層	須恵器 壺	-	-	-	11.0	灰白 灰	やや不良	緻密で精選された粘土を使用。
93	13区 表土	須恵器 坏 蓋	-	-	-	-	灰 灰	良	～0.5mm 大の砂粒を多く含む。
94	14区 3層	須恵器 皿	19.6	1.4	-	16.5	灰白 灰白	やや不良	～1mm 大の砂粒をまばらに含む。
95	14区 3層	須恵器 壺	23.8	-	-	-	にぶい黄橙 灰オリーブ	不良	～1mm 大の砂粒を含む。
96	14区 3層	須恵器 壺	17.0	-	-	-	灰褐 黒褐	良	～0.5mm 大の砂粒を多く含む。
97	14区 3層	須恵器 壺	9.2	-	-	-	灰白 灰白	良	～0.5mm 大の砂粒を多く含む。直口壺の可能性有。
98	14区 3層	須恵器 壺	9.2	-	-	-	明青灰 明青灰	良	緻密な粘土を使用。直口壺ないしは提瓶の可能性有。
99	14区 3層	須恵器 椀	-	-	-	6.8	灰白 灰白	不良	～1mm 大の砂粒を多く含む。
100	14区 3層	須恵器 壺	-	-	-	9.6	黄灰 黄灰	良	～0.5mm 大の砂粒を多く含む。
101	14区 3層	須恵器 壺	-	-	-	7.6	灰 暗灰	良	緻密で精選された粘土を使用。
102	14区 3層	土師器 蓋	20.4	-	-	-	にぶい黄橙 橙	良	～0.5mm 大の砂粒を含む。
103	14区 3層	土師器 椀	-	-	-	-	灰黄褐 灰黄褐	やや不良	
104	14区 3層	土師質土器 甕	16.0	-	-	-	橙 にぶい橙	不良	～0.5mm 大の砂粒を多く含む。
105	14区 3層	土師質土器 甕	23.6	-	-	-	にぶい褐 にぶい褐	良	0.5～2mm 大の砂粒を含む。
106	14区 3層	土師質土器 甕	17.8	-	-	-	にぶい黄橙 にぶい黄橙	やや不良	0.5～1mm 大の砂粒を含む。
107	14区 3層	土師質土器 甕	24.8	-	-	-	明赤褐 明赤褐	良	0.5～2mm 大の砂粒を多く含む。
108	14区 攪乱	須恵器 坏 蓋	-	-	受部径 11.0	-	灰赤 灰赤	良	
109	14区 攪乱	須恵器 坏 蓋	13.3	-	-	-	灰 灰	良	～0.5mm 大の砂粒を僅かに含む。
110	14区 表探	土師器 坏	10.0	-	-	-	にぶい黄橙 にぶい黄橙	良	0.5～1mm 大の砂粒を含む。
111	14区 攪乱	土師器 蓋	15.4	-	-	-	橙 橙	良	0.5～3mm 大の角礫を含む。
112	14区 攪乱	土師器 椀	18.4	-	-	-	にぶい橙 にぶい橙	良	
113	15区 3層	須恵器 坏 蓋	14.0	-	-	-	黄灰 黄灰	良	
114	15区 3層	須恵器 椀	12.8	-	-	-	灰 暗オリーブ灰	良	
115	15区 3層	須恵器 壺	-	-	15.8	-	灰 灰	良	～0.5mm 大の砂粒をまばらに含む。
116	15区 表探	須恵器 椀	14.8	-	-	-	灰 灰	良	
117	15区 表探	青磁 碗	17.2	-	-	-	オリーブ灰 オリーブ灰	良	
118	15区 表探	土師質土器 羽 釜	25.2	-	-	-	橙 橙	良	1～3mm 大の砂礫をまばらに含む。
119	16区 3層	須恵器 坏 蓋	12.4	-	-	-	灰 灰	やや不良	
120	16区 3層	須恵器 坏 蓋	-	-	-	-	灰オリーブ 灰オリーブ	良	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)				色調 内面/外面	焼成	特徴
			口径	器高	胴径	底径			
121	16区 3層	須恵器 椀	14.2	-	-	-	灰白 灰白	不良	
122	16区 表採	丸瓦	-	-	-	-	灰黄 灰黄	良	
123	17区 Pit91	須恵器 椀	13.2	-	-	-	灰白 灰白	良	
124	17区 3層	須恵器 壺	-	-	-	8.1	灰 灰	良	
125	17区 3層	須恵器 壺	-	-	-	6.0	灰 灰	良	
126	17区 3層	土師器 椀	-	-	-	10.6	にぶい黄橙 橙	良	～0.5mm大の砂粒を含む。
127	18区 Pit78	須恵器 皿	17.0	-	-	-	灰黄 灰黄	良	
128	18区 SK81	弥生土器 甕	17.4	-	-	-	にぶい黄橙 にぶい黄橙	良	
129	18区 表採	須恵器 坏身	13.5	3.4	-	10.4	灰 灰	良	
130	19区 Pit103	須恵器 坏身	17.4	-	-	-	灰 灰	良	
131	19区 3層	須恵器 椀	14.4	-	-	-	灰白 灰白	不良	
132	19区 3層	須恵器 坏蓋	14.4	-	-	-	灰 灰白	良	
133	20区 Pit125	須恵器 坏蓋	14.2	-	-	-	灰白 灰白	良	
134	20区 Pit129	土師質土器 鍋	32.2	-	-	-	橙 橙	良	～0.5mm大の砂粒を多く含む。
135	20区 3層	須恵器 壺	9.0	-	-	-	黒褐 黒褐	良	内外面に自然釉が付着。
136	20区 3層	土師質土器 鍋	15.2	-	-	-	にぶい黄橙 にぶい黄橙	良	内外面のハケ目が顕著である。
137	21区 3層	須恵器 壺	18.0	-	-	-	灰白 灰	良	広口壺の可能性有。
138	21区 3層	須恵器 壺	11.2	-	-	-	灰 灰	不良	広口壺の可能性有。
139	21区 3層	土師器 椀	14.1	-	-	-	浅黄 橙	良	
140	21区 3層	青磁 碗	-	-	-	5.5	灰白 灰白	良	高台内は無施釉。
141	21区 3層	白磁 碗	12.4	-	-	-	灰白 灰白	良	
142	22区 3層	須恵器 坏身	14.0	3.5	-	10.2	灰黄 灰黄	良	
143	23区 1層	青磁 碗	-	-	-	6.8	明緑灰 明緑灰	良	
144	24区 3層	土師器 皿	11.0	1.7	-	5.0	橙 灰白	良	
145	25区 Pit163	土師質土器 鍋	31.6	-	-	-	浅黄 暗灰黄	良	～0.5mm大の砂粒を多く含む。
146	25区 SK160	須恵器 甕	-	-	-	-	灰白 灰白	不良	
147	25区 SK161	須恵器 坏蓋	-	-	-	-	にぶい黄橙 淡黄	不良	
148	25区 SK161	須恵器 坏身	19.4	-	-	-	灰白 灰	良	
149	25区 SK164	須恵器 坏蓋	-	-	-	-	灰オリーブ 灰	不良	
150	25区 SK164	須恵器 坏蓋	12.6	-	-	-	灰 灰	良	

番号	遺構 層位	器種 器形	法量 (cm)				色調 内面 / 外面	焼成	特 徴
			口径	器高	胴径	底径			
151	25区 SK164	須恵器 壺	-	-	-	7.0	灰 灰	良	
152	25区 SK164	土師器 坏	-	-	-	7.0	橙 明赤褐	不良	
153	25区 SK165	土師器 坏	11.4	2.7	-	6.0	橙 浅黄橙	良	
154	25区 SD176	土師器 坏	-	-	-	8.6	浅黄橙 明黄褐	良	
155	25区 2層	須恵器 坏 蓋	13.8	-	-	-	灰白 灰白	良	
156	25区 3層	須恵器 坏 身	13.0	-	-	-	灰 灰	良	
157	25区 3層	土師器 坏	14.6	5.0	-	7.0	淡黄 淡黄	不良	～ 0.5mm 大の砂粒を含む。
158	25区 西壁 TR1	須恵器 壺	17.6	-	-	-	灰 灰	良	
159	25区 西壁 TR1	須恵器 甕	-	-	-	-	灰 灰	良	0.5～1mm 大の砂粒を多く含む。
160	26区 SX170	土師器 坏	9.6	3.4	-	6.6	浅黄橙 浅黄橙	良	
161	28区 3層	白磁 碗	13.8	-	-	-	灰白 灰白	良	
162	28区 表採	須恵器 坏 蓋	-	-	-	-	灰 灰	良	
163	28区 攪乱	須恵器 坏 身	-	-	受部径 13.8	7.6	灰 灰褐	良	
164	29区 3層	須恵器 坏 蓋	15.0	-	-	-	灰 灰	やや不良	
165	30区 3層	須恵器 碗	11.8	-	-	-	灰白 灰白	不良	
166	30区 3層	須恵器 坏 身	10.6	-	-	-	灰白 灰白	良	
167	30区 3層	須恵器 坏 身	14.2	-	-	-	灰 灰	不良	
168	30区 3層	須恵器 壺	11.2	-	-	-	灰 灰	良	
169	30区 3層	須恵器 甕	-	-	-	-	灰 灰	良	
170	30区 3層	土師器 坏	14.6	3.0	-	9.8	灰黄 灰黄	不良	

写 真 图 版



第1期調査1区柱穴列完掘（東より）

PL.2



第1期調査1区完掘（南より）



第1期調査1区北壁土層（東より）



第1期調査1区北壁土層（西より）



第1期調査1区東壁土層



第1期調査1区柱穴列東端



第1期調査1区柱穴列西端



第1期調査2区完掘（北より）



第1期調査3区9層中検出遺構完掘（北より）



第1期調査3区9層中検出 Pit9 土層



第1期調査3区9層中検出 Pit10 土層



第1期調査3区13層上面検出遺構完掘（北より）



第1期調査4区検出遺構完掘（西より）



第1期調査5区SD34 土層



第1期調査5区SD34 ①完掘



第1期調査5区SD34 ②完掘



第1期調査5区SD34 ③完掘

PL.4



第1期調査6区SD35土層



第1期調査6区SD35完掘



第1期調査7区完掘（南より）



第1期調査7区東壁土層



第1期調査7区 Pit36 礫出土状況（北より）



第1期調査8区西壁土層



第1期調査8区北壁土層



第1期調査8区北壁土層中央



第1期調査8区完掘（西より）

PL.6



第1期調査9区北壁土層



第1期調査9区北壁土層中央



第2期調査調査前風景1



第2期調査調査前風景2



第2期調査10区完掘（西より）



第2期調査11区完掘（西より）



第2期調査12区完掘（南より）



第2期調査13区完掘（北より）



第2期調査14区完掘（西より）



第2期調査15区完掘（西より）



第2期調査16区完掘（北より）



第2期調査17区完掘（北より）



第2期調査18区完掘（北より）



第2期調査19区完掘（北より）



第2期調査20区完掘（西より）



第2期調査21区完掘（西より）



第2期調査22区完掘（南より）



第2期調査23区完掘（東より）



第2期調査23区拡張区完掘（東より）



第2期調査23区検出遺構（西より）



第2期調査24区完掘（南より）



第2期調査25区西壁土層



第2期調査26区完掘（東より）



第2期調査26区SX170完掘



第2期調査 25区完掘（北より）



第2期調査26区遺物番号160出土状況



第2期調査27区完掘（北より）



第2期調査27区西壁土層



第2期調査28区完掘（西より）



第2期調査29区完掘（南より）



第2期調査29区遺物番号164出土状況



第2期調査30区完掘（北より）



第2期調査30拡張区完掘（北より）



9区5層出土遺物 (67)

67



26区SX170出土遺物 (160)

160

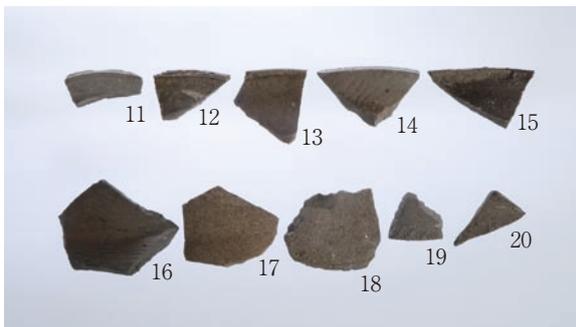
PL.12



1区 Pit62 (1), 5層 (2・3), 1層 (4～10) 出土遺物 表



1区 Pit62 (1), 5層 (2・3), 1層 (4～10) 出土遺物 裏



1区 1層 (11～20) 出土遺物 表



1区 1層 (11～20) 出土遺物 裏



1区 1層・表採 (21～30) 出土遺物 表



1区 1層・表採 (21～30) 出土遺物 裏



1区 1層 (31～38), 2区 Pit4 (39) 出土遺物 表



1区 1層 (31～38), 2区 Pit4 (39) 出土遺物 裏



5区SD34 ① (40~42), ② (43・44), ③ (45), 6区SD35 (46)
出土遺物 表



5区SD34 ① (40~42), ② (43・44), ③ (45), 6区SD35 (46)
出土遺物 裏



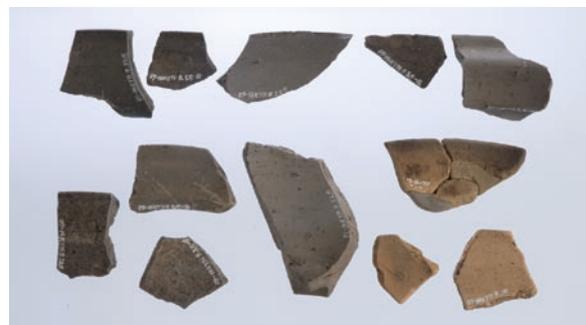
7区4層 (47~53), 8区5層 (54~56), 1層 (57)
出土遺物 表



7区4層 (47~53), 8区5層 (54~56), 1層 (57)
出土遺物 裏



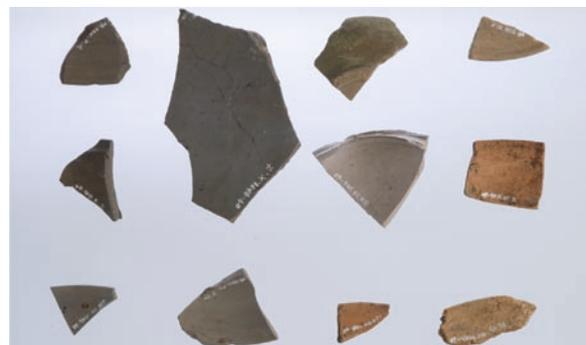
9区5層 (58~66・68・69), 1層 (70) 出土遺物 表



9区5層 (58~66・68・69), 1層 (70) 出土遺物 裏



10区3層 (71~73), 表採 (74), 11区3層 (75), 表土・
表採 (76・77), 12区3層 (78), 13区Pit37 (79・80),
SK36 (81) 出土遺物 表



10区3層 (71~73), 表採 (74), 11区3層 (75), 表土・
表採 (76・77), 12区3層 (78), 13区Pit37 (79・80),
SK36 (81) 出土遺物 裏

PL.14



13区SK39 (82～90), 3層 (91・92), 表土 (93)
出土遺物 表



13区SK39 (82～90), 3層 (91・92), 表土 (93)
出土遺物 裏



14区3層 (94～101) 出土遺物 表



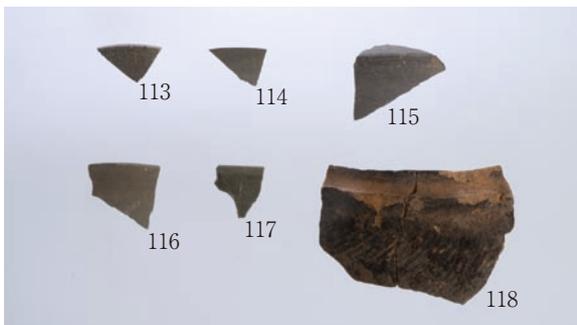
14区3層 (94～101) 出土遺物 裏



14区3層 (102～107), 表採・攪乱 (108～112)
出土遺物 表



14区3層 (102～107), 表採・攪乱 (108～112)
出土遺物 裏



15区3層 (113～115), 表採 (116～118) 出土遺物 表



15区3層 (113～115), 表採 (116～118) 出土遺物 裏



16 区 3 層(119 ~ 121), 表採(122), 17 区 Pit91(123), 3 層(124 ~ 126) 出土遺物 表



16 区 3 層(119 ~ 121), 表採(122), 17 区 Pit91(123), 3 層(124 ~ 126) 出土遺物 裏



18 区 Pit78(127), SK81(128), 表採(129), 19 区 Pit103(130), 3 層(131・132) 出土遺物 表



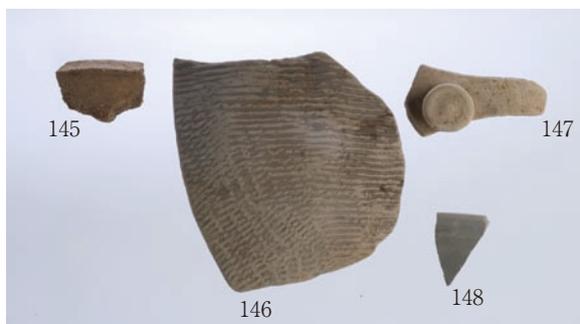
18 区 Pit78(127), SK81(128), 表採(129), 19 区 Pit103(130) 3 層(131・132) 出土遺物 裏



20 区 Pit125(133), Pit129(134), 3 層(135・136), 21 区 3 層(137 ~ 141), 22 区 3 層(142), 23 区表土(143), 24 区 3 層(144) 出土遺物 表



20 区 Pit125(133), Pit129(134), 3 層(135・136), 21 区 3 層(137 ~ 141), 22 区 3 層(142), 23 区表土(143), 24 区 3 層(144) 出土遺物 裏



25 区 Pit163(145), SK160(146), SK161(147・148) 出土遺物 表



25 区 Pit163(145), SK160(146), SK161(147・148) 出土遺物 裏

PL.16



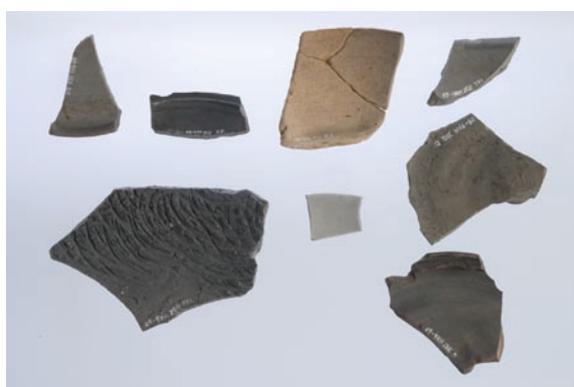
25区SK164 (149~152), SK165 (153), SD176 (154)
出土遺物 表



25区SK164 (149~152), SK165 (153), SD176 (154)
出土遺物 裏



25区2層 (155), 3層 (156・157), 西壁TR (158・159),
28区3層 (161), 表採・攪乱 (162・163) 出土遺物 表



25区2層 (155), 3層 (156・157), 西壁TR (158・159),
28区3層 (161), 表採・攪乱 (162・163) 出土遺物 裏



29区3層 (164), 30区3層 (165~170) 出土遺物 表



29区3層 (164), 30区3層 (165~170) 出土遺物 裏

報告書抄録

ふりがな	はらいせき							
書名	原遺跡							
副書名	県立山田養護学校寄宿舍改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第112集							
編著者名	松本安紀彦・早田勉・辻康男・斉藤紀行・馬場健司							
編集機関	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1							
発行年月日	平成22年3月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はらいせき 原遺跡	こうちけん 高知県 かみし 香美市 とさやまだちょう 土佐山田町 やまだ 山田1361	39212	249638	33° 36' 1"	133° 41' 28"	2007.12.17 ～ 2008.2.15 ・ 2009.5.18 ～ 2009.7.17	1,144.9㎡	県立山田養護学校寄宿舍改築に伴う発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
原遺跡	集落跡	弥生時代 古代 ～ 中世	包含層 柱穴列 柱穴 土坑 溝		弥生土器 須恵器 土師器 土師質土器 青磁 白磁	弥生時代から中世までの集落遺跡である。本調査における主たる時代は、古代から中世であった。		
要約	<p>原遺跡は、物部川右岸の扇状地状に形成された弥生時代から中世にかけての集落遺跡である。昭和の時代に、山田養護学校関連施設の開発工事に伴って発掘調査が二度行われ、今回は三度目の発掘調査となる。</p> <p>二期に及んだ今回の調査の結果、遺物は古代の土師器・須恵器が多く出土し、特筆すべきものとして黒色土器・緑釉陶器が挙げられる。また、中世の青磁・白磁といった貿易陶磁器の他、土師質の供膳具である坏・小皿及び煮炊具である羽釜が出土した。遺構は、柱穴・土坑・溝等が検出されている。注目すべきは第1期調査で検出された柱穴列と溝であって、これらの遺構群の北と南では、遺構の密度が全く異なる様相が明らかとなった。</p> <p>柱穴列と溝が土地境界の北限を示していると考えれば、それらの南側は集落の範囲として考えられる。よって、土地の境界のあり方及び土地利用形態そのものを考える上で重要な資料を提示したと言える。</p>							

本書作成データ

ハード：iMac/2.16GHz Intel Core 2 Duo

システム：MacOSX (10.4.11)

ソフト：Adobe PhotoshopCS3 (ver.10.0.1) Adobe IllustratorCS3 (ver.13.0.3) Adobe IndesignCS3 (ver.5.0.4)

フォント：モリサワ OTF

プリンタ：FUJIXEROX DocuPrintC3050 EPSON LP-9000C (原稿・図面・写真校正)

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 112 集

原 遺 跡

県立山田養護学校寄宿舍改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2010 年 3 月 30 日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

〒783-0006 南国市篠原 1437-1

TEL.088-864-0671

印刷 (有)西村謄写堂

